人を好きになる理由

はすみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
人を好きになる理由

【Ｎコード】
Ｎ７６１１Ｗ

【作者名】
はすみ

【あらすじ】
幼い頃の出来事がキッカケで男嫌いになってしまった蓮花。
そんな蓮花がどんな人にどんな風に惹かれていくのか…

第1話：蓮花の過去（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第1話：蓮花の過去

木内蓮花（キウチレンカ）、１６歳、男嫌い。

蓮花　小４　夏

父：蓮花、明日からおじいちゃんとおばあちゃんと暮らす事になるから…

小４だったが、状況を察するのに時間は要らなかった。父は新しい女（ひと）と生活するらしい…
母は小さい時に病気で亡くなった。
父までも…どうしょうもない寂しさとなんとも言えない感情がこみ上げていた。
夏の日差しが強く、蝉の泣き声が頭に響いていた…

それから６年ー

きっと私が意味もなく男子を嫌いなのはこれが理由だろう…

だけど…

第2話：高校の友人（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第2話：高校の友人

蓮花：ばぁちゃん、行ってきま～す！

祖母：蓮花、お弁当！

蓮花：あ～！ありがと～う！行ってきま～す！

家を慌ててでた蓮花は駆け足で学校へ向かった。学校まで全力疾走！なんとか靴箱到着！

蓮花：（セーフッ！）は～っ間に合ったー。

ふっと前を見ると…
中学の同級生、田中秀（タナカシュウ）が立っていた。

田中：木内、おはよう！
田中が笑顔で言う。

蓮花：おはよっ！

すると後ろから声が…中学の同級生、加藤美里だ。

美里：2人ともおっはよ～！遅刻しちゃうよ～！

蓮花：あ！急がなくちゃ！
田中くんまたね！

田中：おぅっ！

田中、美里、蓮花は中学3年の時に同じクラスだった。3人とも同じ高校、同じ学科に進み、田中は高校で4組、美里、蓮花は3組。クラスは別々になった。

美里：蓮花、今日数学テストだねー！何も勉強してないしー！

すると、クラスの男子が会話に入ってきた。
女子人気がすごいクラスのイケメン、瀬野颯真（セノソウマ）だ。

瀬野：俺もやってねー！成績悪かったら補習らしいぜー！

美里：まじ！？

蓮花はそっぽ向いたまま、しらっとしてる。

瀬野：相変わらず、木内はそっけないなぁ…

美里：あんたにだけじゃないから、気にすんなって～（笑）！

瀬野：お前なんでそんな愛想ねぇの？

蓮花：何でもいいよ・・・あん・・なんでもない。

蓮花は『あんたに関係ない』まで言いたかったが止めた。こういう言葉で人を傷つける度に罪悪感でいっぱいになる自分が嫌で、言わないでいいように苦手な男子を極力避けた。

ガラガラッ…教室のドアが開いた。

先生：オラー！席につけ！テスト始めんぞ～！

第3話：クラスメイト瀬野（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第3話：クラスメイト瀬野

美里：あ～テスト最悪だったわぁ（泣）。そういえば蓮花さ、今日の放課後球技大会実行委員の打ち合わせだっけ？

蓮花：そうだ～！忘れてた（泣）。美里先帰っててね、適当に行ってくるよ。

瀬野：放課後は危険がいっぱいだから俺待っててやるよ。

蓮花：余計な事しないで。

美里：あはは、瀬野ドンマイ（笑）！あんた補習で先生に呼ばれてなかった？早くいきなよ。

瀬野：だ～！！なんで俺だけ補習なんだよ！

瀬野は叫びながら、教室を去っていった。

―そして放課後―

場所は、体育準備室。蓮花は早々と準備室に入り、窓際の前から3番目の席に座った。

すると、準備室のドアがガラガラっと空き、田中秀（タナカシュウ）が入ってきた。

蓮花を見かけた田中は、蓮花の隣に座った。

蓮花：田中君も委員なの！？

田中：うん。球技大会男子はサッカーあるだろ?俺部活やってっから必然的に（笑）。よろしくな！

蓮花：うん。よろしく。

球技大会は女子がバレーで男子はサッカー、話し合いも着々と進んでいった。

田中：クラス離れるとあんま話できないな。

蓮花：うん、そうだね。中学ん時は同じクラスだったからね。朝とか・・・移動教室とかくらい?

田中：木内の笑顔、高校入ってからあんま見てねーな。見ると元気になんだけどなぁ。

田中がボソッと言う。

蓮花：え?

田中：なんでもねぇ。こっちの話！！

蓮花：へんなのっ（笑）

田中：へへっ

2人とも話をしていると、いつの間にか委員が終わった。

田中：部活だ～。木内は帰るのか？

蓮花：うん。部活頑張ってね。

田中：おうっありがとなー！（笑顔）

委員が終わって話をしていると、ドアの方から声がした。田中と同じクラスの佐藤（サトウタク）拓だ。

佐藤：田中、委員終わったか？部活行こうぜっ！

田中：おー、あ、木内、こいつ同じクラスの佐藤な。

蓮花：よろしく・・

すこしたどたどしい挨拶をする蓮花。

佐藤：よろしくー！

田中：じゃ、俺ら部活行くな！気をつけて帰れよ！

蓮花：ありがとう、また明日（笑顔）。

田中は久しぶりにまた蓮花の笑顔を見て、つられて笑顔になった。

佐藤：あの子、男子嫌いで有名な3組の木内蓮花だろ?綺麗だな～。つうか、お前とは話すのな。

田中：おー、中学一緒だったからなぁ。

少し意味ありげな顔をしながら佐藤に言った。

佐藤：なんだ、お前に気を許してるってやつか!

田中：なんだよ、うるせぇよっ。そんなんじゃないんだ・・・そんなんじゃないんだよ・・・。

田中がまた複雑な顔をした・・・

第４話：中学の時のガールズトーク（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第4話：中学の時のガールズトーク

教室―

美里：そういえばさ、昨日委員の前に田中に会ったよ。あいつも実行委員なんだって？

蓮花：うん。

蓮花の回想―中学生―

クラス全員の英語の宿題ノートを持って、少しフラフラしながら廊下を歩く蓮花。

蓮花：（おっも～、だけど往復したくないし！！がんばれあたし！！）

そこに田中が通りかかる。部活道具を忘れたので教室に取りに帰る途中らしい。

田中：職員室までだろ？半分かせよ。

蓮花：いいよ！自分でやるから！

聞かず、3分の2くらいを奪い取る田中。

蓮花：あ！！

田中：先行くぞ！

蓮花が男子が苦手だとわかっている田中は、いつも距離を置きながら蓮花を手伝った。田中はみんなに優しかった。そんな中で男子が苦手だという蓮花を田中なりに理解しての行動だった。

そして次の日―

蓮花は朝の靴箱で田中に遭遇。

蓮花：田中くん、おはよう・・・あの・・・昨日はありがとう。

田中の目をみてお礼を言う。

田中：おはよ！俺、ほせ～けど結構力はあるぞ（笑）。力アピールがしたかったんだ！

蓮花：ぷっ！なぁにそれ！

普段、男子と話す時にあまり笑わない蓮花は口角を上げて笑いなが

ら言った。その笑顔を見て田中は少し照れた。

その日の夕方。秋の真っ赤な夕日が3階の教室の窓から奇麗に見えた。部活をしている人の声が小さく聞こえてくる。蓮花は窓際に座って友達とガールズトークをしていた。

友達：蓮花ってさ！すごい人気あるのにさ、男子とほっとんど話さないじゃん！告白されてもさ、片っぱしからフリまくってるし！なのに田中とは話すよね！

数人の女子が蓮花を囲みながら話をしている。

蓮花はおどおどしながら言った。

蓮花：そ・・そうかな。

友達：だけどさ～！田中って、全体的に普通だよね～（笑）声だけはでかいけど！てか、名前も田中だし！！普通～。蓮花が男として意識する訳ないっか！唯一男を感じないから、話せるのかもー！

周りの女子：そうかも！それだ！

蓮花：ち・・ちが・・

その時、教室のドアを開ける音がした。体育祭の打ち合わせで職員室に行っていた、田中と美里が教室に戻ってきたのだ。
蓮花は声がでなかった・・・。

田中：・・普通ってなんだよ！俺ラッキーじゃん！木内男嫌いだろ？じゃぁ俺それに入ってねぇって事は嫌われてねー！ラッキ！

全部聞こえていたらしい・・・

田中は笑顔で言った。

美里：どぉんだけポジティブなんだか！今から部活でしょ？早く行って男磨いてこい！！

大笑いしながら美里は言った。周りの女子達も一緒に笑う。

田中：おぅ、言われなくても行くわ！んじゃ、木内また明日な！

蓮花：・・・・・・また、明日・・・。

田中は、教室を後にし部活へ行った。周りにいた女子達も教室を後にした。

友達：美里、蓮花またね～！

蓮花は泣き出しそうな顔をしていたが、それを止め、何も言わず、美里と一緒に教室を後にした。

蓮花：美里、うちらも帰ろ！

美里：・・・うん、もう秋だから寒いしね。早く変えろ。そういえばね、今日夕日がすっごい真っ赤で奇麗だったよ。

次の日田中は、普通通り蓮花に挨拶をしてきた。

田中：木内おはよ！
蓮花：・・・！！

蓮花はその場から消えてしまいたかったが、田中の目をまっすぐ見て挨拶をした。

蓮花：田中くんおはよう・・・それから・・・ありがとう。

この時、何を言っても言い訳になる様な気がした蓮花は、それ以外に何も言わなかった。

第5話：瀬野の女装（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第5話：瀬野の女装

蓮花：美里、明後日から球技大会じゃん。なんか、体育の小野（先生）が張り切っててさ～、垂れ幕作るらしいのね、それ、今日の放課後実行委員で作るんだって・・・。

美里：え～、迷惑ぅ～（笑）。って委員ほとんど男子じゃなかった？あんた大丈夫なの？手伝いたいんだけどさ、あたし今日からバイト入っちゃってて、手伝えないんだ！ごめんっ蓮花！

蓮花：ううん、いいの。ありがと美里。３人女子いるんだけど、１人はバレー部で部活でしょ？もう１人は陸上部で部活・・・部活の人はそれ終わってからだから、まぁ・・・仕方ないやね！頑張るよ！

そこにクラスの瀬野が入ってきた。

瀬野：垂れ幕作んのか？俺手伝おうか？

蓮花：いいっ！！

美里：あんたも男子じゃん・・・

美里はあきれた顔で言った。

瀬野：つうかさ、そんな無理して行くなよ。ブッちぎればいいだろ

～忘れてたとか何とか言ってさぁ。

蓮花：そういうの、嫌いなの。美里、じゃぁ、行ってくる！！バイト頑張って！

美里：うん。

蓮花は教室を後にし、準備室へ向かった。

美里：あの子、小さい事でもさ、やっちゃったもんは最後までキッチリするタイプなんだ。

瀬野：そっかぁ。

美里：じゃぁ、あたしバイトだから！また明日！

瀬野：おぅ・・またな。

準備室―

蓮花が準備室のドアをガラガラっと開けた。

蓮花：（うわぁ・・男子だけ・・・吐きそう・・・ダメダメ！！やる事やって早く帰ろっ！）

小野（先生）：お、３組の木内か、人数足りなくて大変だったんだ。文字に色塗ってくれるか？

蓮花：はい。

蓮花は、他の男子が布を切ったり、木を切ったりしている中で文字を書く担当になった。筆を取り文字に色を塗っていった。
蓮花が準備室に入って１時間くらいした時・・・準備室のドアがガラッと開いた。

蓮花：あれ？あんな女子いたっけ・・・？・・・・！！！！

小野（先生）：おまえ・・・確か３組の瀬野・・・だよな・・・。

準備室にいた、他の委員がドッと笑った。なんと、女装した瀬野が立っている。長いウィッグをつけて、スカートをはいていた。

瀬野：シャレだよシャレ！！手伝えればなんでもいいだろ！？

小野（先生）：まぁ、いいが、そういう趣味か？

瀬野：っちっげぇよ！！

周りの委員：なんだよ瀬野！！おまえ笑かすわー！！アハハハハ！！

瀬野は、つかつか歩き、蓮花の隣で筆を取り、一緒に作業を始めた。

蓮花：ちょ・・・なんなのあんた！どうしたのそのスカート！

瀬野：あ？演劇部から借りてきた。

蓮花：ぷっ！！ハハハハ！！

蓮花は、お腹を押さえながら笑った。

瀬野は、蓮花の笑顔を見て驚いた。

瀬野：（なんだ・・・笑う事もあるのか・・・）うるせっ、早くやるぞ！！

蓮花：う・・・うん・・ぶくくっ・・（笑）

瀬野：笑うなっ！結構綺麗だろ！！

蓮花：確かに綺麗！でも無理ー！（笑）

瀬野は恥ずかしかったが、蓮花の笑顔を見て、なんだか満足だった。
そして、無事に垂れ幕が完成した。

小野（先生）：よ～し、みんなありがとな！気をつけて帰れよっ。

瀬野：木内、送るぞ。

蓮花：ぶくくっ（笑）、いいよ。早く着替えてきなよ。ぶくくっ（笑）。

瀬野：いつまで笑ってんだよっ、ちょっと待ってろよ！

瀬野はそう言い残すと、着替えに準備室を後にした。

蓮花：あっと・・・瀬野っ・・あ、行っちゃった。

蓮花は帰る為靴箱へ向かって瀬野を待った。すると着替え終わった瀬野が来た。

瀬野：・・・待っててくれたのか・・・。

蓮花：あー、一応ね。

２人は歩きながら話し出した。

瀬野：送るよ。もう遅ぇし。

グラウンドではサッカー部が部活をしていた。

ディフェンス甘ぇぞ！！おい、もっとそこ攻めろ！（監督の声も響いている）

佐藤（田中のクラスメイト）：お、委員終わったみたいだぞ。あれ蓮花ちゃんじゃね？男子だらけの垂れ幕作成行ってたんだな。ボイコットしなかったんだ。

田中：・・あいつそういう奴じゃないんだ。

そういうと、佐藤が横を歩いている瀬野に気付いた。

佐藤：横にいるの3組のイケメン君瀬野だな。

田中：・・・・・。

田中は顔を伏せ、方向を変えて歩きだした。

佐藤：・・・・・・そういう事か・・・。

そして正門―

蓮花：送らなくていい！！あんた逆方向だし！！

瀬野：あー、わかったよー・・・また明日なぁ。

瀬野が歩きだす。

蓮花：瀬野！！

瀬野はびっくりして振り返る。基本男子には、『ねぇ』、『ちょっと』、『あのさ』で話掛ける蓮花が初めて名前で呼んだからだ。

蓮花：今日はありがとう。

蓮花はまっすぐ瀬野の目を見てお礼を言った。

瀬野：いや・・・

蓮花：瀬野、私ね、男子苦手なの少しずつなおればいいなって思ってんの。だからね、すぐには無理だけどね、ゆっくり頑張るよ。だからね・・・大丈夫だよ。本当にありがとう。

瀬野：そっか・・・今日の女装はウケ狙いだ！盛り上がるかなーと

思って冷やかしだよ。しかし、初めてな、木内がまともに話してくれんの。

瀬野は複雑そうに笑いながら言った。

蓮花：あはは。私も初めてだよ、女装までする人！じゃ、また明日！

瀬野：お、おぅ！！（笑顔）また明日な！！。

瀬野は蓮花の後姿を見送った。

瀬野：・・・・・。

瀬野は蓮花の実直さに少し戸惑うと同時に、今まで感じた事がないような気持ちになっていた。

第６話：瀬野のお願い（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第6話：瀬野のお願い

次の日―

美里：瀬野さん（↑バカにしている）、聞いたわよ（↑まだバカにしている）。

美里は呆れた表情で瀬野を見ながら言った。

瀬野：『さん』付けすんな・・・冷やかしか・・・・・昨日、あいつにお礼言われたんだ。

何やら遠くを見つめるような表情で瀬野は言った。

美里：お礼。ふぅん。

瀬野：多分、あいつ、あぁいう事止めてくれって言いたかったんじゃないのかなぁ・・・けど大丈夫だからありがとうって言われたよ・・・。

美里：っそっ。（蓮花らしいや・・・）・・・顔が曇ってるよっ。聞きたい事あんだったらぁ、本人に聞きなぁ。蓮花の男子嫌いはさ、あの子自身、自分の問題としてずっと悩んできてるからね。あの子自身が誰かにどうにかして欲しいとは思ってないし、だけど理由はどうあれ、女装までしたんでしょ?単純に蓮花も嬉しかったんじゃん?

てかさ、あんたさ、女子に不自由してないじゃん?なんでわざわざ

蓮花にちょっかいだすのよ。

瀬野：いや、あいつと普通に話ししてぇんだよ。なのに避ける避ける・・・。

そういうと、考え事をしながら教室を後にした。

美里：ていうか・・・あいつただのイケメンかと思ったら、結構人見る目あんじゃん。以外。
あぁいう体当たりタイプ初めてだね・・・田中と真逆か・・・大体の男子は蓮花の男子嫌い目の当たりにして去って行くのに・・・フフフフ。ふぅん。

美里は不気味な笑い方をした。

場所は体育準備室―

蓮花は昨日作った垂れ幕の整備をしているとドアがガラガラっと開いた。
ドアの方を見ると・・・

蓮花：瀬野。おはよ。

瀬野：おすっ。木内、昨日の・・・

蓮花：女装？（笑）もうしないでよねぇ、お腹よじれるから（笑）。

瀬野：いや、正直に言ってくれねぇか？・・・・・・あぁいうの苦手なんだろ？

蓮花：・・・・・・・・・・・・正直って・・・・・・・・・・。

蓮花は困った。しかし、瀬野がまっすぐこっちを見て聞いてくる。しばらくだまった後・・

蓮花：正直に言う・・・・・苦手！・・・だけど嬉しかったのは本当！だからお礼言った。

瀬野：そっか！

蓮花は拍子抜けした。

蓮花：何！？確認だったの！？

瀬野：あぁ。

蓮花：あそ。

蓮花は垂れ幕の整備を終わらせた。

瀬野：俺さ、木内がどんだけ男子苦手かわかんねぇ！何が嫌かもわかんねぇ。
そして、勘もそんなよくねぇ。距離の取り方とかいちいちめんどくせぇし。だからこれからは聞くぞ。そのかわり俺はへこたれねぇから聞いたら正直に答えろよ。
・・・じゃぁ関わるなとか言いたいんだろうが、俺は関わるぞ。

蓮花：何・・・

蓮花は何て応えていいか解らなかったが・・

蓮花：よくわかんないけど、瀬野にそこまで甘えられない・・・。あたし、何言葉にするかわかんないし、避ける以外思いつかない・・・避けるのが一番楽なのよ。中学ん時、それで失敗してんだよ。ひどい事言っちゃって、取り返しつかなくなるの・・・。

瀬野：まぁ、過去の事は俺はわからんが、今度は相手が俺だからな。言ったろ！そうして欲しいんだよ。俺は少々の事じゃへこたれねぇぞ。

蓮花：・・・・・。

すごく苦手だ・・・と心の中で葛藤があった。できれば即答で断りたいが、瀬野がまっすぐぶつかってくるので、避けられないと直感で思った。

蓮花：わかったよ・・・そうする・・・ように頑張るよ・・・。

瀬野：おし！！約束な！

第7話：距離感（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第7話：距離感

球技大会当日―

美里：っさぁ～！！勝つぞ！初戦は7組っしょ？

楓（クラスメイト）：美里ちゃん、元バレー部なんでしょ？頼りんなるわぁ～！

美里：まっかしといてぇ！じゃんじゃんアタックするよ！！おりゃ～！！（エアーアタック）

楓（クラスメイト）：美里ちゃんかっこいい☆

蓮花は遠い目で2人を見ている。

すると蓮花の真横に瀬野がきた。

瀬野：男子は初戦6組だな。

トーナメント表を見ながら瀬野が言う。蓮花はじぃ～っと肩を見て・・・瀬野がそれに気づいた。

蓮花：・・・近い・・・

瀬野：お？始まったな。わかったよ。離れますよ～。

蓮花：本当に大丈夫なの？

瀬野：あ？適当な返事こかれて、うわっつらな会話されるよりましだけど？

蓮花：そうなの？

瀬野：俺はな。

美里：何なにぃ、瀬野さん（↑バカにしている）また女装でもする気ぃ？

瀬野：お前いつまで女装ひっぱるんだよ！！！しつけーぞっ！！

美里：ハハハ！ごめんごめん。あ、初戦もうすぐだね。女子は午後からだから応援行くわ。あんたサッカーできんの？

瀬野：俺様の運動神経を甘くみるなよ！（片足を椅子に乗っけてちょっとポーズを決める瀬野）

美里、蓮花、楓：・・・・じゃ、応援行こっか！

瀬野：俺、選手だっつぅの！俺も行くわ！！

グラウンド―

男子３組ＶＳ６組のサッカー試合が始まった。

応援団：キャー！！瀬野くん頑張ってー！！！！

美里：うわっ。すっごい女子・・・あいつやっぱなんだかんだで人気あんなぁ。しかもあいつ本当に足早っ！！運動神経もいいのか・・・そらモテるわな。

蓮花：すご～い。そんなモテんの瀬野って。

楓（クラスメイト）：知らないの？入学初日から告られて結構噂んなってたよ。

美里：初日ぃ？もろ外見じゃんね。信じれん。

蓮花：美里、あたしちょっと委員の集まりがあるから、事務局行ってくるわ。

美里：ここいるから、終わったらおいでね。

蓮花：うん。

蓮花は事務局へ向かった。
委員がみんな集まっている。

田中：お、木内、今３組男子試合してんだろ？

蓮花：うん、してた。田中くんは午後からでしょ。

田中：おぅ、午後1番だな。木内も午後？

蓮花：うん、そう。

小野（先生）：え～、全員集まったかなぁ？委員は、各自責任持って審判と点数付するようにな！あと、全学年の集計を2人にやってもらうから、1年は木内頼むな！・・・あと・・・

すると、

田中：先生、俺やる！

小野（先生）：お？じゃぁ、田中頼むな。集計終わったら俺ん所来いよ。じゃぁ、解散～。

蓮花：田中くんいいの？

田中：あぁ、やりたかったから。

蓮花：ありがと。

田中：いや・・・そろそろ1試合終わる頃だから、点数聞いてくるわ！

蓮花：そうだね、じゃ、また後で！

田中は手を上げて笑顔でグラウンドへ行った。

蓮花は美里達の元へ向かった。

美里：お！蓮花！男子勝ってる！今３－０だよ！

蓮花：本当だ！

楓（クラスメイト）：内２点、瀬野が決めてるよ。

蓮花：へぇ、あ、また決めた！すごい４－０！？

ピー！！！試合終了のホイッスルと応援団の黄色い歓声がグラウンドに響いた。

蓮花：美里、あたしトーナメント表書きに行ってくる！

美里：忙しいね委員は。いってらっしゃい！

男子が帰ってきた。

瀬野：あれ？木内は？

美里：なんか、トーナメント表書きに事務局行ったよ。

瀬野：そっかぁ。

事務局―

事務局へ行くと、田中が先にトーナメント表を書きに来ていた。

田中：３組勝ったな！

蓮花：うん、そうみたい！試合ほとんど見れなかったけど（笑）。

田中はトーナメント表を記入し始めた。

田中：えぇっと、１組ＶＳ２組が・・２―１・・。

蓮花：あ、田中くん・・。

田中：どした？

蓮花：あ、あの、２組じゃなくて、３組に書いてるよ！！

田中：あ、本当だ・・・っ。

蓮花は笑いながら言った。２人の間に距離感はなく、普通に楽しそうに会話をしていた。
その様子を事務局に来た瀬野が遠くから見ていた。

瀬野：・・・・・。

第8話：宣戦布告（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第8話：宣戦布告

高橋（3組クラスメイト）：おい、瀬野なんかイライラしてね？

瀬野：俺が！？

高橋（3組クラスメイト）：してるだろ、何かあったのかよ～、次もシュート頼むよぉ～→。

瀬野：っだー！！！

高橋（3組クラスメイト）：おい！！落ち着けよ！！

瀬野：何で普通に会話できるんだよ！！！

高橋（3組クラスメイト）：ハ？・・・瀬野、病院行くか・・・？

場所は体育館―

蓮花：美里！ハイ！！

美里：おりゃー！！！

元バレー部の美里は、相手チームも引くくらいの掛け声でアタックをする。

蓮花：（・・・本番でもその掛け声なんだ・・・（－｜－；））

美里：おっしゃぁ！！！勝！！！！

楓（３組クラスメイト）：やった！男子も今試合やってる！これ勝てば決勝らしいよ！グラウンド行こう！

美里らはグラウンドに向かった。すると丁度試合終了ホイッスルがなった。

美里：あ、終わった！勝ったっぽくない？

蓮花：あ！！１－０で勝ちだよ！

楓（３組クラスメイト）：て事は、明日４組と決勝だね。４組サッカー部結構いるから強豪らしいよ～。

蓮花：そうかぁ。

瀬野：お！！見たか！！俺様の活躍を～！！

そう言いながら男子らが美里らの方へ寄ってきた。すると・・・

高橋（３組クラスメイト）：おい、瀬野、２組の女子が呼んでるぞ。

瀬野が振り向くと、高橋の後に女子が2人立っていた。

楓（3組クラスメイト）：なんか告白っぽくない・・・？

美里：お～ぉ。

瀬野はてくてく歩いて女子の元へ向かった。

蓮花：あいつ何であんなモテるのに彼女作らないんだろうね。

美里：なんでだろうね・・・。

蓮花：あたしまた事務局行ってくるわ！

美里、楓（3組クラスメイト）：いってらっしゃぁい！

蓮花がトーナメント表を記入、集計をしているとそこへ・・・

田中：早いなぁ木内。3組バレーもサッカーも勝ったろ？俺ら次決勝で3組とだわ。

蓮花：みたいねぇ。4組って強いらしいね。

田中：サッカー部多いからな。

蓮花：田中くん中学ん時から部活一筋だもんね。

田中：サッカーできれば飯いらねー！

蓮花：え！？

田中：そんな事もねぇか・・飯は大事だな。

蓮花：かなり大事でしょ（笑）。

2人が話しをしていると・・

瀬野：木内事務局忙しいのなぁ・・・

蓮花：あ、瀬野！田中くんうちのクラスの瀬野。

瀬野の事を名前で呼んだ蓮花に田中は少し驚いた。

田中：・・・次サッカーよろしく。

瀬野：こちらこそー負ける気はしねぇけどなぁ！

蓮花：瀬野、あんた初対面で失礼・・・（ー＿ー；）。

田中：いや、いいよ（笑）。

蓮花：瀬野、さっきの女子やっぱ・・・

瀬野：あ？気きなるか！

蓮花：いや、全然。聞いただけ。（きっぱり）

瀬野：あぁいうのばっかだよ・・・。

小野（先生）：田中、木内～、集計終わったかぁ？

蓮花：あ、あたしもってってくよ。

そういうと、小野先生の所へ集計表を持って行った。

瀬野：木内・・・田中・・だっけ？

田中：田中秀（タナカシュウ）、田中でいいよ。

瀬野：そっか、田中とだけは話すのな。俺なんかもろ避けられるぞ。

田中：あー・・そうか・・・羨ましいな・・・。

田中は下を向き、目を伏せながらボソッと言った。

田中：あいつ男子嫌いだろ？その中に俺入ってねぇんだ。特別っち

ゃ特別かな・・・。

瀬野：なんだそれ・・・つまりあれか、男として見られてねぇって事か？本人が言ったのか？

田中：いや、中学ん時ガールズトークを聞いた。

そういうと田中は席を立った。

田中：木内も瀬野とはなんだかんだで話すよな。

瀬野：頼んだんだよ。

田中：頼む？

瀬野：嫌なんだよ。理由もなく避けられんの。どんな言葉使っても構わねぇから本音で話せって言ったんだ。

田中：・・・・・。

瀬野：サッカー負けねぇからな！

田中：あぁ。

小野（先生）：田中！！ちょっとこれどうなってんだ？

小野先生に呼ばれた田中は、その場を去った。

瀬野：なるほどなぁ・・・。

瀬野は田中を見ながら独り言を言い、その場を去った。

田中：・・・・・・。

田中は去っていく瀬野の後姿を見ていた。

第９話：徳川家康ＶＳ豊臣秀吉（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第9話：徳川家康ＶＳ豊臣秀吉

決勝の日―

瀬野：美里、４組の田中ってどんな奴だ？

美里：・・・・田中？・・・ん～・・・・そうねぇ。

美里は腕を組んで深く考えて・・・

美里：徳川家康？

瀬野：おい、お前またバカにしてんのか・・・つくづくだな。お前に聞いた俺がアホだったよ。はよバレー行ってこい。

美里：いい感じで伝えてると思うんだけどねぇ～。蓮花～バレー行こ！

蓮花：勝てるかなぁ！（＾◇＾）！頑張ろうねぇ！

瀬野：（・・・・ったくあいつは何が徳川だよ。）応援行くからよ！

楓（クラスメイト）：緊張してきたねぇ～。

女子は体育館へ向かった。

瀬野：体育館俺らも向かうべ。・・・・・おい高橋、徳川家康っぽい奴ってなんだ？

高橋（クラスメイト）：は？なんだ急に。

体育館―

女子８組ＶＳ３組の試合が始まった。

女子は円陣を組、美里の掛け声で配置についた。

美里：おし！！行くぞ！！ファイ！！

女子：オー！！

高橋（クラスメイト）：お、頑張ってるぞ女子。美里すげぇな・・・そいえば、最近木内とよく話すよなお前。

瀬野：あぁ、ちょっとなぁ。

高橋（クラスメイト）：あいつ男子嫌いなのに、お前すげぇよな。さっきの徳川家康は言われたのかぁ？おまえは徳川家康タイプじゃねぇだろ（笑）！

瀬野：なんだ！？意味わかんのかよ！！！お前！！ていうか、意味あんのか！？

高橋（クラスメイト）：あれじゃねぇのか、鳴くまで待とうホトトギスと鳴かせてみ

ようホトトギスとかあるじゃねぇか。大体なんでそんな例えになったんだよ。

瀬野：・・・・・（美里よ、後で謝ろう）・・・徳川ってどっちだ！？

高橋（クラスメイト）：鳴くまで待とうだろ？

瀬野：・・・・そういう事か・・・。

そうして応援していると、女子の試合終了のホイッスルが体育館に響いた。試合結果は５－４で3組女子が勝った。

高橋（クラスメイト）：お～、すっげ。勝ったよ！

女子：キャ～！！

女子は全員で喜んだ。

美里：お～！！男子見てたぁ！？

男子：見てたぞ！！

瀬野：美里！！

美里：？

美里は瀬野の方を見た。

瀬野：さっきはすまん。わかった。徳川家康。

美里：あんたは～・・・・豊臣秀吉？

瀬野：秀吉か、だな、家康みたいには待てねぇな・・・鳴かないって言われても、もしかしたら鳴くかもしれねぇだろ。

美里：・・・そうだね。

女子：午後からは男子決勝だね！！！どっちも優勝だったりして！！！男子頑張ってよね！！

女子らが男子ら向かって、騒ぎながら言っていた。

第１０話：瀬野の感情（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第１０話：瀬野の感情

夏の日の夕方、球技大会の後片付けが始まった。

美里：結局男子４組に負けちゃったねぇ！瀬野も相当頑張ってたけど現役サッカー部３人もいちゃぁ勝てないわなぁ。

蓮花：そうだね。男子が、というか、瀬野の悔しがり半端なかったね。

楓（クラスメイト）：瀬野くんの応援団も泣いてたしねぇ。そいえば、今日は打ち上げあるしょ？なんかカラオケらしいけど。２人とも行くの？

美里：うん行くよ。打ち上げは楽しみ☆（＾◇＾）女子は優勝したし！いったん帰るでしょ？

蓮花：うん、そうする。

１６：００－カラオケボックス

３組のクラス全員がワイワイ騒ぎ、高橋（クラスメイト）は歌を歌っていた。

美里：つか、高橋歌へたくそー・・・。

瀬野：おい、木内！！お前ちゃんと男子応援してたんだろうな！４組（田中の）の応援してたんじゃあるまいな！

蓮花：うっさい！ていうか、近いし！離れてよねっ！ちゃんと応援

してたしっ。

美里：実力不足じゃん？（笑）。

そこに歌い終わった高橋が乱入してきて・・・

高橋：何だと美里ー！俺ら頑張ったんだぞー！

美里：まぁまぁ、女子は優勝できた訳だし？結果オーライって事で（＾◇＾）☆あの強豪って言われてた４組に２－１だったんだからさぁ。現役サッカー部３人もいたんでしょ？

高橋：何が結果オーライだ！！絶対次こそは勝ってやる！！！チクショー！！

美里：まぁ、コーラでも飲め！

高橋はコーラを一気飲みした。

美里、蓮花：！！ちょっ！！

高橋：ブホッ！！！！！

おもいっきり高橋の噴出したコーラが蓮花の洋服にかかった。

蓮花：！！！・・・・・・。

高橋：わりぃ木内・・・。

美里：最低。

ハンカチで拭きながら美里は言う。

蓮花：いいけど・・・よくないけど・・・まぁいいよ（ー＿ー；）。
気にしないで。

蓮花は席を立ち、トイレに向かった。そこで、洋服を吹いて、トイレから出てくると、ドアのそばに瀬野が寄りかかって立っていた。

蓮花：瀬野。

瀬野：や、あいつ悪気は全然なくて。すまん。

蓮花：・・・いいよもう。なんで瀬野が謝るの。

瀬野：なんとなく・・・男子代表。

蓮花：そ。

蓮花：そいえば瀬野ってモテるんだね。初めて知った。応援団とか

沢山いたよ。

瀬野：あー・・・嬉しかねぇけどな・・・あのさ・・・田中とはさ・・・木内話すのな。

蓮花：田中くん？うん、唯一話す男子かなぁ。

瀬野：男子・・・。

蓮花：うん、田中くんにはもう中学ん時からお世話になりっぱなし。遠くからいっつも助けてくれてさ、気が効くというか・・・優しいし、いつも救われてる。

瀬野：ふ～ん、そうか・・。

瀬野は今まで感じた事がない感情が湧いてきた。２人はカラオケに戻った。

美里：蓮花大丈夫だった？

蓮花：大丈夫だよ。

高橋：・・・木内、ごめんな。

蓮花：いいよ。

美里：瀬野、なんかあった？何か急にイライラしてない？

瀬野：俺が！？

美里：瀬野って言ったでしょ！？あんた以外誰がいんのよ。

瀬野：・・・・・なんでもねぇよ！

瀬野は何でこんなにイライラするのかこの時は解らなかった。

第１１話：文化祭の準備（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第１１話：文化祭の準備

美里：蓮花おはよ～！！

学校へ着いた美里が靴箱で蓮花に挨拶をした。横には偶然出くわした田中も一緒にいた。

蓮花：おはよ！あ、田中君もおはよ！

田中：おはよ。

蓮花：球技大会大活躍だったねぇ。

美里：そうそう、うちら打ち上げで男子荒れて大変だったよ（笑）。

田中：あはは（笑）。や～、現役サッカー部としてはやっぱ負けらんねぇよ。

３人はわいわい話しながら教室へ向かった。

美里：じゃね、田中！

田中：じゃぁなぁ～。

田中は笑って手を振りながら4組の方へ歩き出した。すると3組の教室から瀬野が出てきた。

瀬野：お！田中。

田中：おすっ。

瀬野：お前球技大会次は負けねぇからな～！

田中：お～こっちもなぁ！

田中は教室へ入っていった。

美里：おはよ。何、2人とも顔見知りんなったの？

瀬野：お～っす。ちょっとなぁ。おす木内！

蓮花：はよ。

3組教室―

矢崎（担任）：えー球技大会終わってすぐだが、文化祭の準備に入っていくぞ～。結構大変だからな。実行委員は加藤と瀬野か。何やるかだけでも先に決めとけなぁ。今日HR時間結構あるから、今日決めるか？

美里：何やるか意見ある人ー！

美里の進行で何やらクラス会議が進行して行った。

瀬野：えぇっと、お菓子屋、カフェ、コスプレ、お化け屋敷、迷路・・・こんな所かぁ？ぱっとしねぇなぁ・・・。

すると、クラスお調子ものの高橋が・・・

高橋：ハイ！！コスプレとカフェを合わせて、メイドカフェなんてどうでしょうか！！！

男子：おー！！

美里：ちょっと！！裏方で男子はサボる気か！！

瀬野：メイドカフェ反対。

ところが、クラスのあちこちから『結構面白そう☆』の声が上がってきた。

高橋：な？メイドカフェやって、男子は裏方で頑張りゃいいだろ？

瀬野：今時流行らんし、違うので行こう・・・。

それとは逆に、クラスの雰囲気が、メイドカフェでいいじゃん?の雰囲気になってきた・・・苦肉の策で瀬野は・・・

瀬野：あー・・・じゃぁ、メイド・ボーイズカフェは!?

するとクラスの雰囲気がそれもいいな☆の雰囲気に・・・。

美里：えっと~、それじゃ多数決取るね!・・・・瀬野のメイド・ボーイズカフェがいい人!

クラスの3分の2が手を上げた。

美里：メイド・ボーイズカフェ・・・・決定・・・・・。

瀬野：早かったな・・・決まるの。

美里：あたし先生報告してくるわ。

そういうと、美里は職員室へ向かった。すると田中と遭遇。

美里：田中聞いてよ、うちら3組メイド・ボーイズカフェだってよ！

田中：文化祭か。面白そうじゃねぇか。

美里：メイドの格好させられんだろうな・・・。も～、ハマらないと絶対面白くないから、ハマんなくちゃ！！

田中：お前ハマるとすごそうな。木内とか男子に接客できんのかよ。

美里：多分、そこまで考えてないよ蓮花は・・・。

田中：変ってねぇなぁあいつ。いつも爪甘いよな。結局自分で頑張るけどな・・・ほっとけねぇっつぅか、なんつうか・・・。

田中は笑いながら言った。

美里：（クスっ）じゃ、あたし職員室行くから。

田中：おう！

美里：（まったく・・・ぷっ）

3組教室―

瀬野：おい木内、お前もメイドになるのか。

蓮花：は！？そうなの！？

瀬野：お前、あれだな、結構アホだな・・・

蓮花：うっさい！！そこまで考えてなかった！！

瀬野：結構似合いそうだぞ。

蓮花：うわっやらしっ。キモい。

瀬野：なんだ！！キモいとは！！男としては正常な証拠だぞ！！大丈夫だよ。ボーイズも入ったから女子の客も沢山来るだろ。

瀬野に対して最初はものすごく構えていた蓮花だったが、蓮花は瀬野に段々慣れてきていた。近づけば離れろと言われ続け、その都度距離を置き、瀬野も段々蓮花の男子嫌いに慣れてきた。最近は離れろと言われなくても、蓮花が大丈夫だと思う距離もつかめて来る様になったので、それ以上は近づかなかった。

そんな風にある程度距離を取ってくれる瀬野に蓮花は気づき、どこか安心して普通に話しができる様になっていた。

そして瀬野は、やっぱり解らない時はその都度聞いた。

瀬野：おい、こういう話しをする男子は嫌か！？

蓮花：え？別に嫌じゃないよ。

瀬野：そうか！！

蓮花：好きでもないけど。

瀬野：おぃっ！！

蓮花は少し笑った。その笑顔に一瞬ドキッとした自分に瀬野はまた少し、戸惑った。

蓮花：ボーイズカフェ案・・・。

瀬野：あ？

蓮花：なんでもない・・・。

第１２話：ある日の休日（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第１２話：ある日の休日

蓮花は休みの日、祖母とスーパーへ夕食の買い出しにきていた。

蓮花：ねぇ、ばぁちゃん、青のりいるよねぇ？

祖母：お好み焼き、青のり無いとじいちゃんうるさいからね（笑）。

蓮花：あと、キャベツと～・・・

一通り買い物を終えた2人は歩きながら家へ向かった。すると、途中のコンビニに・・・

蓮花：（れ・・・？あれ瀬野・・・？）

祖母：知り合い？

蓮花：クラスの男子だよ。

瀬野は祖母と歩いている蓮花に気付いた。

瀬野：お～！！木内！偶然な！

蓮花：あんたん家逆方向じゃなかった？こんな所まで買い出し？

瀬野：あぁ、たまには違ったもん食おうと思ってなぁ。

祖母：まぁ、夕飯？

瀬野：こんにちは！あー・・これは夕飯です。俺んち父子家庭で、大体いっつもこんなんで。

蓮花：・・・・。

祖母：それ何買ったの？

瀬尾：これ？・・これは焼きそばですけど・・・。

祖母：それなら、今日うちお好み焼きだから一緒に食べない？食事は人数多い方が楽しいし。

蓮花：ちょっ！！！ばぁちゃん！

祖母：あらぁいいじゃない。ねぇ瀬野くん。

瀬野は唐突の出来事に少し驚いた。

瀬野：あの～・・・木内がいいなら・・・。

蓮花は少し間を置いて・・・

蓮花：・・・ばぁちゃんが呼びたいっつぅなら・・・。

祖母：じゃぁ決まりねぇ～。うちねぇ、お好み焼きにたっぷり山芋入れるのよ～、おいしいよ～。

瀬野：ハハハ。そりゃ楽しみ！

話しをしながら、３人は家に着いた。

祖母：じぃちゃんもうすぐ帰ってくると思うから適当にくつろいどいてね。

瀬野はリビングに座った。

瀬野：・・・なんか今日すまん・・・。

蓮花：いいよ別に。なんかばぁちゃん楽しそうだし。

２人は話しをしていると玄関のドアが開いた。

祖父：ただいまぁ！あれ？お客さんかぁ？美里ちゃんにしては靴がでかいな。

祖母：連花のクラスの同級生よ（＾◇＾）。

祖父がリビングへあがってきた。

祖父：お？男の子か？蓮花の彼氏か？（＾◇＾）。
蓮花：ちょっ！じぃちゃん違うから！

瀬野：はじめまして！こんにちは。

祖父：そっかそっか。蓮花が男の子をつれてくるのは2度目か？（＾◇＾）。

瀬野：（・・・2度目・・・）

蓮花：ばぁちゃんが呼んだの！偶然会ったの！

祖父：そっかそっか（＾◇＾）。1度目は田中くんだったよな。確か中学生の時、蓮花が倒れて家まで連れて帰ってくれた子だ。そん時は美里ちゃんも一緒だったか。

瀬野：（・・・ほっ・・・ん？なんでほっとしてんだ？）

祖母：あ、瀬野くん、コンビニで買った焼きそばは私に頂戴！うちでも焼きそば作るから！うちの焼きそばコンビニよりおいしいわよ～（＾◇＾）。

瀬野：はい・・・頂きます。
瀬野は蓮花のばぁちゃんとじぃちゃんの温かさに顔がほころんだ。

蓮花：ばぁちゃん、あたし手伝うよ。

そういうと、蓮花はキッチンの方へ向かった。

祖父：いやぁ、瀬野くんかぁ、あの子は学校で男の子と話せてるか？

瀬野：いや・・・あまり・・・だけど本人はがんばってるみたいです・・・。

祖父：そうかぁ、蓮花が小さい時に母親は病気で亡くなってなぁ、その後息子が1人で育ててたんだが・・・息子も精神的ショックも大きくて・・子育てできる状態じゃなかったんだ。その時息子にはあいつを支えてくれる人がおったもんだから・・・事態が悪化せんうちに、蓮花だけはうちで預かる事にしたんだけどな、どうも蓮花の中では捨てられたという風にしか受け止められてないんだよ・・・。それからかなぁ・・・学校で男の子と喧嘩ばっかしだしたのは・・・。

瀬野：・・・・そうですか・・。

そう言いながら祖父は本棚に手を伸ばし、古いアルバムを開き始めた。

祖父：これ蓮花の小さい頃のアルバムなんだけどな・・・お、これが小学４年生、うちで預かり始めた頃の写真だな。この頃はおてんばでね、転校したてで男子と喧嘩ばっかりして、何度か学校に呼ばれたぞ（笑）！

瀬野と祖父は笑いながら話しをした。しばらくして・・・。

祖父：それとなぁ・・・。
蓮花：っちょっと!!じぃちゃん!!あたしのアルバム!!

瀬野：ハハハハ!!

蓮花：も～!!何で見せるのよ!!瀬野も笑ってないで食べて早く帰れ!!

祖母：あんた!!何て事言うの!!謝りなさい!!

蓮花：・・ごめんなさい・・。

瀬野：ぶくくっ・・・いいよ。

テーブルの上に鉄板と、お好み焼きの材料と焼きそばの材料が並んだ。みんなでワイワイ焼きながら食べ始めた。

瀬野：お！うまい！！こんなうまいお好み焼き食ったことないっす！

祖母：でしょ～？私の得意料理なのよ～（＾◇＾）。

瀬野くんて男前だし優しいわねぇ～。

瀬野：・・・いや・・。

蓮花：ちょっと誉めすぎじゃない！？

瀬野：誉めすぎってどういう意味だよっ！？

祖父、祖母：ハハハハ！ねぇ～。

時間は刻々と過ぎ、蓮花は後片付けをしていた。

祖母：瀬野くん、あの子言葉きついでしょ。

瀬野：そんな事ないですよ（笑）、あいつ・・・いや木内は・・確かに男子嫌いで、接し方最初戸惑ったけど、向き合ってちゃんと話しすれば、あいつ実直で嘘がないし、優しいですよ。

祖母：・・・そう。ありがとね。

祖母は瀬野が蓮花をちゃんと見てくれている事に安心して、嬉しかった。

祖母：あの子よく誤解されるのよ。不器用だし鈍感だしね～（笑）

瀬野：アハハ！

祖父：そろそろ帰らんといかんよな。蓮花～、瀬野くん玄関まで送ってやれ～。

蓮花：はぁい。

祖母：瀬野くんまた来てね（＾＾）。

瀬野：はい！今日は本当にごちそうさまでした！

祖父：いいぇ～。

蓮花：あたしちょっとそこまで行ってくる。

そういうと、瀬野と蓮花は玄関のドアを閉め、少し歩いた。

蓮花：瀬野今日ありがとね。２人ともすごい楽しそうだった・・・あの・・・うち両親がさ・・・

瀬野：あー・・・じぃちゃんに少し聞いた・・・２人とも本当に優しいな・・・

蓮花：ありがとう。

瀬野：・・・また明日学校でな！

蓮花：うんまた明日！

家では・・・

祖母：ねぇ、蓮花あんな風に男の子と話せたのねぇ。

祖父：おぉ、いい青年だったしなぁ。男子と喧嘩してないか心配だったが、大丈夫そうだな・・・安心したよ。

祖母：あの子鈍感だから・・・そこだけねぇ。

第１３話：蓮花の今（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第１３話：蓮花の今

瀬野：昨日木内ん家行ったよ。つか、コンビニ寄った先で偶然ばぁさんと木内に会って招かれたんだけどな。

美里：ほぉんと～、咲（サキ）さんらしい（＝＾▽＾＝）。建三（ケンゾウ）さんも優しかったっしょ？

瀬野：あぁ。すげ優しかった。

２人は教室で話しをしていた。するとそこへ・・・

蓮花：おはよ～。

瀬野、美里：噂をすれば！おはよ！

瀬野：昨日はどうもなぁ！

蓮花：ううん、こっちこそ。

美里：咲（サキ）さん達喜んでたっしょ～？

蓮花：うん、なんかあたしが結構普通に？瀬野と話してたからか？ちょっと安心してた。

するとクラスメイトの高橋が瀬野を呼んだ。

高橋：瀬野、この前の球技大会の時の女子がまた呼んでるぞ。

瀬野：は？何で？

高橋：ん～、何かも一回聞いてほしいだと。

瀬野：はぁ？・・・

美里：お～ぉ、あの子確か球技大会の・・・

瀬野は席を立ち、２組の女子と教室を後にした。

高橋：羨ましいなぁ瀬野・・・チクショウ！！

美里：まぁまぁ、落ち着きなさい。

蓮花：なんか凄いね瀬野。

美里：ん～、こればっかりはねぇ・・・。

そういう話しをしていると瀬野が帰ってきた。

高橋、美里、蓮花：早！！！

美里：・・・で？

高橋：・・・で？

蓮花：・・・・。

瀬野：？あ？何だよ。

高橋：いいなぁお前！！！

瀬野：どこがだよっ。

教室のドアが開いた。

矢崎（担任）：よ～し、ＳＨＲ始めるぞ～。

美里、高橋、蓮花：・・・・。

瀬野はそれ以上何も言わなかった。

その日の放課後、蓮花は教室に誰もいなかったので、観葉植物に水をやっていた。するとそこへ・・・

瀬野：・・・毎日やってんの？

蓮花：あ、瀬野っ。毎日やる訳ないじゃん！やったら腐るし・・・。

瀬野：そうか・・・お前以外な所だらけな。悪い奴じゃないのはすぐ解ったけど、近寄るなオーラすげぇし、話せば結構抜けてるわで・・・

蓮花：そ？・・・瀬野ってさ・・父子家庭なんだね。寂しくないの？

瀬野：あ？もう慣れたなぁ。兄ちゃんが母親と住んでんだよ。たまに会うし。寂しかねぇよ。

蓮花：そっか・・ごめん立ち入った事聞いて・・・。

瀬野：いやぁ、俺様に興味が出てきた良い証拠じゃねぇかぁ？

蓮花：・・・・・？あぁ、そうだねぇ。そういえばあたし普段こんな話聞かないね（笑）。とくに男子に・・・（笑）。

瀬野はちょっとびっくりした。

瀬野：認めるのかよ！！

蓮花：え？認めるって何が？興味？・・・・・気になってたから聞いたけど・・・。

瀬野：そそ・・・そっか！！

蓮花は何でそんなに瀬野がびっくりしているのか、不思議だったが正直に答えた。

蓮花：そんなびっくりする話なの？

瀬野：いや・・・何か俺！格好悪・・・。

蓮花の言動にいちいち動揺している自分にそう思ってしまった。

蓮花：瀬野の事、格好いいなんて思った事ないから（笑）別に格好悪いもないよ。

瀬野：（グサッ）どういう意味だよ！！

瀬野はまた動揺した。

蓮花：アハハ、瀬野は・・・なんだかんだで私は瀬野とこうやって話しできる様になるくらいまで距離とってくれるし。優しさの押し売りしないし。きっつい言葉言っても本当にへこたれないでくれてるし、やっぱ優しいや。ありがとね。

蓮花は笑顔で言った。

瀬野：・・・・・。

蓮花の笑顔を見て、瀬野はまた動揺した・・・自分の気持ちに気付き始めていたと同時に蓮花とのこの距離感が保てるか自信が無くな

りつつあった。

第１４話：田中の誤解（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第１４話：田中の誤解

美里：次選択、あたし楓と音楽だから行くね。

楓（クラスメイト）：蓮花ちゃん行ってくんね～（´∀｀）。

蓮花は美術を選択しているので準備をしていたら廊下から蓮花を呼ぶ声がした。

田中：おっす。木内。

蓮花：田中くん！

田中：美里から聞いたよ、文化祭。

蓮花：そうなのよ、自分もまさかメイド姿になるなんて考えてなかったからビックリだよ（笑）。

田中：４組はクレープ屋だよ。

蓮花：いいなー。次田中くんも美術だよね？・・よいしょっと・・・。

蓮花は荷物をまとめると教室を出て田中と美術室へ向かおうとした。
すると後ろから瀬野に呼び止められた。

瀬野：おぃ、美術か？

田中：おー瀬野、お前選択何？

瀬野：俺は体育だ。

田中：おれら美術。そいや始業に遅れんぞ。急ぐか。瀬野体育頑張れよ。

瀬野：！！おうっ。

高橋（クラスメイト）：瀬野～グラウンド行くぞ～（＝＾▽＾＝）。

瀬野：わかってるよっ！

高橋（クラスメイト）：お前また何か怒ってんのかよ～´、。最近多いなー。

瀬野：怒ってねーよ！

高橋（クラスメイト）：怒ってんだろ～がっ、´！

美術室ー

橋口（先生）：えっと、今日はカップの絵を鉛筆で書いていきますー。鉛筆で影やー・・・

授業が始まった。

田中：瀬野っていい奴だな。

蓮花：瀬野？あぁ、いい奴だよ（笑）。

田中：・・・木内は俺にちゃんと本音で話せてるか？

蓮花：田中くんに？勿論。てゆか、話す前に田中くん悟ってくれてる感じだから言わなくても良くなっちゃう感じだけど。だからいつも感謝してる。

田中：そか。

蓮花：中学ん時から助けられっぱで・・・

田中：助けてねぇよ。俺がそうしたくて、してる事だから助けられてるとか思うな・・・

蓮花：ありがとう。

蓮花は田中を見て笑った。

田中：やっぱ木内は笑った顔が一番可愛いな。

蓮花：え！！！なんか男の人からそんな事言われた事無いからビックリなんですけど！

田中：俺・・・男か・・・？

蓮花：え？男子じゃなかったら新たな発見だけど・・・

田中：！！いや！そっちじゃね～よ！

蓮花：それならそれで受け止めるよ・・・

田中：だから！そうじゃねーからっ！

蓮花：アハハハ。中学ん時からさ、あたしの男子苦手なのコッソリ受け入れてくれて接してくれてたでしょ？だから今度はあたしの番かと思って。

田中：なんだよそれ！

蓮花：だって理解者必要でしょ。だからあたしも田中くんと話す事できたしっ。

田中：え？

蓮花：？あれ？・・・悟ってくれてるって勝手に思ってた・・・。

田中：なんだ・・・そうなのか・・・なんだ・・そうか・・・そうだったんだ・・・。

蓮花：？・・・。

田中：俺の勘違い・・・。

美術を終えて2人は教室へ戻った。

瀬野：おい木内、美術は楽しかったか？

蓮花：ハ？ま～絵～書くの好きだから楽しかったけど・・・。

瀬野：ふーん。

蓮花：何かあんた変。

美里：ね～瀬野ー、文化祭のメイドとボーイの衣装どうするよー？

瀬野：借りるしかねーだろー。

美里：だよねー、衣装見に行くか。

瀬野：おぉ、俺いつでもいいぞー。

美里：了解、バイト無い日は～・・・明日？

瀬野：お～了解！

美里：えっと～、私とアホ瀬野だけじゃ不安だから～、蓮花もね！

蓮花：え？別にいいけど。

美里：サンキュー！じゃ明日ー！

瀬野：おい・・・アホ瀬野って聞こえたぞ・・・

第１５話：好きだ（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第15話：好きだ

美里：瀬野、帰れる～？

瀬野：おー衣装だろ～？木内は？

美里：職員室呼ばれたから靴箱先行ってる。

2人は靴箱へ向かうと、蓮花が待っていた。

美里：ごめん、蓮花長く待った？

蓮花：うぅん。どんなの借りるか決まってんの？

美里：やっぱりミニがいいよね、女子はっ、男子はー…考えてない。

瀬野：おぃっ、男子は下は制服でいいだろ。あとはベストとネクタイか。

美里：1時間おきに、男子2人と女子2人で表に出る感じだから、S，M，L各2着ずつありゃー大丈夫だよね？

そんな話をしながら歩いていると、コスプレショップに着いた。外観からドピンクで、キラッキラしたショップだ。

瀬野：俺入るのかなり抵抗あるぞ・・・

美里：うわ～初ショップぅ～！

3人はショップ内に入って、衣装を探した。

美里：ね、やっぱ黒にレースで頭のリボンは白って感じじゃない？男子は～、女子とおそろにしてぇ、この黒のベストと蝶ネクタイ！

蓮花：・・・すごいね・・・メイドだー・・・。

瀬野：おー！いんじゃねーか！それ！

美里：なんで店内入って、急にテンション上がってんのよっ。

蓮花：・・・。

瀬野：普通だろっ！木内、普通だよっ普通！

蓮花：あたし何も言ってないし（￣＿￣；）・・・。

美里：はい、蓮花。はい、瀬野。

美里はメイド服を蓮花に、ベストと蝶ネクタイを瀬野に渡した。

瀬野、蓮花：は？

美里：（ニッコリ（＊＾―＾＊））

瀬野、蓮花：は！？

美里：試着♪お・ね・が・い♪

蓮花：あんた・・・最初からそれが目的でしょ・・・（―_―；）。

美里：だぁって、着たり選んだり大変じゃぁん！後でマックおごるからさぁ！お願い！！！！

蓮花：やる！！

瀬野：マックそんなに好きなのかよ・・・（―_―；）。

そう言って試着室に瀬野と蓮花は入った。

蓮花：美里！着替えたよ！

試着室のカーテンを開けた蓮花を見て、美里は驚いた。

美里：・・・ちょ～可愛い・・・。

美里：やっぱいコレ当日行列かぁ？・・・あれ？瀬野まだ？

すると瀬野が試着室のカーテンを開けた。

美里は瀬野を見た。

美里：瀬野、顔赤い。

瀬野：うるせー！！！

美里、蓮花：瀬野似合う！

瀬野は蓮花を見た。

少しカールのかかった長い黒髪で色白の蓮花にすごく似合っていた。

瀬野：！！

美里：やっぱメイドはそれが一番かわいぃよねぇ。

瀬野：おい美里、やっぱメイド・ボーイズカフェなんて止めねぇか！！

美里：はぁ～？クラス結構乗り気だったし今更無理しょ～。あ～、男子も女子に合わせるからそれに決定～！

瀬野：！！

瀬野は蓮花のメイド姿を見て、当日の文化祭に対する妙な焦燥感を感じていた。

美里：店員さん、文化祭で借りたいんだけどこの服。

怪しげな髭を生やした、おねぇ風のおじさん店員。

店員：あらぁ、メイドカフェでもするのぉ？

美里：そうなの。各サイズ2点ずつ借りたいんだけど。

店員：今ねぇ、他の高校にLサイズ貸しちゃってるのよぉ。来週には戻ってくると思うから、水曜日ごろには用意できると思うけど。

美里：あぁ、大丈夫。じゃぁ来週取りにきます！

レンタルの手配を済ませ、3人はショップを後にした。
それから、約束通りマックに入り食事をしていると美里の携帯が鳴った。
美里：はいはい美里―・・・

美里はしばらく話しをすると電話を切った。

美里：ごめん、今から急遽バイト来てくれって・・・！！あぁ！私のポテトがー！！！

瀬野：そっちかよっ。

蓮花：・・・。

美里：蓮花、ごめん！！！！

蓮花：うぅん、いいよ。仕方ないし。

美里：瀬野！！これ！！あたしのポテト（泣）・・・。

瀬野：あぁ、大事に食ってやるよ。頑張れバイト。

美里：じゃ、また明日ね！

瀬野、蓮花：また明日ぁ。

そいうと美里はバタバタとバイトへ向かった。

瀬野：・・・おい、俺と2人だけど大丈夫か？大丈夫じゃなけりゃ、持ち帰るぞ？

蓮花：・・・（笑）大丈夫だよ。

本当は少し不安な蓮花だったが、瀬野の言葉に少し安心をした。

蓮花：ていうか、大丈夫じゃないって言えなくない？

瀬野は少し笑って、少し真面目な顔で答えた。

瀬野：最初に全部言えっつったろ。無理すんな。俺はお前が何言ってもへこたれねぇよ。

そういうと、瀬野は嬉しそうにまた食べ始めた。

蓮花：ありがと。

蓮花は安心して食べ始めた。

瀬野：お前そんなマック好きなのか？

蓮花：え？超好き！

蓮花は口角の横にケチャップをつけながら笑って答えた。

瀬野：おい、ケチャップついてるぞ。

蓮花：！！

蓮花は慌てて口を吹いた。瀬野は最初の近寄るなオーラを放っていた頃の蓮花を思い出して、少し噴出した。

蓮花：マック嫌い？

瀬野：・・・いや・・・好きだ。

瀬野は蓮花を見て言った。

蓮花：（笑）マック嫌いな人いないか（´∀`）。

瀬野：・・・・。

第１６話：慣れる（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第16話：慣れる

美里：昨日あの後大丈夫だった？

蓮花：うん。

美里：蓮花さ、なんだかんだで瀬野には慣れた？

蓮花：う～ん、よくわかんないんだよねぇ。構えないでいいように前もって色々聞いてくれるからさ、変に気は使わなくて大丈夫になるっていうか・・・今までそんな人、周りにいなかったから不思議。まぁ、周りっつっても男子と話さないから比べる術がないんだけどさ・・・。

美里：まぁ、あんた男子寄ってった時の眉間のシワすごいもんねぇ。そこの登竜門を通ってからの・・・だから貴重な男子だわねぇ。田中も瀬野も。大体最初でフェードアウトするもんな。

蓮花：ハハハ・・・自分家の事があって妙に苦手意識持っちゃって。それからというもの、避けてたら急に怒られたり・・・そしたらもうどう接していいかまで解んなくなっちゃった。そしたらいつの間にか自分の方がキツイ言葉放つようにまでなっちゃって・・・したら大体みんな腫れもの触るみたいに避けるようになっちゃって・・・当然だけど・・・言わないで済むから、いつの間にかそっちのが楽になっちゃって・・。

美里：・・・慣れるよ。きっと。

蓮花：だといいけど・・・瀬野や田中くんみたいに、あたしが男子

嫌いなの解ってて接してくれる人は、勝手に理解者みたいな感じがして少し安心すんだ・・・。最初瀬野が思ってる事全部言えって言ってきた時は焦ったけどね。

美里：焦った？

蓮花：うん、あたしがずっと避けてきた所だったから・・・。

蓮花：美里もありがとね。

美里：あたし？

蓮花：変に気を使って、あたしを守ろうとしない所がすごい有難いの。だけど、なんだかんだで空気呼んでくれてるし。

美里：へへへ。何かあったら言ってきな。基本あたしその姿勢なの知ってっしょ？

蓮花：うん。優しい。へへへ。

2人が話しをしているとそこへ瀬野が入ってきた。

瀬野：おぉい、昨日マックごちそうさまぁ！ポテトすんげぇ旨かったぞぉ！

美里：大体何であんたまでゴチになってんのよ！！蓮花は別として！！

瀬野：ハハハついでだよ。ついで。

蓮花：瀬野マック好きなんだってさ。

瀬野：・・・あぁ！好きだよ！マックもな！！

蓮花：ファーストフード全般好きなのね！（笑）。

瀬野：・・・・・。

美里：まぁいいけど。てかね、文化祭のカフェさぁ、男女ペア―で４人ずつ表でるじゃん。勝手に決めていいよね。

瀬野：まぁ、仲良さそうな奴ら同士で組ませて、男子と女子は別に勝手にペアーにすればいんじゃね？お前と木内はペア―だろ？

美里、蓮花：そうだね。

瀬野：おい！高橋！お前文化祭のカフェ、俺とペア―な！

遠くにいた高橋に瀬野が言った。

高橋：？よくわかんねぇけど、いいぞ～（＾◇＾）！

瀬野：おい！お前らは俺らとペアーな！！！

美里、蓮花：？は？

美里：・・・（ははぁん・・・監視か・・・笑）。いいけど～別にぃ。あたし達のメイド姿に鼻血ださないでよねぇ。

美里はニヤニヤしながら答えた。

瀬野：出すかっ！！何だよっお前のその顔は！！

美里：べっつにぃ～♪

蓮花：？瀬野と組めば女子多そうだからむしろいいけど。

瀬野：お！！決まりな！！

美里：瀬野、あんた来週の水曜、メイド服取りに行ってね。

瀬野：！！おま・・！1人で行けるかあんな所！入ったら目立つだろ！！

美里：え～？あんなにテンション上がってたじゃなぁい。今更ぁ？

瀬野：アホ！お前も行けよ！

美里：あたしバイトがさぁ、次の日とかでもいんだけどねぇ、取り置きってのができないんだってぇ。

瀬野：わざとバイト入れてないかお前・・・・・おい、木内、お前付き合えよ・・・。

瀬野が蓮花を見ながらダメ元で聞いた。

蓮花：いいけど別に。

瀬野、美里：・・・・・・。

2人は蓮花が嫌がらなかった事にビックリした。

蓮花：？

瀬野：嫌じゃないのか？

蓮花：・・・え？瀬野と行くのがって事？・・・あぁ、そぅか・・・。

蓮花は目をつぶってしばらく考えて・・・

蓮花：う～ん・・・大丈夫。

瀬野：・・・・そ・・・美里！！バイト頑張れよ！！

美里：あんたね・・・、、ま、助かるから～けど～♪宜しくねぇ。

第17話：自粛（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第17話：自粛

美里：蓮花、今日の放課後本当に大丈夫?ごめん!委員私なのに!!頼んじゃって!

蓮花：ハハハ。いいよ別に。

美里：今度埋め合わせするね。

放課後―

瀬野：おい木内、帰れるかぁ?

蓮花：帰れるー、じゃぁ行こうかぁ。

瀬野：おう!

2人は教室を後にした。

2組の前を通り過ぎようとした時、蓮花は2組の女子と目が合った。すぐ目を逸らされたが、球技大会の時に顔を見ていたので、瀬野に以前告白をした子だとすぐに解った。

蓮花：・・・・瀬野さぁ・・。

瀬野：あ？

蓮花：あんたモテるのに何で彼女いないの？

瀬野：・・・モテるのと彼女いるのってイコールなのか？

蓮花：・・・・違うの？

瀬野：違うだろ。選択肢が増えるとかって解釈か？・・・俺の選択肢は1つしかねぇよ。

蓮花：あぁ、そうかぁ。そうだよねぇ。色んな人から好きになられても自分が好きじゃなくちゃダメだよねぇ・・・。

瀬野：・・・・・。

そんな話しをしながら、靴箱を出てグラウンドを横切りながらショップへ向かった。グラウンドではサッカー部がまた練習をしている。

佐藤（田中のクラスメイト）：あれ？あれまたイケメン君と蓮花ちゃんだ。

田中：・・・・・。

佐藤：・・・・田中！練習の続きすんぞ！！

田中：あぁ・・・。

田中は2人を見て、今までに感じた事が無いような焦燥感を感じていた。

・　・　・　・

蓮花：やっぱさ、瀬野とこうして話すんの慣れてきた。

瀬野：お！いい傾向だな！

蓮花：うん。最初は本当に苦手だったけどね。避けて通ってきた道だったから・・・。

瀬野：そんな苦手だったのか・・・？

蓮花：だってさ、下手したら自分だけならともかく瀬野も傷つけて共倒れだよ？そんな危険な賭けできないでしょ。自分の問題で他人を利用できないと思ったし・・・だから何回も聞き飽きてるだろうけど、ありがとね。

瀬野：・・・よし！！じゃぁ本当に慣れたか手でも繋いでみるか！！

蓮花：それは無理（即答）。

瀬野：そ・・冗談だよ。

蓮花：アハハ。

そんな話をしながら2人はコスプレショップについた。

店員：あらぁ、この前のお2人さん！今日は赤毛の元気なおじょうちゃんはいないのねぇ。

瀬野：（美里の事か・・・）あぁ、バイトらしいです。

店員：ところで、お2人さんて、美男美女のカップルさんねぇ。

蓮花：カップルじゃないです！

瀬野：・・・・。

店員：あらそうなのぉ？お似合いなのにぃ。

瀬野：あ、衣装！・・衣装！借りていきます！

瀬野は少し照れながら店員に言った。

店員：はいはぁい。

文化祭の衣装を借り、2人はショップを後にした。蓮花が最初にショップを出た。すると後から慌てて瀬野が・・・

瀬野：おい、俺持つよ。

蓮花：え？大丈夫だよ、結構軽いし！

蓮花は後を振り返りながら瀬野に答えた時、足をグラつかせて転びそうになった。

蓮花：え？

瀬野：おい！

同時に瀬野が蓮花の腕を引っ張り自分の方へ抱き寄せた。

瀬野：・・・・・。

蓮花：・・・・・。

瀬野は、蓮花を抱き寄せたまま・・・

瀬野：・・・ふぅっ。

蓮花はパッと瀬野から離れた。

蓮花：ご・・・ごめん！

瀬野：あ、いや・・・ほらな！！だから俺が持つって言ったろ！かせっ。

蓮花：はい・・・。

蓮花は衣装を瀬野へ渡した。

2人は少し緊張したまま帰りの道を歩いた。

瀬野：なぁ、木内。

蓮花：？

蓮花は瀬野の方を向いた。

瀬野：いや・・・さっきさ、俺が傷ついたら共倒れって言ってたけど・・・俺、何度も聞き飽きてるかもしれねぇけど・・・俺、傷つかねぇから。だから俺に何か言ってお前も傷つく必要ねぇよ。

蓮花：うん。聞き飽きた。

蓮花はクスリと笑みを浮かべて言った。

瀬野：・・・家まで送ろうか？

蓮花：ううん、大丈夫こっから逆方向だよね。また明日ね！

瀬野：・・・ん、また明日。

瀬野は蓮花の後姿を見送り、彼女を抱き寄せた時の自分の両腕を眺めた。

瀬野：俺、自粛できる自身全然ねぇ・・・。

瀬野は独り言を言いながら歩き出した。

第１８話：それぞれの思い（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第18話：それぞれの思い

美里：蓮花昨日ありがとねぇ！衣装。大丈夫だった？

蓮花：うん、大丈夫だったよ。ちゃんと全部あったから良かった。

2人が廊下で話をしていると、田中と佐藤が話かけてきた。

田中：おっす。

美里：お～っす！コスプレの衣装借りたよ昨日！当日楽しみにしててねぇ！

田中：お～まじか！加藤、こいつ佐藤な。木内は2度目だよな？

蓮花：確か垂れ幕作成の時に・・・

美里：あたし美里！加藤でも美里でもどっちでもいいよ！宜しくね！

佐藤：じゃぁ、美里ちゃんで！3組メイドカフェだって？楽しみだなぁ♪

美里：ううん、メイド・ボーイズカフェね・・・。

佐藤：あ、そっかぁ、ボーイズもあったねぇ（笑）。そういえば、蓮花ちゃんさ、昨日3組のイケメンくんと一緒に帰ってたね。部活してたら見かけてさぁ、蓮花ちゃん男子苦手って噂で聞いてたのに

珍しいなぁと思ったんだよねぇ。あ、俺も男子なんだけどね（笑）。

蓮花：（蓮花ちゃん・・・）・・・・・あの・・衣装を借りに・・・。

美里：・・・私の代理ぃ（＾◇＾）♪バイトだったんだもん♪頼んじゃったの～！

田中：・・・だから昨日瀬野と帰ってたのか・・・。

尾崎（４組の担任）：田中～！ちょっといいかぁ？

田中が担任の尾崎から呼ばれた。

田中：あぁ、ハイ！・・じゃ、またな！

そう言うと田中は尾崎の方へ走っていった。

美里：佐藤くんって人懐っこいね。

佐藤：佐藤でいいよ～。ていうか2人ともかわいいよねぇ。

美里：あ・・・ありがと。

蓮花：・・・。

3人がそのまま話をしていると、女子が蓮花を呼んだ。蓮花がその女子の方を見ると、瀬野に思いを寄せている2組の女子、矢野美咲とその友達、安藤美香だった。

矢野：あの、木内さん、ちょっといいかな・・・。

蓮花：・・・ハイ・・・。

美里：・・・・・。

蓮花：美里、あたしちょっと行ってくんね。

美里：・・・・解った。

すると美里は教室にいた瀬野と目があった。瀬野は教室からでてきて美里に聞いた。

瀬野：おい、なんだ今のは?

美里：蓮花が呼ばれた・・・多分、あの子の事だから大丈夫だとは思う。

瀬野：そっか。

そういうと瀬野は蓮花達が行った方へ歩いて行った。

美里：・・・。

佐藤：美里ちゃんも大変だねぇ、色々と。

美里：え？

佐藤：いいやぁ、こっちの話だけど・・・。

渡り廊下―

矢野：あの・・・木内さんて・・・昨日、瀬野くんと帰る所見たんだけど、２人は付き合ってるのかな！？

蓮花：は！？いや・・付き合ってないけれど・・・昨日は文化祭の貸衣装を取りに行ったけど・・・。

矢野：あ、そうなんだ！あの、ごめんなさい、急に！

蓮花はなんとなく自分が呼ばれた理由が解ってきた。

蓮花：あの、あたし、こういうのよく解んないけど・・・直接本人に聞いた方がいいと思う。

矢野：・・・・・。

蓮花：あいつ、聞けばちゃんと応えると思う。

矢野：だけどあたし、もう2度振られてて、なんか聞けなくてっ！

蓮花：事情は知らないけど、瀬野は・・・こういうの嫌いだと思う・・・もう行っていい？

矢野：・・・うん・・・あの！！

蓮花：？

矢野：木内さんは瀬野くんの事好きなのかな！？

蓮花：・・・・・・。

その時、瀬野は渡廊下で壁越しに話を聞いていた。なんとなく動けずにいたが2人に話掛けた。

瀬野：あれ～？木内こんな所にいたのかぁ。美里呼んでたぞ。

蓮花：瀬野・・・美里が？

矢野、安藤：・・・・・・！！

瀬野：行くぞ、木内。

蓮花：あ・・・うん・・・。

瀬野は先に歩き出した。

蓮花：この事は言わない・・・。

蓮花は2人にこう言い残して瀬野の方へ向かった。

瀬野と蓮花は3組へ向かった。蓮花はさっきの質問が頭にずっと浮かんでいた。

美里：あ！帰ってきた！

蓮花：美里、呼んでたって？

美里：は？（はっ！！）あー・・・そうそう！呼んでたのよぉ！呼んでた！

蓮花：？どうした？

美里：ええっと、もう忘れちゃった！

蓮花：なにそれぇ！（笑）あたしトイレ行ってくるねぇ！

美里：うん！いってらっしゃい！

美里は瀬野の顔を見て、察してそう答えた。

瀬野：・・・あいつ多分俺に言わねぇよな・・・。

美里：言わないだろうね。あたしが蓮花でも言わないもん。モテる男はつらいねぇ・・・。

瀬野：俺が周りにいて、あいつに迷惑かかるのか・・・？

美里：ねぇ、あんたズレてるよ。そう思うかどうかは蓮花が決める事だし、あんたが蓮花のそばに居たいと思うんなら居ればいいと思うけど？勝手に妄想して勝手に決められたら蓮花の気持ちは無視じゃん。大体あんたでしょ？思った事は全部言えっていったのは。蓮花はそういう約束破る子じゃないよ。あんたが真っ直ぐぶつかった分、真っ直ぐ返すよ。らしくないわねぇ～どうしたのよ！！

瀬野：・・・お前・・・いい奴な・・・。

美里：どうせなら、いい女って言ってくれない！！

瀬野：・・・・・。

美里：言葉に詰まるんじゃないわよ！！

瀬野：アハハ！サンキューな！！

女子トイレ―

蓮花：（（矢野：木内さんは瀬野くんの事好きなのかな！？））・・・

答えそびれたな・・・考えた事もないけど・・・）

第１９話：意外な告白（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第１９話：意外な告白

蓮花は職員室にＳＨＲの資料を取りにきていた。

瀬野：お～、木内おっす！

蓮花：おはよ～。

瀬野：今日の放課後から文化祭の準備だろ？お前今日来るのか？

蓮花：まだ決めてない。

瀬野：来いよ。お前いた方が楽しいだろ。

蓮花：あたし？・・・あたしいた方が楽しいの？

瀬野：俺はな。

蓮花：・・・そう・・・じゃぁ・・残ろうかな・・。

瀬野：放課後な！

蓮花：（男子にとってはあたしは盛り下げ側だと思うけど・・・）

放課後―

クラスで文化祭の装飾品を制作し始め、瀬野はクラスの男子とワイ

ワイ話をしていた。

蓮花：（今まで気にしなかったけど、瀬野って女子にモテる割にはあんま女子と話してる所見ないよね・・・だから余計矢野さんもあんな必死に聞いたのかな・・・）

美里：あ！！ガムテープ切れた～！

蓮花：あ、あたし売店で買ってくるよ。

美里：ありがと！頼むわ！

そう言うと蓮花は教室を出て１Ｆの売店へ向かった。

瀬野：美里、木内はどこ行った？

美里：ガムテ切れたから売店行った。

瀬野：そっかぁ。

１Ｆ売店ー

売店でガムテを購入した蓮花が教室に戻ろうとしていると・・・

田中：木内、何してんの？

蓮花：田中くん！これ？文化祭の準備。

田中：そうか・・。

蓮花：田中くんは部活もう終わったの？

田中：いや今から・・・木内見えたから、ちょっと抜けてきた。ちょっと・・・いいかな・・・。

蓮花：うん。

田中：あのさ、あの・・俺さ・・・木内の事、最初すげぇ不器用な奴なんだろうなと思ってずっと見てたんだ・・・けどな・・・木内と接していくうちに、気づいたらほっとけなくなってきて・・・

蓮花：あの・・・。

田中：・・・俺、中学ん時からお前がずっと好きだ。

蓮花：！！えっ！！

急な田中の告白に蓮花は驚いた。

田中：あの、だからってどうこうしたいとかそういう意味じゃなくて！木内の事助けたりしてたのも下心あってやってた訳じゃなくて・・・けど、話すキッカケは探してたかもしれない。

蓮花：うん・・・。

蓮花は、田中がみんなに優しいのは知っていたので、下心は無いと言葉で言われなくてもなんとなく理解できた。

田中：俺・・・ずっと木内は俺の事男として見てはくれてないだろうなって勝手に思ってて。本当はこういう事言うのもすげぇ迷ったんだけど・・・中学ん時みたいには、接する余裕もなくて・・・。

蓮花は真っ直ぐ田中を見て聞いていた。

田中：これから、また違った形で前に進みたいんだよ。

蓮花：・・・うん。

田中：男苦手なの知ってるのに、ごめんいきなり！！

蓮花：・・・ううん・・あの・・ありがとう。あたし、男子は苦手だけど、田中くんは中学ん時から苦手じゃないよ。ただ・・・なんか・・・急な事でビックリで・・・。

田中：俺、また告白するよ。そん時、俺の事を男として好きになってくれたら俺と付き合って欲しい。嫌われてなけりゃだけど・・・。

蓮花：・・・まさか・・・あたしこそ鈍くてごめんなさい・・・あの・・・新たに宜しく・・・ってこれでいいのかな・・・。

田中：うん！いい！

２人が話しているとマネージャーが田中を呼びに来た。

谷口（サッカー部マネージャー）：田中くん！監督呼んでる！！

田中：お・・おうっ！

マネージャーはチラリと蓮花の方を見てグラウンドへ走って行った。

田中：じゃ、俺部活戻るわ。

そう言って、グラウンドへ向かった。

蓮花：あの、田中くん！部活頑張ってね！

田中：おお！

田中が去った後、後から声がした。

瀬野：・・・・ガムテ見つかったか？

蓮花：！！！瀬野！！何でここに！？

瀬野：いや・・・遅ぇなと思って。

蓮花：あーごめん！もう買ったから、教室戻るよ！

瀬野：・・・・。

2人はなんだかぎこちない空気のまま階段を上がって教室へ向かった。すると、蓮花が階段を踏み外しそうになった。

瀬野：おっと！

すかさず瀬野が蓮花の手を取った。

蓮花：フ～っ！セーフ！

瀬野：よく転ぶなぁ・・・。

瀬野が蓮花を自分の方へ引き寄せながら言った。

蓮花：ごめん、ありがと。

瀬野は何か言いたそうな、聞きたそうな表情をしながら、蓮花の手を掴んだままだった。

蓮花：瀬野・・・手・・・。

瀬野：あ、おう！・・・。

瀬野はそっと掴んだ手を離した。

瀬野：・・・教室戻るか・・・。

蓮花：・・・うん。

第２０話：パーソナルスペース（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第２０話：パーソナルスペース

教室ー

美里：あ、瀬野！おかえり蓮花～♪ガムテあった？

瀬野と蓮花は教室に戻って、瀬野は文化祭の準備を始めた。

蓮花：・・・はいガムテ。

美里：・・・・？何か・・・あったの？

蓮花：あのさ・・・。

蓮花は田中に告白をされた事を美里に話た。

美里：っえー！！

美里は大きな声を上げた。

蓮花：っしー！！静かにっっ！

美里：ごめん、ごめんっ！・・・て事は、待つって事？

蓮花：・・うんそう言ってた。

美里：そうか・・・（機が熟すまで待つのか・・・）・・あれ？瀬野と会った後？

蓮花：うぅん、田中くんとしばらく話た後に瀬野は来たよ。

美里：そっかー・・・。

蓮花：どした？

美里：あぁ、うぅん。蓮花、焦らないでゆっくし考えなね。何かあったらいつでも言ってきな。

蓮花：うん、ありがと。

そう言うと、美里は瀬野の方へ向かった。

美里：ちゃんとやってるー！？

瀬野：あぁ、やってるよ・・・。

美里：（やっぱりか・・・ったく・・・）暗。

瀬野：美里よ、やっと普通に話をしてくれる様になった奴に・・・いや、なんでもね・・・。

美里：・・・何言ってんの？（解るけど―――；）

瀬野：いや、距離感を保てなくなったらどうするよ。

美里：んー・・・距離感てさ、傷ついた分大きくなるし、傷つかなくてもいい距離＝自分を守れる距離じゃないのかな。誰かがその距離に入ってくると、また傷つけられるんじゃないか？傷つけるんじゃないかって怖くなる感じ？だから難しいよね。

瀬野：・・・・・。

美里：これが例えば男女の場合さ、相手の間合いに入れるかどうかなんて、少しずつ近づいてかないと解んないよね。そうしないと傷が痛むと思っていたのに、実際は大丈夫だったかとかも解んないと思うし。だから保つ必要なんてないと思うけど。まぁ、あんたがどんな距離感を大切にしてるかわかんないけど、そんだけ一生懸命思って接してるんだし、相手に伝わらないなんて事あるのかな・・・。

瀬野：おまえ・・・やっぱいい奴な。

美里：だぁかぁらぁ、いい女ってどうせなら言ってよね！！

瀬野：・・・・。

美里：言葉につまるなっつぅの（、＾′）！！

瀬野：ハハっ。サンキュ。

美里は蓮花の所に帰った。

蓮花：ねぇ、美里大体こっちの看板は枠組み終わったけど次なにする感じ？

美里：あ～・・・じゃ、瀬野らの方の装飾がまだだから、あっち手伝おうか。

蓮花：オッケー！

蓮花は返事をすると装飾の方を手伝いに行き、瀬野の横にストンと座った。

蓮花：どれから手伝う感じ？

瀬野：・・・・・。

大体今まで１ｍくらい離れて接していたのに、手で触れられるくらいの距離に蓮花が自分から座って、話掛けてきた事にビックリしていた。

蓮花：？・・・瀬野？

瀬野：！！は！？

蓮花：もう終わっ・・・た感じじゃないよね・・・？こんなに散らかってるしね・・・。

瀬野：や、これ！この、これ！ここに！つける！

蓮花：ぷっははははっ！あんたいつから韓国人？（笑）

瀬野：・・・まだ終わってねぇし！

蓮花：わかってるし！

瀬野：・・・韓国人じゃねぇし！

蓮花：わかってるし！

瀬野：・・・笑った顔かわいいし・・・。

蓮花：わかって・・・！！えっ！！

瀬野：プハッ！わかってんのかよ。

蓮花：ち・・・違うし！照れるしっ！

瀬野：ホントだし。

蓮花：！！・・・・。

蓮花の心臓はすごい速さで動いていた。

第２１話：変化（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第２１話：変化

文化祭前日―

楓（クラスメイト）：美里ちゃん、看板こんな感じ？

美里：そぉねぇそんな感じでオッケー！

クラス全員がメイド・ボーイズカフェのセッティングをしていた。

蓮花：ねぇ、美里、あたしら明日何時から何時に表出るの？

美里：なんだかんだでさぁ、みんな盛り上がってるからさ、うちら１２時～１３時に出ようかと思って。

蓮花：そか。なんでまたその時間なの？

美里：だってさ、みんなお昼どきだからカフェなんてこないっしょ～？丁度穴場かなぁって思って。

蓮花：ほぉ～頭いい～♪あたし装飾品取ってくるぅ～♪

美里：でっしょぉ？ふふふっ宜しくぅ～♪

蓮花は装飾品を段ボールに詰めていたら、瀬野が寄ってきた。

瀬野：入口の分か？

蓮花：うん！

蓮花は一瞬昨日の瀬野の言葉が頭をよぎって、また動悸がした。瀬野も座り、段ボールに入口の分の装飾品を詰めだした。

瀬野：お前のメイド姿もいよいよ明日か。

蓮花：いやらしい言い方しないでよっ！

瀬野：健康な証拠だろうが！！

蓮花：どんな健康よ！

瀬野：こういう話しする男子は嫌いじゃないんだろ？

蓮花：好きでも無いっていったし！

瀬野：なんだよ。俺好かれてねぇのかよぉ。

蓮花：瀬野は・・・・・（あれ？）・・。

瀬野：俺は？

蓮花：よく・・・解んない。

瀬野：そっかー・・・・先は長いなぁー。

そう言うと、段ボールを持って入口の方へ歩いて行った。

蓮花：・・・・・。

蓮花は最初、瀬野が近寄ると、気持ちがザワザワしていたが、今は全くそれが無くなっている事に気付いていた。蓮花の気持ちを確認しながら接してくれていたので、怖かったはずの距離感に少しずつ慣れてきていた。蓮花の中で瀬野の存在が変り始めていた。というより既に・・・この気持ちが一体何なのかはこの時彼女はまだ知らない。

瀬野：おい！手伝え！

蓮花：（はっ！！）あぁ、ごめんごめん。

ドアの付近に高橋は椅子に座りながら絵を描き、その周りを瀬野と美里と蓮花は飾り付けしていた。

美里：高橋、邪魔だよ、ちょっとそこどいて。

高橋：おいっ！俺も絵～一生懸命描いてんだよ！＞（、^、）＜

４人が作業していると、部活を終えた田中と佐藤（田中のクラスメイト）が3組の前を通った。

田中：おー、様になってきてるなー。

瀬野：田中・・・。

蓮花：田中くん、部活終わったんだ。今から文化祭の準備？

田中：そ。過酷だわぁ～本当は家帰って寝てぇ（笑）。

蓮花：アハハ！大変だね！

美里：田中！うちら明日１２時から1時間表出るからね！見に来てよね！あたしたちの晴れ姿！（＾◇＾）。

佐藤：え～楽しみだなぁ♪（＾◇＾）。

田中：見に来るわ！

瀬野：お前は来んな！

田中：何でだよ！

美里：まーまー落ち着いて。

田中：じゃ、準備頑張れな！

蓮花：そっちもね。

佐藤：じゃぁね、美里ちゃん、蓮花ちゃん！

美里：じゃぁねぇ！

蓮花：・・・・。

田中と佐藤は自分の教室へ戻って行った。

瀬野：（蓮花ちゃん！！！？？？）なんなんだあの男は・・・！！

美里：田中の友達、で同じ部の佐藤くん（＾◇＾）。人懐っこいのよね。

高橋：まぁた瀬野の機嫌が悪くなってねぇかぁ？

瀬野：うるせっ！！

高橋は軽く頭を殴られた・・・。

高橋：いてぇ！！＞（、＾、）＜

美里：・・・大丈夫かな明日・・・（￣＿￣；）。はぁ・・・。

瀬野：お前も蓮花ちゃんとか呼ばれてヘラヘラしてんな！！

蓮花：っはぁ～!?してないし!!

瀬野：何であいつは名前で呼んでんだよ!!馴れ馴れしいな!

蓮花：しらないわよっ、美里もあたしも最初からちゃん付だったし!どっちで呼ばれても別にいいでしょ!

瀬野：じゃぁ俺が蓮花でも大丈夫なのか!!

蓮花：大丈夫だよ!!

少し間を置いて・・・

瀬野：え?大丈夫なのか。

蓮花：え?あんた美里は美里でしょ?大体なんであたしは木内なのよ。そっちのが不自然じゃない?

瀬野：・・・・そ・・・・そうか・・・。

高橋：木内はー・・・名前で呼べない雰囲気があるっつぅかぁ・・・。

また高橋は軽く瀬野から殴られた。

高橋：いてぇ＞（＾、＾）＜!なんなんだよぉ・・・。

美里：よしよし・・・（笑）。

美里は高橋を笑いながら慰めた。

美里：じゃぁ～、今日から名前で呼べばぁ～？考えてみたら変よねぇ～。

美里はニヤニヤしながら言った。

蓮花：蓮花（レンカ）でいいよ別に・・・。

瀬野：・・・・・・れ・・！！急に言えるか！！

美里：はぁ～？

瀬野：・・・・・・・・・・蓮花（レンカ）。

蓮花：はい。

瀬野：！！・・・・。

瀬野は大分照れながら言った。なんだか蓮花は嬉しかった。

第２２話：文化祭（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第２２話：文化祭

美里：メイド・ボーイズカフェオープンでぇす！中へどうぞ～♪

３組ー

『いらっしゃいませぇ！ご主人様ぁ！』
『いらっしゃいませお嬢様！』

メイド・ボーイズカフェがオープンした。瀬野は委員なので裏方の手伝い、美里は入口で誘導をして、蓮花は入口を手伝っていた。

瀬野：おぃ・・・すげぇな・・・。

瀬野が裏方でカフェの様子を観察していると・・・

楓（クラスメイト）：コーラ２つと珈琲２つ！

桜木（クラスメイト）：やっぱ萌えるなぁ～メイド姿ぁ～♪

瀬野：おぃっ、見てねーでお前も働けっ。

桜木：ほぃほーい！

瀬野：楓、はい珈琲！

楓：サンキュ！あとコーラね！

楓：ご主人様ぁ、珈琲お待たせしましたぁ～♪

美里は誘導をしながらカフェを覗いた。

美里：反響すごくない？つうか隣がクレープ屋だから相乗効果で入ってる感じだよね。３、４組、人すごい。

蓮花：だねー・・つうか並んでるよー・・・。

メイド・ボーイズカフェは４組のクレープ屋との相乗効果で大盛況だった。

瀬野：今どんな感じだ？ちょっとは落ち着いたか？

美里：朝よりは少しね。

瀬野：そか（ホッ）。

楓：美里ー！美里らもう直ぐ出番でしょ？案内変わるよ！

美里：ありがと！頼むね！

美里：じゃ、うちら着替えようか！

蓮花：うん！

瀬野、高橋、美里、蓮花は準備に入り、美里と蓮花は着替室で着替えた。

蓮花：美里似合う！なんかエロかわいー！

美里は身長１６０ｃｍ、肩下でカールをしている赤毛ボブ。細身でメイド姿がとても似合っていた。

美里：やだありがとー！蓮花も似合うよー！

蓮花は身長１６５ｃｍ、美里とは髪の色が対照的な黒。セミロングに色白で細身の蓮花にもまた似合っていた。

蓮花：あ・・・ありがとー・・・。

２人は着替室からでると、瀬野と高橋はもうスタンバっていた。

高橋：！！２人とも超かわいーな！！

瀬野：ーーーー！！

美里：ありがとー→２人とも素敵ぃ！

瀬野は身長１８２ｃｍで女子人気の高いイケメンだ。黒ベストと蝶ネクタイがさらに彼を引き立たせていた。高橋は身長１７２ｃｍ、瀬野とは対照的なベビーフェイス。彼にもまた黒ベストと蝶ネクタイが似合っていた。

瀬野：サンキュー。

高橋：モテるかなぁ！

美里：知らん。さー頑張るか！

高橋：＞（＾ω＾）＜なんだよっ冷てぇなっ。

瀬野：・・・蓮花・・・。

瀬野はまだ呼びなれない名前で蓮花を呼んだ。

蓮花：はい？

蓮花は瀬野を覗きこむ様に見て返事をした。

瀬野：！！お前大丈夫なのかよっ。

蓮花：大丈夫、大丈夫！やるときはやるよっ！

高橋：あいつ本当に大丈夫か？

美里：多分・・・。

心配はさて置き、４人は表にでた。

美里、蓮花：『いらっしゃいませぇ！ご主人様ぁ！』

客：おー！かわいー！

瀬野、高橋：『いらっしゃいませお嬢様！』

客：キャー！！

美里：ご主人様、ご注文は何に致しますかぁ？

客：エロかわー！俺珈琲！

客：俺もー！！

蓮花：（ニコッ）・・・・・ご注文は！！？

蓮花は満面の笑を作った後、怒った口調で注文を聞いた。

瀬野、高橋、美里：！！（おいっ！！）

客：・・・・・・・ツンデレだ～→萌える～→

瀬野、高橋、美里：（そっちかよっ！！）・・・奇跡だな。

瀬野：あいつすげーな（笑）。

瀬野：お嬢様、お飲み物は？

客：キャー！あ・・・あの！私、オレンジで！

客：私、グレープで！

高橋：お嬢様、お飲み物は？

客：私、グレープで！なんか、可愛いですね！

高橋：！！すぐ、お持ちします♪！

瀬野は蓮花を気にしていた。

瀬野：（・・・あいつ何だかんだで大丈夫なのか・・・・・しかしあの姿！何がツンデレだ！超可愛いじゃねぇか！あー早く終われ！

！この野郎！！あと何分だ！）

４人は、注文を受けたら持っていき、受けたら持って行き・・・バタバタとしていた。その時カフェを除く他校の生徒がいた。

遠野（他校生）：あの、ツンデレな子綺麗ー。

野崎（他校生）：本当だー。俺は赤毛の子派かな。

第２３話：予想外な展開（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第２３話：予想外な展開

蓮花：ねぇ美里、この時間少ないって言ってなかったっけ・・・？

美里：その予定だったのよねぇ・・・予定外（ー＿ー；）・・・一番多い気がするよ。

瀬野：俺もー限界！！

３人は裏の方で、接客の合間に話をしていた。そこにオーダーを受けたばかりの高橋が入ってきた。

高橋：楽しいなぁ今日！

瀬野、美里、蓮花：・・・・（ー＿ー；）。

蓮花：あ！田中くんだ。

瀬野：！！

入口の方を見ると、田中と佐藤（田中クラスメイト）、サッカー部のマネージャー谷口が立っていた。

４人はカフェの方へでて行った。

美里、蓮花：いらっしゃいませぇ！ご主人様ぁ！

瀬野、高橋：いらっしゃいませ！お嬢様！

佐藤：２人ともすげぇかわいい～♪

美里：サンキュ→あ！！また違うお客だ！高橋！行くよ！

高橋：おお！

そう言うと、２人はまた新規の客を出迎えに行った。

田中：・・・・・・。

蓮花：（@＿@；）へん？

田中：いや・・・可愛い。

田中は少し照れながら言った。

瀬野：！！

谷口（マネージャー）：・・・・。

蓮花：あ！ありがとー。

瀬野：はよ座れ！！お嬢様、お飲み物は？

谷口：あたし、オレンジで。瀬野くんだよね？かっこいいね。

瀬野：どーもー。

蓮花：ご主人様、お飲み物は？

田中：（笑）、俺コーラ。

佐藤：俺も！

蓮花：かしこまりましたぁ！

瀬野：お前、ツンデレキャラはどうしたんだよ！！

蓮花：忘れてた。

瀬野：なんだそりゃ！！

瀬野と蓮花は田中らのテーブルに飲み物を運んだ後、バタバタとしてる所へ、教室を覗いていた他校の生徒が入ってきた。

蓮花：いらっしゃいませぇ！ご主人様ぁ！・・・ご注文は！！？

野崎（他校生徒）：おーツンデレ！超可愛い！俺コーラ！

遠野（他校生徒）：ねぇねぇ、名前はなんてーの？教えてよ！

蓮花：・・・・・・教えません！

蓮花はツンデレキャラを守りつつ、その場を去ろうとしたその時に遠野から腕を掴まれ引っ張られた。

遠野：ちょっと待ってよ～。

蓮花：！！

田中：！！

田中が席を立とうとした瞬間、様子を気にしつつ女子のオーダーを聞いていた瀬野がすかさず・・・

瀬野：お客様ー、申し訳ございません。当店のメイドは男慣れしておりませんので、ご遠慮くださいませー。コーラすぐお持ち致しますー。

野崎：なんだよ。

そう言うと、蓮花を連れて裏へ引っ込んだ。

瀬野：美里コーラ持ってけるか？

美里：うん、大丈夫！

蓮花：大丈夫、大丈夫、あたし持ってけるから！ちょっとビックリしけど！

そういうと、蓮花は遠野と野崎の所へコーラを持って行った。

美里：大丈夫かなぁ。

瀬野：あぁ・・・。

蓮花：ご主人様ぁ！お待たせ致しましたぁ！

遠野：おーサンキュ！名前はＮＧなのな！

蓮花：木内蓮花だよ。

蓮花はキャラを守りながらツンデレ口調で答えた。

遠野：蓮花ちゃんね！宜しく！

蓮花：宜しく。

蓮花はまたツンデレ風にその場を去った。

裏の方へ帰ると、瀬野が頭をポンっと撫でた。

蓮花：！

瀬野：おかえり。お疲れさん。

瀬野は笑顔で言うと、カフェの方へ出て行った。蓮花はその場で瀬野の撫でた頭を触った。

美里：蓮花！！もうすぐ終わりだ！

蓮花：（はっ！）・・・本当！やった→！

こうして４人のカフェはようやく終了した。美里と蓮花は着替えてから廊下に出ると、田中らが待っていた。

田中：木内大丈夫か？

蓮花：あーもしかして心配してくれて！うん。大丈夫だったよ。ありがとう。

谷口（マネージャー）：・・・・。

佐藤：大変だったねぇ。２人のメイド姿は写メばっちり撮ったからねぇ。

瀬野：おい！！それ貸せ！！

佐藤：嫌だよー。お前消しそうだし！

瀬野：消せよ！

佐藤：何でだよ！！

美里：・・・・ったくもぅ（ー＿ー；）。

田中：俺らクレープ屋戻るから来いよな。

美里：うん勿論！ね！蓮花！

蓮花：うん！

田中：おい佐藤帰るぞ！

佐藤：おう！

瀬野：アノヤロー！

田中、佐藤は教室へ戻ったが、マネージャーの谷口が蓮花の所へ来た。

谷口（マネージャー）：あの！木内さん！あたし、負けない様に頑張るから！

蓮花：・・・・・？

美里、瀬野：・・・・・。

マネージャーの谷口はそう言うと、４組に戻って行った。

蓮花：どうしたんだろ。メイドになりたいのかな・・・。

美里、瀬野：（おいっ！（－＿－；）違うだろっ）

美里：さぁ～！あと半日楽しもう（＝＾▽＾＝）！

高橋：楽しかったなぁ～カフェ（´∀｀）～。

蓮花：瀬野、さっきはありがとね。

瀬野：いや、よくやったな。

第２４話：戸惑い（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第２４話：戸惑い

美里：蓮花、クレープ屋行こうよ。楓らが入口やっててくれるって。ついでに瀬野も呼んでくるよ。

蓮花：本当？・・・あの美里・・・あたしちょっと具合悪いから保健室行きたい。ごめん。

美里：！まじ！？楓！ここ頼む！

楓：わかった！

美里：行くよ蓮花っ。

蓮花：や、１人で大丈夫だよ。

美里：いいから。

蓮花：・・・ごめん、ありがと。

美里：ごめん、気付けなくて。

蓮花：アハハ、いいよっありがと。みぞおちあたりがムカムカして・・・少し休めば多分大丈夫。瀬野とクレープ食べてきて。

美里：うん。

美里は保健室に付き添い、教室に戻った。

蓮花はベッドに横になった。カフェの接客で見知らぬ男子との接触もあったのが、少しストレスになったようだ。

美里：瀬野～、クレープ食べ行く？

瀬野：蓮花は？

美里は事情を説明した。

瀬野：まじか！？

瀬野は保健室に行こうとした。

美里：今行ったばっかだから、気持ちは解るけど、もーしばらくしてから行きなよ。

瀬野：そうかー・・・。じゃーも少ししてから行くわ。

美里：今、客少ないから今のうち休憩しとこ。

美里と瀬野は４組にクレープを食べに行き、田中にも事情を説明した。

田中：木内が？

佐藤：蓮花ちゃんメイド頑張ってたもんねー。

美里：てかこのクレープ美味し！

瀬野：おぉ旨い。

佐藤：美里ちゃんに言われると嬉しいなぁ♪

瀬野：俺も言ったぞ。

佐藤：あー瀬野、居たんだー。

瀬野：あぇ？

美里：まーまー（ー＿ー）。

そんな話をしながら2人はクレープを食べた後、また教室に戻りカフェを手伝った。それから2時間後、時間は午後4時。

保健室ー

保健室のドアが開く音で蓮花は目を覚ました。

田中：木内？

蓮花：田中くん！

田中：具合は？

蓮花：あ・・・大丈夫みたい。すっかり。ごめんね、クレープ屋行けなくて・・・。

田中：そか。はいコレ。食べて。

田中はクレープを差し出した。

蓮花：わぁぃ（＝＾▽＾＝）感激！わざわざ？ありがと～！おいしそう☆

蓮花は今日何も口にしていなかったので、その場でクレープを頬張った。

蓮花：おいし～！（＞＜）。しかもいちご！

田中：加藤が多分それだろうって（笑）。

蓮花：美里が？さすが解ってるね（笑）。もうすぐ文化祭終わるよね。

田中：あぁ、今４時過ぎだからな。

蓮花：もうそんな時間？

田中：あぁ、元気そうで安心した。俺教室戻るわな。無理すんなよ。

田中は安心した優しい笑顔で笑って言った。

蓮花：わざわざありがと・・・・。

そう言うと田中は教室へ戻って行った。

蓮花：（田中くん優しいなぁ・・・あたし、田中くんの事、ちゃんと考えなくちゃな・・・）

そして入れ違いの様にまた保健室へ誰か入って来た。

瀬野：蓮花ー、気分はぁ？

蓮花：瀬野。

蓮花はクレープを食べていた。

瀬野：お前元気そうな。

蓮花：コレは田中くんが持ってきてくれたから！ていうか、今日何

も食べてないからお腹すいたし・・・。

瀬野：先越されたか・・・良かったよ。元気んなって。ほいっ。

瀬野はポカリスウェットを差し出した。

瀬野：で、これは美里からな。

そう言うと、ポケットから出したのはキャンディーだった。

蓮花：フフッ。ありがと。

瀬野：無理して接客すっからだよ～。

蓮花：だって・・・

瀬野：まぁお前のそゆ所嫌いじゃないけどなぁ。もちっと甘えとけよ。

蓮花：・・・はい。

瀬野：素直だな。相変わらず。アハハ。

蓮花：なんか・・・本当にありがとう。情けないやら何やらで・・・アハハ。結局色んな人に迷惑かけてるね・・・。

瀬野：・・・いんじゃねぇか別に。それでどうのこうの思う連中は

お前の周りにゃいねぇだろ。俺含め。

蓮花：ハハハ・・・そっか。片づけで挽回するわ。

瀬野：もう大丈夫なのかよ。

蓮花：うん、すっかり！

瀬野：だよな。クレープも全部食ったしな。

蓮花：嫌み！

瀬野：アハハ。まぁた頬っぺたついてんぞー。

蓮花：嘘！！！

蓮花は慌てて頬っぺたを触った。

蓮花：何にもついてないじゃんか！！

瀬野：アハハハ！一緒戻れるか？教室。

蓮花：うん。

瀬野：じゃ、戻ろう。お前いねぇと俺元気でねぇから。

蓮花：なにそれ。

瀬野：そのまんまだよ。だから無理してもいいけど、頼れよ俺にはー。

蓮花：・・・無理していいの（笑）？

瀬野：すんなっつってもするだろーお前はー。

蓮花：・・・・。

蓮花は、瀬野の言動に戸惑いを感じていた。

蓮花：（・・・瀬野は好きな子とかいたりするのかな・・・）

第２５話：遅刻（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第２５話：遅刻

美里：お～帰ってきた～♪具合はどう？

蓮花：ごめんごめん。もう全然大丈夫！クレープもキャンディも貰ったし！（笑）。

美里：良かったぁ。

瀬野：もう片づけだろ？

美里：そだよ！

その時美里の携帯が鳴った。『♪♪♪♪～』

美里：はい美里―・・・・はい・・・えぇぇっ！・・・・はぁ・・・・解りました。明日持って行きます。はぁい。

瀬野：？どした？

美里：何かね、メイド服、別の客が欲しいって言ってるから明日までに持って来てくれないかって。あたし明日バイトだよ・・・。

瀬野：お前・・・またお得意のバイトか・・・！

美里：言うと思った・・・だって・・・。

蓮花：あたし持って行こうか？

美里：・・・いいの？

瀬野：！！いいや、俺が行く！！だから蓮花付き合え！

蓮花：いや・・・よくよく考えたら別にあたしが行けば何の問題もないなって思ってさ・・・そんな服返すくらいで・・・大丈夫だよ？

瀬野：俺が一緒だと嫌か？

蓮花：ううん。だってせっかくの土曜日だから、あたし何の予定もないし、瀬野の方をむしろ気使ってるんだけど？

瀬野：俺！？

蓮花：暇なあたしが行けばいくない？

瀬野：俺も暇だよ！！

蓮花：そっか（笑）。じゃぁ、付き合うよ。

美里：（瀬野よ・・・感謝しろよ美里様に・・・）蓮花、サンキュ。

蓮花：いいよー別に。

瀬野：美里バイト頑張れよぉ♪

美里：はいよー（ー＿ー）。

３組は文化祭の片づけを始めた。

楓：なんか大変だったけど超楽しかったねぇ。

高橋：だなぁ（＾◇＾）！またやりてぇなぁ！

瀬野：俺はもう勘弁・・・（ー＿ー；）・・・。

片づけをしていると、瀬野が女子から呼ばれた。教室の戸口の方へ近づいていくと、そのまま瀬野は女子と歩いて行った。

高橋：チクショー！また告白かな！あいつだけ何であんなモテるんだよ！！

蓮花：瀬野どんなスパンで女子から告られてるのかな。

楓：文化祭のボーイ姿が効いてるんじゃないのかなぁ。女子の反応すごかったみたいよ～。

美里：ふぅん。すごいねぇ。

蓮花：（やっぱモテるんだなぁ・・・瀬野って・・・）

そんな話をしていると瀬野が帰ってきた。

高橋、美里、蓮花、楓：早！！！

瀬野：何だよ！！

高橋：お前呼ばれる度に早ぇぇよなぁ、帰ってくんの。告白だったんだろ～？

瀬野：あぁそうだよっ！うるせっ。

美里：いつも即答で返してるの？

瀬野：あぁ、そうだよっ。もういいかっ。

楓：お～ぉ、即答かぁ。

瀬野：あぁ・・・どんだけ言われても響かんもんは響かん。

高橋：贅沢だなぁ・・・お前。

瀬野：どこがだよっ！！はよ片づけろ！！

瀬野は高橋をまた軽く殴った。

高橋：いてぇ！＞（、＾、）＜最近お前俺に八つ当たりしてねぇか！？

瀬野：してるよっ！

高橋：認めるのかよっ！＞（＾＾）＜

美里：アホらし・・・とっとと片づけよ。

楓：そだね・・・。

蓮花：・・・（やっぱ好きな子いるのかな・・・）。

文化祭の後片付けも終わり、下校時間になった。

美里：蓮花！明日頼むね！

蓮花：うん。

瀬野：おい、明日北公園の前集合でいいか？

蓮花：いいよ。１１時くらいで大丈夫？

瀬野：おぉ！北公園前に１１時な！！

そして翌日―

蓮花は北公園の前のベンチで瀬野を待っていた。蓮花の洋服は、ミルクティーベージュでＶネックのドルマンニットワンピに、ダークブラウンのナウシカブーツ。とても良く似合っていた。

瀬野を待つ事２０分・・・

蓮花：（瀬野の携帯聞いとくんだったなぁ・・・美里に聞くか・・・バイト中電話でれるかな・・・）

瀬野を待つ事４０分・・・

蓮花：（あいつすっぽかすタイプじゃないし、もしかして事故とか・・・不安なってきた・・・）

瀬野を待つ事１時間・・・

蓮花は美里に電話した。

美里：はいはい美里―

蓮花：今大丈夫？美里。

美里：うん、少しなら！どした？

蓮花：瀬野さ！来ないの待ち合わせに！あいつさ、ブッチする様な性格じゃないし、もしかして事故とかかと思って美里、瀬野の携帯

知らない！？

美里：あいつ遅刻してんの？え～！！大丈夫、事故じゃないって！寝坊かなんかじゃないの？（ったくあいつ何やってんだかっ）携帯言うよ！０９０－××××－××××！また何かあったら電話して！

蓮花：ありがと！

そう言うと電話を切り、蓮花は瀬野に電話を掛けたが、電話に出なかった。蓮花は1人でどんどん不安になっていった。すると、遠くから蓮花を呼ぶ声が聞こえた。蓮花が声の方を振り向くと・・・

瀬野：悪ぃ！！！！

瀬野が慌てて走ってきた。瀬野の格好は・・・寝ぐせ付の上はパーカ。下は7部丈のパンツにサンダルだった。よほど慌てて家を出たらしい。蓮花は安心したと同時に怒りがこみ上げてきた。

蓮花：！！！遅いし、心配したし！！もう！！

瀬野：本当にすまん・・・昨日寝れなくて・・・。

蓮花：何！夜更かし！！？？

瀬野：いや・・・そんな所で・・・（緊張して寝れんかったとはとても言えん・・・）。

蓮花：マック！！

瀬野：？

蓮花：ポテト付ね！！

瀬野：それで許してくれんのか？

蓮花：事故にでもあったのかと思ったじゃん！来たからいいよっ、マックで許す！！

瀬野：ハハ・・・サンキュ・・・！

瀬野は我に帰り私服の蓮花を見て、また可愛いと思った。と同時に自分の格好にビックリした。

瀬野：おいっ！一旦俺ん家行くぞ。

蓮花：っはぁ～？何でっ！

瀬野：だって俺の格好見てみ！パジャマだろ！こんな奴と歩きたいかよお前！

蓮花：瀬野は瀬野じゃん！別にどんな格好でもいいよっ。

瀬野：・・・・それはそれで嬉しいか・・・って違う！！嬉しいけど、俺が嫌だ！頼む蓮花！

蓮花：あ～はいはい。行きますよ（－＿－；）。遅刻した上に・・・・。

瀬野：ごめんなさい・・・サラダも付けます。

蓮花：勿論。

瀬野は遅刻はしたものの、1時間強も待っていてくれた事がすごく嬉しかった。そして、蓮花と待ち合わせをして休日に出かけるという事がまた、たまらなく嬉しかった。↑そして寝れず寝坊した・・・。

瀬野：お前、可愛いな・・・。

蓮花：！！照れる！！

瀬野：超！可愛いな。

蓮花：！！

瀬野：アハハ。

蓮花はすごいドキっとした。2人は瀬野宅へ向かい、蓮花は美里にメールをした。

美里バイト先―

『♪♪♪～』

美里：・・・（ったく、なぁに遅刻してんだか・・・）（－－〆）

第２６話：携帯（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第２６話：携帯

蓮花：瀬野ん家ってこの付近？

瀬野：あぁ、こっから１０分くらい歩いた所かな。

蓮花：そっかぁ。

２人は話ながら歩いて瀬野宅へ到着した。

蓮花：あたし外で待っとくよ。

瀬野：え？家入るの抵抗あるか？男所帯だけで結構散らかってるし（笑）親父いるけどな。

蓮花：・・・おじゃまして平気なら・・・中で待ちます。

瀬野：どぉぞ～。

蓮花は中へ入り、辺りを見回すと、ソファには脱ぎっぱなしの服が置いてあった。

蓮花：・・・・。

瀬野：悪ぃ！

瀬野はソファの服を慌ててどかした。

瀬野：適当に座って待っててくれ！

蓮花：はぁい（笑）。

そこへ、瀬野のお父さんが入ってきた。

蓮花：！！あ！おじゃましています。瀬野くんのクラスメイトの木内蓮花と言います！

瀬野（父）：颯真（ソウマ）の彼女かぁ？こりゃまたべっぴんさんだなぁ！

瀬野：違うよ・・・。

瀬野（父）：颯真（ソウマ）が女の子連れてきたのなんて初めてだなぁ！そうかそうかぁ！

瀬野：いいから部屋戻ってくれよっ！

蓮花：そんなっ、あの、すぐ家出ますんでっ。

瀬野（父）：いやぁ、俺はゴルフ行ってくるからゆっくりしてきなさい！

蓮花：ゴルフ？

瀬野（父）：あぁ、休みの日はもっぱら（笑）！蓮花ちゃんみたいな子が颯真（ソウマ）はタイプなのかぁ～。いやぁ、我が子ながら目が高いというかなんというかぁ～わははははっ。

瀬野：だから！！早く打ちっぱなし行ってくれ！！

瀬野（父）：まあそう言うなよ。蓮花ちゃんまた家に来てくれなぁ。男所帯でつまらんから～（笑）颯真（ソウマ）を宜しく頼むね。

蓮花：はっはい！！いってらっしゃい！

瀬野：・・・・。

そういうと、瀬野の父はゴルフへ向かった。

瀬野：すまん・・・。

蓮花：ううん、瀬野に似てる（笑）。

瀬野：あぁ、俺父ちゃん似。そこ座ってちょっと待っててくれな。

蓮花：うん。

そう言うと瀬野は着替えに行き、１０分くらいすると居間に戻ってきた。瀬野の格好は、下はダメージ風ブルージーンズに、上は白黒

グレーのボーダーのニット。それに黒のネックウォーマーをしていた。

蓮花：瀬野雰囲気全く変わるね・・・私服だと・・・。

瀬野：お互い様だろ。

蓮花：格好いいね。

瀬野：！！照れるだろ！！

蓮花：超！格好いいね！

瀬野：！！

蓮花：アハハ！

瀬野：お前、さっきのお返しか！！

蓮花：アハハ！行こうか～マック！

瀬野：マックが先だな。

蓮花：もう1時だよ！！先！

瀬野：はぁい。

そう言うと、2人は瀬野宅を出てマックへ向かった。

蓮花：瀬野さぁ、家に彼女とか連れていった事ないの？

瀬野：俺、彼女今まで居た事ないぞ。

蓮花：えぇ～！！あんなモテるのに！？

瀬野：だから、モテるのと彼女居るのは比例しねぇって話したろ。

蓮花：・・・あぁ、した・・・。

瀬野：お前はー・・・居た事ないよな？。

蓮花：おっしゃる通り。居る訳ないよね（笑）。

瀬野：アハハ。

蓮花：じゃぁ・・・・・なんでもないや・・・。

瀬野：何だよっ。

蓮花：別にぃ。

蓮花は好きな子はいた事ないか聞こうとしたが、何となく聞くのを止めた。

蓮花：マック到着ぅ♪

瀬野：・・・ポテトとサラダ付だろ？よく食うよな。

蓮花：わぁい！ラッキィ♪瀬野遅刻して良かった！

瀬野：何だそりゃ・・・。

2人はマックで食事をした後、コスプレショップに服を返却しに行った。

瀬野：ようやく今日のメインだな。

蓮花：ん～？あたしのメインはマックだったな！

瀬野：そっか（笑）。

蓮花：ごちそう様！ありがとね。

瀬野：いやぁ・・・よく1時間も待ってくれたよな。

蓮花：ん？あぁ・・・そうだねぇ・・・あたしも意外（笑）・・・。

瀬野：なんだそりゃ。お、着いた着いた。何回来ても慣れんわっ。

ちわ～！！

店長：あらぁ、お似合いのお二人さん！ごめんなさいねぇ急かしちゃってぇ！助かるわぁ！

瀬野：いえ、どうもです・・・。

店長：末永くお幸せにねぇ～♪

蓮花：・・・アハハ・・・。

２人はようやくコスプレショップに服を返却できた。それからしばらく歩き・・・

瀬野：家まで送ろうか？

蓮花：・・・逆方向になるからいいよ。ありがと。

瀬野：そか・・・今日はありがとな。

蓮花：全然！楽しかったよ。マックもご馳走になったしね！・・・それじゃね！

瀬野：おぉ明後日なぁ。

瀬野と蓮花はお互いの家に歩いて帰った。

午後１０時―

瀬野は携帯のランプが光っているのに気付いた。

瀬野：あれ？俺今日携帯１回も見てねぇな・・・誰だこの着信・・・昼過ぎ・・？

見知らぬ番号からの着信があって、瀬野はリダイヤルした・・・『♪♪♪♪♪・・・』

蓮花：はいはい？

瀬野：・・・もしもし・・。

蓮花：どしたの瀬野。

瀬野：！！え！！？蓮花！？この着信お前か？

蓮花：何でよ今頃（笑）！美里に聞いて掛けたんだよ。

瀬野：今気付いた・・・すまん。

蓮花：ううん、瀬野今日ズレてばっかだね（笑）！

瀬野：ハハ・・・お前今何してたの？

蓮花：お風呂上がり。瀬野は？

瀬野：俺も風呂上がり・・・お前・・俺の番号消すなよ。

蓮花：もう保護ったよ（笑）。

瀬野：そっか！俺も保護るわ。

蓮花：うん、お願い。

瀬野：あー・・・じゃぁ・・おやすみ！

蓮花：うん、またね・・・おやすみなさぁい。

2人は電話を切った。

瀬野：（おやすみなさい・・・か。ていうか）・・・番号・・・・・・やったぁ！！

瀬野は大きく声を上げた。

蓮花：フフッ。何か不思議・・・。

第２７話：彼氏彼女の定義（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第２７話：彼氏彼女の定義

次の日―

瀬野：おっす美里ぉ！

美里：あんた昨日！

瀬野：あぁすまん・・・。

美里：すまんじゃないよ～！蓮花すごい心配して電話掛けてきたよ。
瀬野はブッチする様な奴じゃないから事故じゃないかーって。

瀬野：・・・そか。そんで携帯を。

美里：だよ～あんた何で携帯も聞いとかないのよ。

瀬野：すまん。携帯は聞かれんの嫌かと思ってたしよ、先に美里に掛けりゃよかったよ。サンキューな。

美里：いいえぇ、もとはと言えばあたしが頼んだ事だしねぇ。

２人が話をしていると蓮花が教室に入ってきた。

瀬野：おっす！昨日はどうもなぁ。

美里：今説教したからさ！

蓮花：アハハ！ありがとね！

瀬野：・・・本当に・・・すまん。

蓮花：アハハ！ぜぇんぜんいいよっ。結果楽しかったし（笑）。

楓：美里ちゃん、次選択だよ～！教室行こー。

美里：あ！そうだった！じゃ、あたし行くね！

蓮花：はいはぁい！いってらっしゃぁい！

すると廊下から蓮花を呼ぶ声がした。

田中：木内！美術一緒行こう。

蓮花：あー田中くん！うん、今準備する！

蓮花はロッカーに美術の用意をしに向かった。

瀬野：お前は４組だからさっさと１人で行けよ！

田中：選択一緒なんだから一緒行っても問題ねぇだろっ。お前もグラウンドじゃなかったのかよっ。

瀬野：あぁ、そうだよ・・・（ー ー〆）

蓮花：田中くんごめん！お待たせ！

蓮花はバタバタと用意をして帰ってくると、絵筆を1本落とした。

瀬野：蓮花落としたぞ～、ホレ。

田中：・・・（蓮花・・・）。

蓮花：あー！ありがと！じゃね！

田中と蓮花は美術室へ向かった。

高橋：瀬野、グラウンド行くぞ！

瀬野：あぁ行くよ！

高橋：・・・ははぁん、段々お前の機嫌損ねる原因が解ってきたよ・・・。

瀬野：！！あ〝！？

高橋：そうかぁ・・・片思いか・・・瀬野ともあろう奴が・・・ぶくくっ（笑）片思いっ。

瀬野は高橋の頭をまた軽く殴った。

高橋：いてぇ！！＞（、＾、）＜図星だな！！

瀬野：グラウンド行くぞ！！

高橋：けどお前と話する時の木内さ、すげぇ話し易そうな奴に見えるよなぁ。

瀬野：言ってる意味がさっぱり解らん。だって話し易いぞ。

高橋：・・・・（いや、それはお前だからじゃねぇのか・・・）。

美術室―

蓮花：田中くんこの前クレープありがとね。すんごい美味しかった。

田中：そりゃ良かった（笑）。気分悪くて保健室行ったって聞いた時は心配したけどな。クレープ美味しそうに食べてくれたから安心したよ。

蓮花：アハハ。

蓮花は田中の告白を思い出しながら授業を受けていた。

蓮花：（真剣に考えなきゃな・・・みんなどうやって付き合うんだろうか・・・普通の友達の定義と彼氏彼女の定義って何が違うんだろう・・・あたしそこからなんだな・・・普通が解らんなぁ・・・）

田中：・・・なんか難しそうな顔してんな。

蓮花：（はっ！）えっ！本当！？

田中：あぁ、今いつもの木内に戻った（笑）。

蓮花：らしくなく考え事・・・アハハ・・・。

田中：そっか（笑）。

橋口（先生）：じゃ、今日はここまで来週は自画像入るからなぁ～！

美術の授業が終わり、田中と蓮花は教室へ戻った。すると佐藤と美里が何やら話をしていた。

美里：何、来週って。

佐藤：だからーサッカー練習試合あるから応援きて！

美里：あたしバイトあるしさ～。

佐藤：あ～蓮花ちゃん！蓮花ちゃんも来てよ！美里ちゃんと一緒にさ！

蓮花：は？

田中：お前何事だ？

佐藤：いや来週土曜日俺ら練習試合だろ？美里ちゃんら来てくれたらさ～、テンション上がるしさ～！

蓮花：田中くんも練習試合なんだ。

田中：あぁ南校とな・・・。

佐藤：田中からも頼んでくれよ。

田中：は？・・・あー・・・用事なけりゃ来てくれると嬉しいけど。

蓮花：あたしは大丈夫だけど。

美里：・・・わかったよ・・・バイト休むよ・・・。

佐藤：わ～ありがとー！絶対来てよね～！

田中：悪ぃ、サンキュ。

蓮花：うぅん。

田中と佐藤は教室に戻って行った。

蓮花：佐藤くん美里に来て欲しそーだったよ。

美里：えー？あたし大人男子が好みなんだけどー？

ねぇ美里、みんなどうやって彼氏彼女になるの?あたし定義が解んない。何か違うの?友達と。何で付き合うの?

美里：そりゃ～違うっしょ～?友達は友達よ。彼氏になりゃ手繋いだりさ、キスしたり?できんじゃん。

蓮花：キス!?それする為だけの定義なの?

美里：定義・・・また難しくなってきたねぇ・・・それをする為って言うより、したいって思うだろうし、もっと一緒に近くに居たいって思ったりしてくればさ、友達じゃぁそりゃ無理しょ。

蓮花：・・・そういう気持ちがそうなのかぁ・・・。

美里：そんなもん、なろう!!とか思ってなれるもんじゃなし、気付いたらなってたりするもんだよ。自然に。あんま考えなさんな。特に蓮花の場合、場数?・・・やっぱ男子と話さないと気持ちの違いにも気付きにくいかもねぇ・・・（おまけに鈍感だし・・・）。

蓮花：男子と・・・（ー＿ー；）。

美里：だから、あんま深く考えないで。なる様にしかならないからさ、大丈夫だよ。また何かあったら言ってきな。

蓮花：うん。ありがとう。

そこへ体育を選択している瀬野らが帰って来た。

高橋：瀬野やっぱ足早ぇぇなぁ。１００ｍ１１秒代ってお前陸上やってたのかぁ？

瀬野：中学ん時な！

高橋：どぉりで早ぇぇはずだわ！

瀬野：お前らにも俺様の走りを見せたかったよ～！

美里：あ～はいはい、見たかったぁ～！瀬野くんの走りぃ～！

瀬野：お前軽くバカにしてんなまた・・（－－〆）何なんだそのあしらい方は・・・。

蓮花：アハハ！あたしは見たかったよ！

瀬野：そっか！！だろ！？

高橋：・・・嬉しそうだな・・・。

瀬野：うるせっ！黙れお前は！！

美里：（－－〆）アホらし・・・。

蓮花：？

第２８話：風邪（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第２８話：風邪

佐藤：美里ちゃぁん！蓮花ちゃぁん！明日応援宜しくねぇ！

美里：はいはぁい！ていうか勝算あんの？

佐藤：当たり前じゃぁん！

田中：練習試合なのに緊張してくんな・・・。

蓮花：え～？本当？頑張ってね！

田中：おぉ！また明日な！

美里、蓮花：また明日ぁ～！

そこに瀬野が入ってきた。

瀬野：また明日って何だよ。

美里：サッカーの応援頼まれたから明日行くの。あたしと蓮花。

瀬野：頼まれたぁ？お前らはあれか！！頼まれればどこにでも行くのかよ！！

美里：だってねぇ、彼氏いる訳じゃないし、自由よねぇ蓮花ぁ！

瀬野：！！

蓮花：・・・うん、ていうか瀬野、風邪？

瀬野：あぁ、多分。

美里：あ！！あたしお昼のパン頼んでくるね！今日楓当番だ！

蓮花：うん。

美里は慌てて楓の所に行った。

瀬野：お前も明日行くんだろ・・・？

蓮花：うん。行くけど、佐藤くんが美里に来て欲しそうだった（笑）。

瀬野：田中も来るんだろー？

蓮花：そりゃサッカー部だもん。瀬野も来たいの？

瀬野：行くか！！

蓮花：ハハハ・・風邪大丈夫？

瀬野：あ～そのうち治るよ・・・多分。

翌日―

サッカー練習試合：南校ＶＳ北校　１２：００

佐藤：あ～美里ちゃぁ～ん！

佐藤はグラウンド中央から手を振っていた。

美里：・・・本当元気な奴だな・・・あ！試合始った！

美里：佐藤ってさぁ、ヘラヘラしてるけど試合中すごい真剣。意外ー。田中も一見穏やか青年だけど攻めるねぇ！

その時、佐藤のパスで田中がゴールを決めた。

美里、蓮花：お！！すごい！

美里：何だ本当に強いじゃん。

蓮花：どんなんだと思ってたのよ。うちのサッカー部結構強いでしょ？田中くんサッカーで引っ張られてたし、佐藤くんもじゃないのかな。かなり上手いよね。

美里：そうなのぉ？知らなかったぁ。

試合は南、北共に譲らず接戦のまま、ハーフタイムのホイッスルが鳴った。

佐藤：美里ちゃぁん！俺のパス見てくれてたぁ？

美里：見てたぁ！全然普段と違ってビックリぃ。

佐藤：惚れ直したかなぁ。

美里：直すっていうか、惚れてないからその前に（－＿－〆）。

佐藤：辛口だなぁ美里ちゃん。蓮花ちゃんも見てたぁ？

蓮花：・・・うん見てた・・・勝ちそうだね・・・。

田中：勝つよ！サッカーは譲らねぇからなぁ。

蓮花：だっただった！頑張って！

田中：おう！

そして瀬野宅―

瀬野は病院から帰宅した。

瀬野：あーしんどい・・・何で熱出んだよ・・・。

昨日の夜から発熱し、朝から病院行きで点滴をして帰って来た。

瀬野：（今頃サッカー応援中かぁ・・・くそっ・・・しんどいはイライラするわ・・・最悪だな・・・）あ〜!!・・・頭痛て・・・。

南校グラウンド―

ハーフタイムも終わり、試合は後半戦へ突入していた。

美里：お〜2―1!佐藤がゴールした!

蓮花：よくあんな人抜けれるね!本当に上手・・・。

美里：あ!また入れた!今度は3年かぁ。考えてみたらあの2人1年からレギュラーってすごいよね・・・。

蓮花：そうだねぇ。

後半からは北校の追い上げムードで、３－１で北校勝利で試合終了した。

田中：応援サンキューなぁ！

美里：おめでとう！いやぁ、見直しちゃったぁ！

田中：見損なってたのかよ・・・。

美里：いやぁ、攻撃のイメージ全く無かったからさぁ（笑）。

蓮花：田中くん中学ん時から凄いよね。

田中：！！ハハっサンキュ！

佐藤：美里ちゃん俺はぁ？

美里：見直したよ！

佐藤：え～見損なってたのぉ？

美里：うん。

佐藤：ひでぇなぁ・・・。

田中、蓮花：アハハ。

美里：うちらさ、電車の時間あるから、先に帰るよ。

田中：俺らまだ色々あるし、今日は本当にサンキュ！

佐藤：また来てよねぇ！

美里：解った来るよ！じゃね！

蓮花：またねー。

美里、蓮花は電車で帰り、北駅で別れた。

蓮花：じゃね、美里！

美里：うんまた明後日～！気をつけて帰ってね！

蓮花：はぁい！美里もねぇ！

蓮花は美里と別れて歩いて家に向かっていたら、携帯が鳴った『♪♪♪♪～』。

蓮花：（あれ・・瀬野だ。）はいはい？

瀬野：・・・。

蓮花：もしもぉし！

瀬野：・・・サッカー終わったか？

蓮花：あぁ、今美里と別れて帰ってる所だよ？てゆか大丈夫？すごいきつそうだよ。

瀬野：あー少し熱あるだけだよ。

蓮花：お父さんは？

瀬野：いや、出張・・・。

蓮花：・・・病院は？

瀬野：・・今朝行った・・・。

蓮花：・・・何か食べたの？

瀬野：あ～昼頃カップ麺食ったよ・・・。

蓮花：カップ・・・そっか・・・。

瀬野：・・特に用事っつー用事じゃなかったんだ・・・またな。

蓮花：うん。

蓮花は電話を切った。

瀬野：・・・・（そか、帰ってんのか・・・）。

しばらく瀬野が寝込んでいると、家のインターフォンが鳴った。

瀬野：・・・誰だよ・・・。

ピンポン×３『♪♪♪～』

瀬野：あ゛ー・・・もう・・。ハイ・・・。

瀬野がドアを開けると・・・

瀬野：！！なんで！！？？

蓮花：熱何度よ？

瀬野：・・・３８度くらい・・。

蓮花：あの、上がってい？

瀬野：・・・あぁ・・どうぞ・・・。

第２９話：意外な宿泊（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第２９話：意外な宿泊

蓮花：うわ、具合悪そう・・・迷惑かとも思ったんだけど、無いよりはましだろうと思って、色々買ってきたの・・・カップ麺とか言ってたし。

瀬野：・・・サンキュ・・・。

蓮花：まず、熱計って。

瀬野：はい・・・。

瀬野は部屋へ行き、ベッドに横になりながら熱を計った。

『ＰＰＰ！！』

蓮花：３９．２度！？ねぇ、薬飲んだの？

瀬野：・・・飲んでない・・・。

蓮花は瀬野のパーカーを触ると汗びっしょりで、布団もかぶらず、アイス枕も勿論していない。

蓮花：・・・ひとまず着替えようか、瀬野、タンスやらキッチンや

らちょっと借りるよ！

瀬野：あぁ・・・すまん。

蓮花は何枚かのシャツを取りだし、瀬野に着替えをさせ窓を開けて喚起をした。そして冷蔵庫へ行き、アイス枕を探して瀬野の所へ持っていった。

瀬野：・・・悪ぃ。

蓮花：全然。

蓮花は祖母へ電話を掛け、事情を説明した。

祖母（咲）：そう・・・そしたら具合良くなるまでついてなさいな。瀬野くんのお父さんに1本電話入れて許可だけとっときなさいよ。どうせ明日日曜だし、おじぃちゃんには私から話しておくから。何か困った事が起きたら夜中でもいいから電話してきなさい。

蓮花：うん・・・わかった。本人にも聞いてからまた電話するね。

そうして蓮花は電話を切り、瀬野の部屋へ行った。

蓮花：瀬野？

瀬野：ん～？

蓮花：瀬野さえ良けりゃなんだけど、あたし今日居ようか？

瀬野：！！え！？

蓮花：具合かなりひどいみたいだし、ばぁちゃん電話したらそうした方がいいかもって。言ってる場合じゃないかもって感じだけど、うちお節介家族でさ。

瀬野：・・・居てくれんの・・・？

蓮花：居ていいなら・・・看病させていただくけど・・。

瀬野：・・・居てくれんなら、すげー嬉しい・・・けど・・・俺格好悪・・・。

蓮花：あ～・・格好良いと思った事ないから安心して。

瀬野：・・・居てくれんなら、なんでもいいや・・。

瀬野はなんだか安心した。

蓮花：瀬野さ、お父さんに電話掛けてよ。事情だけ説明させて。

瀬野は父に電話を掛け、事情を話した後、蓮花に代わった。

瀬野（父）：ごめんね、蓮花ちゃん。親戚近くにいたら頼むんだけど、みんな遠くて・・・あいつの母親とも・・・。

蓮花：あ！！大丈夫です！それは気にしないでください！

瀬野（父）：そうか、ありがとう。そしたら颯真宜しく頼む。

蓮花：はい、それじゃぁ。

蓮花は祖母にまだ折り返し電話をし、成り行きを説明した。

祖母（咲）：そう。おじぃちゃんがね、困った事あったらすぐに電話しなさいって。

蓮花：うん。ありがとう。それじゃぁね。

蓮花は電話を切った。

蓮花：瀬野あんま食欲ないでしょ？おかゆとかもＮＧ？

瀬野：あー食いたくねぇ。

蓮花：そか。じゃぁリンゴすりおろしてくるよ。それ食べてから薬飲も。

そう言うと蓮花はキッチンへ行き、リンゴをすりおろして瀬野の所へ持って行った。

蓮花：瀬野起きれる？起きれなかったら食べさすよ？

瀬野：！！・・・それはいい・・自分で食う。

蓮花：そか。お水ここに置いとくよー。あたし向こうの部屋行っとくね。

瀬野はリンゴを食べてから、薬を飲んで横になっていると、いつの間にか寝入っていた。蓮花はしばらくしてから、食器を下げに瀬野の部屋へ行った。

蓮花：（よく寝てる・・・）

ＰＭ１０：００－

瀬野：・・・あれ？？今・・・１０時・・・夢・・・？

瀬野は目が覚めたので、部屋を出て、細い廊下を歩いてリビングへ行くと、ソファに蓮花が居た。

瀬野：・・・夢じゃない・・・。

瀬野は普段も風邪の時も家に１人で居る事が多く、ソファに居る蓮

花を見てすごく安心した。

蓮花：・・・ん？・・・あ、起きたんだ。

そういうと蓮花は起き上がり、瀬野のおでこに手を当てた。

瀬野：・・・・・。

蓮花：少しは下がったかなぁ・・。

瀬野：あぁ・・・ちょっとは楽んなってる・・・。

蓮花：そうか。熱計ってみよっかまた。お腹すいてない？プリンとか果物あるよ？

瀬野：・・・・。

その時、瀬野は蓮花を思わず自分の方へ抱き寄せた。

蓮花：・・・瀬野？

瀬野：サンキューなぁ。

蓮花：・・・ううん・・・・メロン、いる？

瀬野：あぁ、いる・・・（熱のせいで理性が全く働かん・・・）。

蓮花：（・・・・・何・・・・・）

瀬野：風邪うつるな…悪ぃ。

そう言いながら蓮花をそっと離した。

蓮花：・・・。

瀬野：メロン食いたい。

瀬野は可愛らしい笑顔で蓮花を見ながら言った。

蓮花：！！今、切る！

蓮花は突然の瀬野の行動に一瞬止まってしまい、瀬野の笑顔を見て、胸の奥がキュッと締め付けられる様な感じがした。

蓮花：（あたし・・・拒否れなかった・・・・違う・・拒否らなかったんだ・・・）

第３０話：気付き（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第３０話：気付き

蓮花：（拒否らない・・・て・・・あたしと瀬野の距離って今どんくらいなんだろう・・・すごく近い気がするけど・・あたしこれに慣れてる・・・）

瀬野：体温計ってくるわ。

蓮花：・・うん。切ったら部屋持ってくよ。プリンもいる？

瀬野：あぁ、いる。

蓮花：（男子ってみんなこんなに近いもんなのかな・・・瀬野だけかな・・・田中くんとは・・・また違った距離感だな・・・瀬野に慣れすぎた？・・・あれ？・・・解んなくなってきたな・・）

蓮花は瀬野の部屋へメロンとプリンを持って行った。

蓮花：瀬野入るよー熱どう？

瀬野：３７．５度。

蓮花：さっきよりはましか。シャツ着替えて、これ食べて、薬！ね！？あたしまたリビング居るから。

瀬野：はいはい、サンキュ。

蓮花が部屋から出ていくと瀬野は言われた通りにシャツを着替えて、薬を飲んで横になった。

しばらくしてから蓮花は瀬野の様子を見に行ったら、瀬野は、薬のせいかぐっすり寝入っていた。

蓮花：朝熱下がってるといいけど・・・。

蓮花はそのまま瀬野のベッドの横に座り込んだまま寝入ってしまった。

ＡＭ３：００―

瀬野はふと目を覚ました・・・。月明かりが窓の隙間から差込、ベッドにもたれかかる様に寝ている蓮花が目に入ってきた。瀬野は蓮花の手を握りそのまま寝入った。

ＡＭ８：００―

蓮花：・・・・ん・・・・朝・・・・・あたし寝ちゃったんだ・・・。

蓮花は自分の手を握ったまま寝入っている瀬野に気付いた。

蓮花：（・・・手・・・）

蓮花はそっと手を離した。

蓮花：（・・・何で握ってたんだろ・・・）

すると瀬野が目を覚ました。

蓮花：！おはよっ。

瀬野：・・・寝ぐせすげ。

蓮花：瀬野もね（笑）。

瀬野：恥ずかしー・・・。

瀬野はうつ伏せになった。

蓮花：いいから、ちょっと熱計ってみて（笑）。

瀬野は熱を計ると・・・

瀬野：３６．５度！

蓮花：やったぁ！よかったぁ！熱下がったね！瀬野おかゆ食べれる？

瀬野：あぁ、食べる。サンキュ。

瀬野はクスリと笑った。

蓮花はキッチンへ行き、おかゆを作っていると・・・

蓮花：・・・ねぇちょっと、すごい見られてて緊張するんですけどっ。

瀬野：や～なんかいいなぁって思って。

蓮花：は？

瀬野：俺もう１回熱だそうかな。

蓮花：あんなきつそうだったのにぃ（笑）？

瀬野：だってお前来てくれるし。

蓮花：強制的にそうなるの（笑）？

瀬野：強制だろ～。

蓮花：瀬野から強制されたい女子いっぱいいそうだね（笑）。

瀬野：何だそれっ。呼ぶかよっ。つかその前に家に上げるかっ。

蓮花：・・・あたし・・。

瀬野：蓮花だから上げたに決まってんだろっ。

蓮花：そか。

瀬野：当たり前だ！！

蓮花：信用してくれてありがとね。

瀬野：信用・・・つうか・・・（こいつは本当に鈍いな・・・・（ー―；）））。なぁ・・・お前は風邪んなったのが他の奴・・・田中とかでも看病したのか？

蓮花：？うん。美里でも田中くんでもこういう状況だったらしたと思うよ？

瀬野：・・・そっか・・・お前の特別にはどうやったらなれるんだ・・・？

蓮花：・・・？あたしの特別・・・？

瀬野：・・・や・・・何でもね・・・おかゆできた！？

蓮花：あ・・・できた・・。

蓮花はおかゆと果物を瀬野の所へ持って行った。

蓮花：あのさ・・・あたし瀬野にすごい慣れちゃってて、迷惑じゃないのかな・・・全部受け止めるって言われてから多分あたし、全然遠慮なくなってるし、瀬野は本当にあたしを拒否らないし、どんどん距離近くなってる気がするしっ。

瀬野：迷惑な訳ねぇだろ・・・。

蓮花：あ・・・そ・・・。

瀬野：俺と距離近くなるのは嫌か。

蓮花：・・・嫌じゃない・・・だから困ってんの。

瀬野：？は？

蓮花：よく解んない・・・だって・・・・。

蓮花は瀬野と話をしているうちに段々自分の気持ちに気付いてきた。瀬野との距離が近くなればなる程に瀬野に惹かれていく自分に気付いたからだ。

これ以上近くなると今以上に瀬野の事を好きになる事になる。そうなると、きっと自分が辛くなるだろう事を想像していた。

瀬野の受け止める発言から素の自分で飾る事なく初めて男子と向き合う事ができた蓮花は、自分のコンプレックスに一緒に正面から逃げずに付き合ってくれた瀬野が、いつの間にかすごく特別な存在になっていたのだ。蓮花の間合いに瀬野は既に入っていた。

蓮花：なんでもないや・・・おかゆ冷めちゃう。

瀬野：頂きます！！

蓮花：どうぞ・・・（瀬野と近くなるのは私は嫌じゃないけど、私の近いと瀬野の近いに差が出だしたら・・・ちゃんと距離を取らなくちゃ・・・これ以上は甘えらんない・・・）・・・薬ちゃんと飲んだら、あたし片づけして帰るよ。具合もよくなったみたいだし。

瀬野：もう帰るのかよー・・・咲さんか健三さんに電話掛けてよ。俺お礼言うから。

蓮花：あ、うん。

蓮花は祖母に電話を掛けた。

祖母（咲）：あ、蓮花？どう？瀬野くんの様子は？

蓮花：大丈夫だよ、本人に代わるね。

瀬野：もしもし！

祖母（咲）：まぁ、瀬野くんお久しぶりねぇ！具合はどぉお？

瀬野：お陰さまで熱もすっかり下がりました。ありがとうございます。健三さんは？

祖母（咲）：おじぃちゃんは朝から近所の人の家に囲碁に行ってるのよぉ。瀬野くんから電話あった事はきちんと言っておくわね。わざわざありがとね。

瀬野：いえ、こちらこそ。

祖母（咲）：また家にご飯食べにきてね（＾◇＾）。

瀬野：是非。ありがとうございます。

祖母（咲）：蓮花には適当な時間に帰ってきてって伝えてちょうだい。それじゃぁね。

瀬野：それじゃ。

瀬野は電話を蓮花に渡した。

蓮花：もしも・・あれ？切れてる（笑）。

瀬野：適当な時間に帰ってこいだと。

蓮花：そか（笑）。帰ってお風呂入って寝よ！

瀬野：・・・本当にサンキューな。

蓮花：いいよこれくらい！具合また悪くなったら電話してね。

瀬野：あぁ。

蓮花は後片付けをし初めた。

瀬野：後は俺適当にやるよ。疲れてんだろうから、家早く帰って休め。うちで休んで帰ってもいいけど。

蓮花：・・・うぅん、大丈夫。ありがと。

瀬野：送るよ。

蓮花：病み上がりにやめてよっ！ゆっくし休んでよねっ。また心配なるじゃん。

瀬野：・・・そか・・。

蓮花：そだよ。じゃ、帰るねあたし。

瀬野：うん、また学校でな。

蓮花：うんまたね。

瀬野は少し寂しかった。本当は蓮花を思い切り抱きしめたかったが、理性で押さえながら蓮花を見送った。
蓮花もまだ瀬野のそばに居たかったが、言い出すのも変な話で、そのまま帰宅した。

第３１話：遠くなる距離（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第３１話：遠くなる距離

月曜日―

瀬野：蓮花！おっす！

蓮花：瀬野・・具合良くなった？

瀬野：お陰さまでー。

蓮花：良かったぁ。

田中：木内！土曜応援サンキューな！

廊下を通りかかった田中が話掛けてきた。

蓮花：あ、田中くん！おはよ。

瀬野：お～っす。サッカー勝ったのかよ。

田中：当たり前だ。木内応援来てくれたからなぁ。

瀬野：（￣￣〆）・・・！！

蓮花：大げさぁ～（笑）。

田中：アハハ！大げさじゃねぇよ！じゃな！

瀬野：！！！

田中は４組の教室へ入っていった。

蓮花：美里おはよぉ～。

美里：あ！おはよ！

瀬野：おっす。

美里：ねぇ蓮花！金曜から蓮花の好きな監督の映画始まるじゃん。行くの？

蓮花：勿論！チェック済！

瀬野：お前映画好きなの？

蓮花：大好きー。

瀬野：監督までチェックしてんの？

蓮花：キャストで決める事もあるけど、大体監督は必ずチェックするよ。

そこへ若干空気の読めない、クラスメイトの高橋が入ってきた。

高橋：何だ～？瀬野フラれたのかぁ？

瀬野：何だよ！！

高橋：だってよ～瀬野がフラれてる所面白いだろ～？（＾◇＾）

高橋は瀬野からまた殴られた。

高橋：＞（＾、＾）＜いってぇ！何だよぉ！

瀬野：うるせぇお前は！！

高橋：片思いだからって焦んなってぇ！！

瀬野：！！！

瀬野は高橋を引きずっていった。

高橋：だ～！！美里ぉ！助けてくれぇ！

美里：（（ー＿ー；）高橋にもバレてんのかよ・・・アホくさ・・・）

蓮花：（・・・やっぱ瀬野好きな子いるんだ・・・・なんか・・・・思ってたよりショック・・・）

蓮花は体に衝撃が一瞬走った感じがした。

お昼―

美里：蓮花ぁ！お弁当食べよ！

蓮花：うん！

2人が中庭に向かっていると、瀬野が女子と会話していた。すると、話が終わり、美里と蓮花に気付いた。

瀬野：お前ら弁当か？

美里：あんたはまた告白か？

瀬野：違ぇよ！

美里：相手はそんな雰囲気じゃなかったけどぉ？あんたも鈍感だからねぇ～。

瀬野：そうなのか？

美里：さぁ～お弁当食べようかぁ蓮花！

瀬野：無視かよ！お前らどこで食うの？

美里：うちらいつも中庭だよ。晴れてる日はね。

瀬野：俺も一緒食うわー。

美里：え～じゃま。

瀬野：何でだよ！！そんな事ねぇだろ！蓮花！？

蓮花：どっちでもいいよ・・・。

瀬野：どっちでもいいも冷てぇなぁ・・・。

美里：ほら瀬野行くよ。休み時間無くなっちゃう～。

３人は中庭でお昼を食べ始めた。

蓮花：瀬野いっつもパンでお腹空かないの？

瀬野：減るぞ。弁当くれんの？

蓮花：別にいいけど、パンくれんなら。

瀬野：えっ！！くれんの？

蓮花：食べたいんでしょ？あたしパン１つで大丈夫。

瀬野：やったぁ！これ咲さん作ったのか？

蓮花：ううん、あたし。

瀬野：！！・・・頂きます！！

美里：（うれしそー・・・笑）瀬野が弁当作ってくれって言ったら作ってくれる女子いっぱいいんじゃないの？

瀬野：知らん奴の弁当食えっつぅのかよ。

美里：そぉんなデリケートだったのぉ（笑）？

瀬野：そういう訳でもねぇけどなぁ・・・。

３人はワイワイ話ながらお昼を食べた。

美里：さぁ！！教室戻るか！次体育で１００Ｍだよね・・・←思いだしたぁ・・・。

瀬野：今日男子と一緒だな。ご馳走様！！

蓮花：・・・わ、空っぽだぁ！

瀬野：当たり前だ！上手かった！サンキュ。

美里：蓮花！あたしちょっと職員室行くから先に帰ってて。

蓮花：うん解ったぁ！

美里は職員室へ走って行った。

瀬野：・・・蓮花、今度の土曜あいてたら映画いかね？お前映画好きなんだろ？俺も好きだし。これ（お弁当）と土曜日のお礼。

蓮花：・・・いいって！気にしないで！あたしが勝手にした事だから！

瀬野：そっか・・・。

蓮花：お前何かあった？

蓮花：？

瀬野：気のせいか？様子がおかしいぞ。

蓮花：何でもないよ！気のせい！教室戻ろう！

瀬野は、蓮花との距離が近くなったと思っていたが、急に遠く感じ出していた。

グラウンドー

美里：蓮花はいいよねぇ～足早いからさぁ・・・・←

楓：蓮花ちゃん早いんだぁ！

美里：中学ん時も全校リレーとか出てたよ。

楓：すっごぉい意外ー！

蓮花：アハハ！

楓：あ！男子の方も始まってるー。

美里：本当だね。次瀬野か。高橋もいる・・・。

楓：わ！瀬野！ダントツで早！！

蓮花：本当だー・・・（瀬野ってあんな格好良かったっけ・・・・はっ！！）

美里：あいつ何でも器用にこなすなぁ・・・。

楓：次うちらだよ美里ちゃん！！

美里：あ゛～緊張してきたよぉぉ。

蓮花：頑張れっ！

男子の部―

高橋：お？美里が走ってる・・・結構早ぇな・・・まぁまぁか？お！瀬野！次木内だ！

瀬野：本当だ・・・あいつ走れんのかな・・・。

高橋：スタートした！

蓮花は５人でスタートしたが、風を切る様にダントツで早かった。
それを見ていた女子達もザワついていた。

瀬野：おー！！早ぇ！！

高橋：・・・意外・・・。

瀬野はニッコリ笑っていた。

高橋：・・・お前の彼女じゃねぇからな。

瀬野はまた高橋を軽く殴った。

瀬野：うるせぇ！！

高橋：＞（、＾、）＜いてぇー！！

３組は体育の授業を終え、教室へ戻って行った。

美里：瀬野～、あんた足早いねぇ！

瀬野：言ってなかったか？

美里：いや、見て改めて驚いたぁ！

瀬野：格好良かっただろ？

美里：足早かったよ～。

瀬野：おい・・・会話ズレてねぇか・・・お前わざとだろ（￣￣〆）

・・・つうか、蓮花早ぇのな！

美里：うん、中学ん時からダントツで早いよ。

瀬野：へぇ～。

そこへ蓮花がフラッと入ってきた。

瀬野：お前相当足早ぇな！

蓮花：あー見てたんだ。うん、走るのだけは得意。

瀬野：俺見てたかー？

蓮花：うん、見てた。超早かった。

瀬野：格好良かったろー？

蓮花：うん。

瀬野：！！・・・お前そこはつっこんどけよなっ！照れるだろ～！

蓮花：？え？

側で美里はクスクス笑っていた。

その日の放課後―

美里：蓮花ぁ！あたしバイトだから帰るねぇ！

蓮花：うん、頑張って。また明日。

美里は掛け足でバイトに向かった。

瀬野：蓮花帰んの？

蓮花：うん帰るよー。

瀬野：じゃぁ、帰りにマックおごる！

蓮花：大丈夫だってーまぁたお礼でしょぉ？（笑）それに・・・

瀬野：それに？

蓮花：瀬野、好きな子いるって言ってたし、誤解されちゃうよー。

瀬野は蓮花の言葉に少し腹立たしさを感じてしまった。

瀬野：・・・何でお前がそれを言うの？

蓮花：・・・何でって・・・今まで考えれなかったあたしが悪いよ・・・。

瀬野：誰にどう思わるかは俺が考える事じゃね？大体俺がそうしたくても？

蓮花：そうしたいって気持ちがあるだけであたしは十分だから。瀬野優しいから、気にして言ってくれてるんでしょ。ちゃんと伝わっ

てるよ。だから本当に気にしないで。

瀬野：全然伝わってない。

蓮花：？

瀬野：全然伝えられてない。

蓮花：伝わってるって。

瀬野：じゃぁ俺とはもうどこへも行けないって事か！？

蓮花：行きたくないっていうか・・・そうじゃなくって・・・・。

瀬野：俺、何かした？

蓮花：してないよ・・・する訳ないじゃん。

瀬野：俺嫌いになった？

蓮花：・・・・なる訳ないじゃん・・・。

蓮花はとても困った顔をしていた。

瀬野：！！・・・・あ、悪い・・・困らせるつもりは全然ない・・・・すまん。

蓮花：大丈夫、本当にありがと。それじゃね・・・・。

蓮花は泣きだしそうだったが、我慢して靴箱まで走った・・・その様子を部活へ行こうとしていた田中が見ていた。状況を何となく察した田中は蓮花の後を追い掛けた。

田中：木内・・・？

蓮花：！！・・・田中くん！

田中：・・・今から帰りか？

蓮花：うん！田中くんは部活・・・だね・・・

田中：あぁ・・・何かあった？・・・。

蓮花：ううん！大丈夫！・・・部活頑張って！

田中：・・・・解った・・・気をつけて帰れよ。

蓮花：ありがと・・・。

教室―

瀬野：（・・・感情的に話すって・・・俺最低・・・近くなったと思ってた距離が遠いなぁ・・・お礼なんてただの口実なんだよ・・・）

第３２話：蓮花の決意（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第３２話：蓮花の決意

翌日―

職員室へ来ていた蓮花は、担任からプリントの入った段ボールを教室へ持って行くように頼まれた。

蓮花：失礼しましたぁ。

瀬野：それ持ってくのか？

蓮花：うん、全然重くないから大丈夫だよ。

瀬野：いいから貸せって。持つし。

蓮花：大丈夫大丈夫。

瀬野：頑固だな。いいから貸せって。

蓮花：いいってば！！ほっといて！！

蓮花は少し大きな声で、瀬野に言ってしまった。

蓮花：（はっ！！）・・・・。

蓮花は中学時代を思い出した。

蓮花：・・・・・・・。

瀬野：何だよご機嫌ななめかぁ？

瀬野は蓮花の頭をそう言いながらポンポンと撫でた。

蓮花：・・・・・。

瀬野：怒ると思ったか？（笑）、な訳ねぇだろ～。行くぞ、教室ー。

蓮花：（あたし大バカだ・・・だから瀬野を好きになったんだ・・・瀬野のこういう所が・・・やっぱりどんどん好きになるばっかりだ・・・・胸が痛い・・・・）

教室―

美里：ねぇ、蓮花、あんた瀬野と何かあった？

蓮花はその言葉を聞いて、涙目になった。

美里：！！ちょっ！！・・屋上行こ！！

察した美里は蓮花を連れて慌てて屋上へ行った。

屋上―

蓮花：ううっ・・・。

美里：どうしたのぉー？

蓮花：あんなに・・・っあんなに寄るな・・とかっ、うぅっ言っといて・・・あんなに最初うっとぉしかったのにっ・・うぅっ・・・いつの間にか瀬野が・・・瀬野の事がすごい好きになっててっ・・・わぁぁぁぁー！！

蓮花は空を向いたままわんわん泣きだした。

しばらくして・・・

美里：落ち着いた？

蓮花：・・・ん・・・ごめんなさい。

美里：いいよ。

蓮花は土曜日の看病の事や、今までの経緯を美里に話した。

美里：・・・で、瀬野に好きな子いるから今のうちに距離を取ろうと・・・？

蓮花：瀬野といるとさ、あいつのいい所がどんどん見えてきて、切りなくて・・・そんなんだったら距離取っとけばさ、見えなくなるじゃん。
今までのままでいないと瀬野にも迷惑だろうしさ、気使わせるだろうし。

美里：あのさ蓮花、あんた瀬野の何を見てきたの？

蓮花：？

美里：瀬野は今まであんたをちゃんと受け止めてきたじゃん。だったら気持ちもちゃんと受け止めてくれるって。大体瀬野が迷惑とか思う訳ないじゃん。あいつそんな奴じゃないよ。

蓮花：・・・・そっか・・・・自分の事しか全く見えてなかったかも・・・。

美里：そうだよ。蓮花が好きになった人でしょ？瀬野を信じなよ。じゃなきゃ瀬野に失礼。迷惑かもって思うって事は、自分も下げてるし何より相手も下げて見るって事だよ。そういうスケールで瀬野

は周りを見てないと思うよ。

蓮花：・・・ごめんなさい・・・あたし田中くんにもきちんと言わなくちゃ。

美里：そうだね・・田中もきっと受け止めてくれるよ・・・。

蓮花：ありがと・・・美里・・・。

美里：ううん、あたしは蓮花が瀬野みたいな人を好きになって嬉しいよ。あいつバカだけど本当にいい奴だもんね。

蓮花：・・・・ううっ。

美里：ひどい顔～泣かない泣かない。あたし先に教室戻っとくね。落ち着いたらおいでね。

蓮花：ん。

美里は教室に戻るため階段を下りて行った。すると、降りる途中で田中に遭遇した。

田中：おう。

美里：おっす・・・。

田中：木内知らね？

美里：あー・・・・今、屋上居るけどー・・。

田中：・・・そか、ちょっと行ってくる。

美里：田中！！

田中：・・サンキュ加藤、大丈夫だよ。

美里：・・・・（いい奴・・・）。

蓮花が屋上でボーっとしていると、ドアが開く音がした。蓮花は慌てて隠れた。

蓮花：・・・田中くん？

田中：おっす。

蓮花：・・・。

田中は蓮花の目が赤いのに気付いた。

田中：・・・昨日・・・瀬野と何かあった・・？

蓮花：・・・・何もないよ・・。

田中：・・・木内、俺さ、今度もう一度木内に告白するって言った

よな。

蓮花は2度頷いた。

田中：俺、木内がまだ好きなんだけど・・・。

蓮花はまたその場で泣きだした。

田中：！！えっ！！

蓮花：違うの・・・ちが・・・あたし、中学の時から・・・うぅ・・・田中くんの事尊敬して・・て・・・すっごく感謝してて・・・むしろ田中くん好きなんだけど・・・・うぅぅ・・。

田中：・・・・瀬野？

蓮花：・・・ん・・ごめんなさい・・。

田中：・・・そっか・・・やっぱな・・・。

蓮花：？

田中：あいつ真っ正面から木内にぶつかっていってたろ？あれってリスク高ぇのによくやるなって思ってた・・・。俺にはできねぇなって・・・ちょっと思ったんだ・・・。

蓮花：・・・ごめんなさい・・・。

田中：木内が謝る事ねぇよ・・・正直に言ってくれてありがとな・・・これからは友達として宜しく・・・。

蓮花：・・・田中くんありがとう・・・あたしに何かできる事ある・・・？

田中：んー・・・じゃぁ・・・木内映画好きだろ？今度土曜映画行かね？最初で最後のデート。

蓮花：・・・そんなんでいいの・・・？

田中：行ってくれんの？

蓮花：私でよければ・・・。

田中：そっか！土曜な！・・・俺先教室戻るな！

蓮花：・・・ん。

教室―

瀬野：おい美里、蓮花は？

美里：・・・えー・・・今ちょっと・・・。

瀬野：気分でも悪いのか？

美里：違う違う、もう少ししたら教室戻ってくるって！

瀬野：・・・・。

第３３話：縮まる距離（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第３３話：縮まる距離

金曜日―

高橋：瀬野、お前木内と何かあったのかぁ？

瀬野：いやぁ・・何もねぇよ・・・。

高橋：・・・そか、最近あんま話してる所みねぇっつぅか・・・避けてるっつぅ感じでもねぇし、距離置いてる感じだよな・・・いよいよフラれたのか？

瀬野：・・・いや・・・だけど結構ショックだなぁ・・・。

高橋：・・・逆じゃねぇの？

瀬野：逆？

高橋：・・・自分で考えれっ。

瀬野が廊下を見ると、田中と蓮花が話をしていた。

瀬野：（・・・そろそろ限界かなぁ・・けど俺あいつ以外考えらんねぇんだよなぁ・・・）

田中：じゃ、明日な。

蓮花：うん。

美里：明日って・・田中と映画行くの？

蓮花：うん・・・最初で最後のお願いらしい・・・。

美里：・・・返事したんだ。

蓮花：うん・・・。

美里：そっか。楽しんどいで。

美里はニッコリ笑いながら言った。

下校時間―

瀬野は靴箱にいると、部活へ行く途中の田中に遭遇した。

田中：よー瀬野！

瀬野：おー今から部活か。

田中：まぁな、部活あって助かってるよ・・・そうそう、俺明日木内と映画行ってくんな！！

瀬野：は！？

瀬野は眉間にシワを寄せながら言った。

瀬野：お前が誘ったの？

田中：そだよ。

瀬野：・・・・・あっそ・・・。

田中：じゃぁな！

田中は素知らぬ顔でその場を去り、部活へ向かった。

田中：（これくらいいいだろ・・・黙って行くのも木内も嫌だろうしな・・・）

瀬野：（まじでイライラしてきた・・・）！！あ〝ーもう！！

靴箱にいた周りの人が触れてはいけない人を見るような眼差しで瀬野を見ていた。

そして土曜日、田中と蓮花は約束通り映画を観に行き、蓮花の家まで歩いて帰っていた。

田中：映画良かったなぁ～。

蓮花：うん、途中泣きそうだった・・・頑張ってこらえたけどっ。田中くんも泣きそうだったでしょ？鼻すする音聞こえてきたよ（笑）。

田中：俺もこらえたよ！！でもまじでやばかった・・・。

蓮花：あはは！

田中：・・・・良かった。

蓮花：？

田中：いつもの木内！

蓮花：・・・・。

田中：今日は付き合ってくれてありがとな。

蓮花：ハハ・・付き合ってないよ。あたしも来たかったから来てるし、楽しかったよ。ありがとね。

田中：じゃ、また学校でな！

蓮花：うん！

田中は蓮花を家まで送ると、笑顔で手を振りながら帰って行った。

蓮花宅―

蓮花：ただいまぁ！

祖母（咲）：おかえりぃ、楽しかった？

蓮花：うん！今日の晩御飯は～・・・おでんだ！

祖父（健三）：当たり～！

蓮花：ラッキィ！あたしお風呂入ってくるねぇ！

ＰＭ１９：３０―

祖母（咲）：ねぇ蓮花、今日夕刊取ってないわ、取ってきてくんない？

蓮花：はぁい！

蓮花は玄関を開けてポストを見ようとすると、戸口に誰かいる様な

気がした。

蓮花：（・・・・誰・・・・・！？・・・・あれ？）瀬野？

瀬野：あ・・・。

蓮花：どうしたの？

瀬野：あー・・・ごめん帰る。

そういうと瀬野はUターンして帰ろうとした。

蓮花：ちょっと！待って！

蓮花は瀬野の様子が少し普通と違うのを察して慌てて腕を掴んだ。

蓮花：何でもなくてここまで来ないでしょ。何かあったんでしょ？

瀬野：いや・・・・親父がさ・・・再婚するかもっつって・・・別にいんだけどさ、色々考えてたら俺っているのかな・・・とか思ってきて・・・気が付いたらここまで歩いてた・・・。

蓮花：・・・・・・。

いつもとは少し違い、どこか寂しげな瀬野を蓮花はしばらく見つめた後、そっと瀬野を抱きしめた。

瀬野：・・・・！

蓮花：ばぁちゃんがさ、昔よくこうやってくれたんだ・・・お父さん居なくなった時・・・・。

しばらく蓮花は瀬野を抱きしめていた・・・瀬野は何が起きているのか状況を把握しようとしたが、そのままボーっとしていた。

蓮花：瀬野がいないと・・・あたしが困るよ・・・。

瀬野：・・・え?。

そう言うと、蓮花はそっと離れ、瀬野の両手を握った・・・。

蓮花：・・・どんだけ歩いたの・・・冷たい手・・・家入ろ!

瀬野は我に返り・・・

瀬野：・・・えっ!!

蓮花：家ね、今日おでん！

蓮花は瀬野の手を引いて家の中に入っていった。

蓮花：ばぁちゃぁん！お客さぁん！

第３４話：０（ゼロ）ミリ（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第３４話：０（ゼロ）ミリ

祖父（健三）：お～！！瀬野くん久しぶり！！寒いから早く上がんなさい！

祖母（咲）：あらぁ！上がって上がってぇ！良かったぁ～今日おでん作りすぎたかなって思ってたのよぉ～。

瀬野：・・・あの、おじゃまします。

祖母（咲）：蓮花、瀬野くんのお箸持ってきて！・・あんた夕刊は？

蓮花：あ！忘れてたぁ！持ってくる！

祖母（咲）：まぁまぁ今度はお箸忘れてるし・・・ごめんなさいねぇ、そそっかしいたらないわね・・。

瀬野：ハハっ・・いいえ。

瀬野は何だかホッと安心した。

蓮花：ごめぇんじぃちゃん！はい、夕刊っ。

祖父（健三）：ハハありがとな。瀬野くんほら食べて。

瀬野：・・頂きます。

祖父（健三）：あれから風邪は大丈夫か？

瀬野：ハハ、大丈夫です、ありがとうございました。

祖母（咲）：いいのよぉ、蓮花でお役に立てるならぁ～。あの日蓮花から血相変えたように電話かかってきてねぇ、おじぃちゃん？

祖父（健三）：そうだったそうだった。

瀬野：・・・・・。

蓮花：ばぁちゃん！いいのそれは！！瀬野、玉子いる～？

瀬野：あぁ、いる。

蓮花：瀬野おでん好きだった？

瀬野：あぁ、おでんも好きだよ。

蓮花：ジャンクフードとおでん。

瀬野：ちがーう。

蓮花：？

祖母は2人のやり取りを見ながらクスクス笑っていた。

祖母（咲）：1日で熱下がって良かったわね。

瀬野：本当にありがとうございました。

祖父（健三）：熱出したらいつでも連絡くれれば蓮花を看病にやるよ。

蓮花：おじぃちゃん！！

瀬野：宜しくお願いします（笑）。

蓮花：！！

３人はわいわい話ながらおでんを食べた。

ＰＭ２２：００ー

祖母（咲）：時間が経つのって早いわねぇ、もう１０時よ。

瀬尾：俺、そろそろ帰ります。

祖父（健三）：そうだな、またいつでも来なさい！

瀬野：はい！ご馳走様でした！

祖母（咲）：蓮花ぁ、食器後でいいから瀬野くんその辺まで送って

きなさい。

瀬野：あ！大丈夫ですよ！

蓮花：うぅん、そこまで行くよ！瀬野、これマフラー！

瀬野：サンキュ、それじゃぁまた。

祖父（健三）、祖母（咲）：またね、気をつけて帰りなさいね。

瀬野と蓮花は家を出て、戸口まで蓮花は瀬野と歩いた。

瀬野：今日サンキュな。

蓮花：ううん、大丈夫？

瀬野：・・あぁ・・・。

瀬野はしばらく蓮花を見て・・・

蓮花：？

瀬野：お前・・今日、田中と映画行ったんだろ？

蓮花：え？何で知ってるの？

瀬野：田中から聞いた。

蓮花：田中くんから？・・・うん、行ったけど・・・。

瀬野：・・・そっかー・・・。

しばらく2人は沈黙が続いた。すると蓮花が・・・

蓮花：あの・・・少し話していい？

瀬野：あぁ。

蓮花：・・・あたし・・・瀬野との距離の取り方が良く解んなってきてて・・・。

瀬野：距離？

蓮花は頷いた。

瀬野：・・・大分距離置いときたいって事だろ？

蓮花：・・・・・・うーん、逆。

瀬野：逆！！？？

蓮花：・・・・・。

瀬野：・・・えっ！！！・・・けど最近距離大分保ってたろ？？

瀬野は何を言われているのか、驚いて整理がつかなかった。

瀬野：・・・・・じゃぁ・・・例えば、センチにしたら何センチくらい距離とっときたいんだ・・・？

蓮花は少し考えた。

蓮花：・・・５センチくらい？

瀬野：・・・５センチ・・・？５メートルじゃなくて？

蓮花：・・・５センチくらい・・・けどそれってもう彼女の距離・・・。

あたし瀬野の近くにいると、どんどん瀬野の事好きんなるから距離をちゃんと保とうと思って・・・言うのも迷ったんだけど、瀬野ならちゃんと受け止めてくれるかなって思って思い切って言うけどっ、あたし瀬野が好き！

けど大丈夫だから！距離はちゃんと保つよ！だから、最近どんな風に瀬野と距離を取ればいいか解んなかったんだけど、嫌いにだけはならないで欲しいの！あたし頑張るから！

瀬野は蓮花が一生懸命何を言っているのかすごく良く解った。

瀬野：・・・俺にも聞いて。

蓮花：？

瀬野：お前と距離何センチ保っときてぇか聞いて。

蓮花：・・・正直に答えてね・・・。

瀬野：あぁ。

蓮花は聞くのが怖かったが、思い切って聞いた。

蓮花：・・・何センチ？・・・。

蓮花が聞き返したその瞬間、瀬野は蓮花にキスをして抱きしめた。

蓮花：！！

瀬野は蓮花の耳元で答えた。

瀬野：０（ゼロ）ミリ！

蓮花：０（ゼロ）・・・。

瀬野：何が嫌いにならないで！だよ！

蓮花：・・・だって・・・瀬野・・好きな子・・。

瀬野：お前だ！！鈍感っ。

瀬野が蓮花を見ると、線が切れたかの様にその場で泣きだした。

瀬野：泣くなよ・・・俺は嬉しくて泣きそうだ！！

その瞬間蓮花は瀬野に抱きついた。

瀬野：！！

蓮花：あたしも０（ゼロ）ミリぃ～・・うぅっ。

瀬野は満面の笑で笑った。

瀬野：さっき５センチって言ったろ・・。

蓮花：・・・遠慮してみたー・・・ううっ。

瀬野：アハハっ、おい！お前今日何で田中と映画行ったんだよ！！

俺今からお前の彼氏だから聞く権利あるぞ！

蓮花：ううっ・・・田中くんにしばらく前に・・告白されて・・・。

瀬野：お～だったなぁ。

蓮花：・・・知ってたの！？

瀬野：お前追っかけていったら偶然聞こえたんだよっ。

蓮花：やだ、覗きぃ？趣味悪ー・・。

瀬野：何だよっ覗きって！それで！？

蓮花：瀬野の事好きだからって伝えたら、最初で最後だから映画に行きたいって・・・・。

瀬野：・・・・・そっか・・・（だからあいつ俺に・・わざとか・・・）。

蓮花：本当は瀬野と行きたかったけど、・・・好きな子他にいるし・・と思ってたし・・・。

瀬野は言葉にできないほどの嬉しさで、もう一度蓮花を抱きしめた。

瀬野：俺、今日今までの人生で最悪の日と思ってたけど、人生最高の日！蓮花、もう一回聞かせて・・・俺の事？

蓮花：・・・大好き。

瀬野：俺も大好き！お前、鼻水出てるぞ（笑）。

蓮花：うそー…寒いし恥ずかしいー…。

瀬野：可愛い。もっかいチュウしてい？

蓮花：鼻水でてるからやだ…。

瀬野：アハハっ。

第３５話：周りの反応（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第３５話：周りの反応

翌日―

瀬野は朝、靴箱で田中とサッカー部のマネージャー谷口に遭遇した。

瀬野：おっす。

田中：おお。

瀬野：・・・・あれから、蓮花と付き合う事になった。

田中：・・・そっか。

瀬野：・・・サンキュ、昨日。

田中：いや、別にー、俺スキあったら割って入るかもよ、お前鈍感だしなぁ～。

瀬野：！！何のスキだよ！！余計な事すんなよっ。

田中：アハハ！

谷口：田中くん！

田中：？

谷口：田中くんそろそろ他も見て！

田中：・・・・。

瀬野：お前も大概鈍感だろーが・・・。

田中：え？

教室―

美里：そっかぁ良かった良かったぁ（＊＾―＾＊）

蓮花：・・うん、ありがとね美里。

美里：なぁにが！あっ！彼氏の登場だよぉ♪

高橋：え！！お前ら付き合う事になったのかー！！？？

瀬野：お前はギャァギャァうるせぇんだよっ、そっとしとけよっ！

蓮花：アハハ。

瀬野：！おはよ！

蓮花：ハハ、おはよー。

高橋：だから逆だっつったろぉ？

瀬野：？

高橋：木内こいつ昨日超暗くてさぁ、距離置かれてるだのなんだ・・・んぐぐっ！！！

瀬野は高橋の口を慌てて塞いだ。

美里：・・・ったく・・・。

高橋：何だよっ、俺合ってただろ～（＾＾）

瀬野：わかったから黙れよ！！

美里：・・・・まぁ・・良かった。

高橋：美里、俺らも付き合うか？

美里：ＳＨＲの後、現国だねぇ、用意しなくちゃぁ～♪

高橋：無視かーっ（Ｔ＿Ｔ）

瀬野：・・・。

蓮花：瀬野、お家は？

瀬野：あれから親父と会ってねぇんだわ・・・。

蓮花：・・・そか。

瀬野：けど、お前が大分クッション変りになってるよ。サンキュー。

蓮花：あたし何にもしてないしっ。

瀬野：何もしなくていんだよっ、側にいてくれりゃ。

蓮花：！！照れる！！

瀬野：ほんとの事だし（笑）。夢みたい。

蓮花：っっ！！

それから数日、瀬野と蓮花は一緒にいる時間も増え、校内でも度々その様子が目撃されだしていた。

他クラス女子：ねぇねぇ、あの2人って最近かなり一緒にいない？

他クラス女子：3組の子に聞いたらやっぱ付き合ってるらしい・・・。

他クラス女子：え～！ショック！あたし瀬野くんのファンだったのにぃ（T_T）！

他クラス女子：けど・・・相手が木内さんじゃ何も言えないかも・・・美男美女・・・木内さん男子苦手って聞いてたけど瀬野くんは大

丈夫だったのかな・・・。

瞬く間に2人の噂が広がっていった。

高橋：瀬野、お前らの事すげー聞かれるぞ。特に女子から。

瀬野：良い事だな。変な虫もつかねぇし俺にも寄ってこねぇ。

美里：あんたら目立つよね。

蓮花：瀬野ファンの視線が最近痛いです・・・。

瀬野：お前・・・そん何で嫌になったとか言い出すなよっ。

蓮花：まさかっならないよ。ただ・・・一時前はあたしも瀬野に好きな子いると思ってたから、そん時のあたしと同じ気持ちかと思うとね・・・。

美里：そんな仕方の無い事考えんなっつぅの！瀬野はあんたが好きなの！その気持を大事にすればいいの！！

瀬野：お前は本当にいい奴だな・・・。

美里：だから・・

瀬尾：いい女って言ってよねっだろ？

美里：アハハっ！そう！

そこへ４組から田中のクラスメイト佐藤が入ってきた。

佐藤：ねぇねぇ、２人付き合う事になったんだねぇ～。

瀬野：そうだよ・・・何だお前は苦情か・・・？

佐藤：まさかぁ、瀬野は俺に冷たいよなぁ祝福してるよぉ～。

瀬野：嘘つけっ何の用だっ。

佐藤：美里ちゃんさぁ、今週の土曜暇ぁ？

美里：？バイトです。

佐藤：やー友達から映画のチケット貰ったから一緒行かないかなぁと思ってぇ。

美里：何であたし？

佐藤：おれ美里ちゃん一筋なんだけど～？

美里：いつから？

佐藤：大分前ー。

美里：あたし大人男子が好みなの。ごめんなさいね。（即答）

佐藤：美里ちゃん辛口だなぁ～まいいやぁ、俺また誘うし～、あ、来週の土曜はあけといてねぇ～！

美里：ちょっ！！

佐藤：じゃぁねぇ～。

佐藤は手を振りながら笑顔で去って行った。

美里：行くって言ってなぁい！！

蓮花：アハハ。行ってきなよ美里。

美里：え゛ー！何なのあのチャランチャランした感じはー！！

蓮花：佐藤くんあれキャラじゃないの？サッカーん時すごい顔真剣だったしね。いい人そう。

瀬野：おい！！俺以外の男子をむやみに褒めるな！！お前に関しては俺は相当嫉妬深いぞ。

蓮花：えー・・嫉妬深い男って何か嫌ー。

瀬野：え゛！！

美里：・・・・ここもコントだな・・・お似合い、ふふっ。

放課後―

瀬野：蓮花～帰るぞ。

蓮花：うん、美里、また明日ね！

美里：はいはぁいまた明日ぁ～！

2人は教室を後にした。

瀬野：お前土曜あいてる？

蓮花：うん。

瀬野：どっか行こうか。

蓮花：じゃぁ映画！あと1本観たいのある！

瀬野：良し決まり！

蓮花は下を見ながらニコニコしていた。

瀬野：・・・嬉しそう。

蓮花：え?そりゃ嬉しいでしょっ。映画観れるし！

瀬野：そっか！（笑）

蓮花：マックも行けるかな?

瀬野：行ける！（笑）

蓮花：・・・あと瀬野といれるし。

瀬野：！！・・・・・・もう1回言って。

蓮花：言わない！！（、＾、）

瀬野：え゛ー・・（、3、）

第３６話：初デート（前書き）

前書き　男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第３６話：初デート

翌日-

蓮花宅-

祖母（咲）は庭の自家製野菜のお手入れをしていた。

瀬野：おはようございます！

祖母（咲）：あらぁ！瀬野くん！お久しぶり・・でもないわね（＃＾・＾＃）。

瀬野：アハハ・・はい。あの、先日から蓮花さんとお付き合いさせた頂く事になりました。

祖母（咲）：みたいねぇ～（＊´∀`＊）、おじぃちゃん！瀬野くんよぉ！

大きな声で咲は健三を呼んだ。すると家の中から・・

祖父（健三）：おぉ！！おはよう瀬野くん！蓮花から聞いてるよ～。

瀬野：あの、よろしくお願いします！

祖父（健三）：何がぁ！こちらこそ蓮花をよろしく頼むな・・・（´▽`）

瀬野：はい！！

祖母（咲）：蓮花ぁ！彼氏迎え来たわよぉ～（＊´∀`＊）

階段をバタバタと走りながら蓮花が降りてきた。

蓮花：！！

祖母（咲）：落ち着きなさいなぁ・・・。

蓮花：だって！！ばぁちゃんが大きな声で彼氏とか言うから！

祖母（咲）：だってそうじゃなぁい（＊´∀`＊）

蓮花：そうだけどっ。

祖父（健三）：気を付けていってきなさい。

蓮花：いってきますっ。

瀬野：（笑）

その様子を見ながら瀬野はクスクス笑っていた。

瀬野：それじゃ行ってきます。

祖母（咲）：ごゆっくりぃ～（＊、∀、＊）

蓮花：！！

蓮花は照れながら自宅を後にし、2人は歩きながら映画館へ向かった。

季節は秋、風が吹く度にキンモクセイの香りがしていた。

瀬野：相変わらず仲いい家族な。

蓮花：・・ありがと・・瀬野ん家、どなった？

瀬野：あれから親父とも色々話たんだけど、俺が卒業するまで入籍はしないんだと。

蓮花：・・そか。

瀬野：大丈夫だよ。お前いるし。

蓮花：そ・・・そか・・。

瀬野：うん。そうだよ。しかしお前やっぱ私服は雰囲気変わるのな

ぁ！

蓮花：瀬野もでしょ？

瀬野：そうか？

蓮花：・・・うん。

瀬野：格好良いか？

蓮花：うん。

瀬野：！！そこは否定しとけよな！照れる！！

蓮花：（´∀`＊）アハハ・・・・・あの・・・・・。

瀬野：？

蓮花：・・・手！

蓮花は右手を差し出した。

瀬野：・・・・・。

瀬野は一瞬ポカンとしたが、照れくさそうに蓮花の手をパッととって手を繋いで歩きだした。蓮花は嬉しかったので、笑顔で笑い返した。

瀬野：あ゛ー！可愛い！

蓮花：（´∀`*）アハハ。

瀬野：・・・お前楽しんでるだろ・・・。

蓮花：うん。

瀬野：認めんのかよっ。

蓮花：手~あったかい♪

第３７話：たまに好き（前書き）

前書き　男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第37話：たまに好き

瀬野：映画結構空いてるなぁ。お前何が観たいの？

蓮花：えっとね、コレ！！

蓮花が指したポスターを見た瀬野は・・・

瀬野：なぁ・・・お前田中とは何見たの？

蓮花：コレ。

瀬野：・・・何で田中とはヒューマンで俺とはホラーなんだよっ！

蓮花：・・アハハもしかして苦手？

瀬野：いや・・そうでもねぇけど、初デートでホラー・・・・。

蓮花：だって恐い映画は一人じゃ観れないじゃん！何かの拍子に掴まれる人とじゃないと来れないでしょー・・・1人で映画よく来るけど、これは観たくても観れないんだもん。苦手だけど観たい・・・みたいな・・・ごめんて。

瀬野：・・・そういう理由だったらいいよ。行くぞっ。

蓮花：いいの？

瀬野：いいよっ。

蓮花：やったぁ～☆！（＾＾）！

２人はチケットを購入し、映画館内に入っていった。

瀬野：はい、手。

蓮花：えっ！

瀬野：途中で叫ばれても困るし、最初から握っといて。

蓮花：・・・はい・・・叫びませんから・・・。

そう言いながら蓮花は恥ずかしそうに瀬野の手を握ると、周りが暗くなり映画が始まった。

２時間後ー

瀬野：（笑）お前さ、まじで苦手なんじゃんかっ！途中何度ビクッてなったよっ！

蓮花：だって油断してるとさぁ、急にビックリさす様な事になってるしさぁ～！（ーー；）ごめんなさい。

瀬野：いやぁ、映画よりお前が面白かったよ（笑）。
蓮花：やっぱ一人で来なくて正解（ーー；）・・・。
瀬野：あぁ（笑）。次、マック持ち帰って家行くぞ。
蓮花：いいの？行って。
瀬野：勿論！
蓮花：じゃぁ、お父さんのマックも買って行こうよ。
瀬野：アハハ、親父はゴルフ。サンキュー。
蓮花：そか・・。

2人はマックでお昼を買い、瀬野宅へ向かった。

瀬野宅ー

瀬野：どうぞー。
蓮花：お邪魔します！何か改めて来ると緊張する・・・。
瀬野：3度目でか？
蓮花：そっかー3度目か。最初は待たされて～、その次は看病させられて～・・・。

瀬野：悪かったよ・・・俺は逆に嬉しかったけどなっ、最初は次の日お前と出かけるっつのに緊張して寝れなかったんだよっ。風邪はむしろ看病してくれてラッキーだったし！

蓮花：・・・そうだったんだ・・・。

瀬野：そうだよっ。なのにお前は・・・。

蓮花：！！なんか！本当にごめんなさい！最初、寄るなだとか色々言ってしまってっ！だってっ・・・。

瀬野：いいよ全然。もう伝わったし。これから色々返してもらうし。

蓮花：！何をっ！

瀬野：何だろなっ。

蓮花：・・・どれだけ伝わったか解らないけれど・・瀬野には本当に感謝してて、あたしの壁を体当たりで壊してくれた事がどれだけ大きかったか・・・時間かかるかもだけど、ちゃんと返すよ！

瀬野：うっそ。

蓮花：？

瀬野：何も返さなくていいよ。最初から言ってるけど、傍に居てくれればそれでいい・・・あとはー・・・たまぁに好きって言ってくれりゃいいや。

蓮花：そんなんでいいの！？

瀬野：アハハ、いいよ～。

蓮花：・・・好き。

瀬野：！！たまにでいい！照れるから！

蓮花：うぅん～、本当に好き。

瀬野：・・・・。

少し微笑みながら言っている蓮花に瀬野はキスをした。

２人はそのまま瀬野宅で話をしたり、ゲームをしたりしながら過ごした。時間はあっという間に過ぎていき・・・

ＰＭ５：００ｌ

瀬野：５時、そろそろ帰ったがいいか？

蓮花：そだね・・・早いなぁ時間過ぎるの・・・。

瀬野：・・・送るよ。

蓮花：いいよ大丈夫（ｂ＾ー゜）

瀬野：嫌だ。俺が送りたいのー。

蓮花：・・・ありがと。

2人は、手を繋いで蓮花の家まで歩いた。

蓮花：今日はありがとね。

瀬野：何で？

蓮花：楽しかったから！

瀬野：お互い様だろー。

蓮花：アハハっそっか！

話しながら歩いていると、あっという間に蓮花の家に着いた。

蓮花：・・・あれ？

蓮花の家から男の人と女の人が出てきた。

瀬野：お客さん？

すると、男の人が2人に気付いて・・・

蓮花：何で、ここにいるの？

たたずんでいるのは、幼い頃の記憶しかない蓮花の父、徹と、後妻の涼子だった。

第３８話：父との再会（前書き）

前書き　男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第３８話：父との再会

父（徹）：・・・あ・・久しぶり・・・。

蓮花：瀬野、今日ありがと。

４人がぎこちない様子でいると、家の中から祖父（健三）と祖母（咲）が出てきた。

祖母（咲）：まぁ、瀬野くん送ってくれたの？

瀬野：・・あ、はい・・。

祖母（咲）：わざわざありがとね。上がって行ってって言いたいんだけど・・・。

瀬野：いえ、大丈夫ですよ！・・・あの、俺今、蓮花さんとお付き合いさせてもらってる瀬野といいます。

瀬野は蓮花の父と後妻の涼子に挨拶をした。

蓮花：・・・・。

父（徹）：そうか・・あの・・・・・ありがとう。

瀬野：？

涼子：・・・・。

蓮花：瀬野、また連絡する。今日は本当にありがとう。

瀬野：・・あぁ・・またな。

瀬野は、蓮花の気持ちと状況を察したように蓮花の背中にそっと手を置いた。

瀬野：じゃ、また来ます！

祖父（健三）：気をつけて帰れな。

瀬野：はい！

瀬野は蓮花を心配そうに見た後、家に帰って行った。

祖母（咲）：あの、ここに居てもなんだから、も一度家入りなさい。

徹。

父（徹）：あぁ。

蓮花：・・・・・。

家に入ると、祖母（咲）はお茶を入れた。リビングに全員座っているが、会話は無いままとても静かだった・・・。

蓮花：今更どうしたのよ・・・。

目を合わす事なく蓮花が問いかけた。

父（徹）：お前には・・・合わす顔が無くて・・・なんて言っていいか検討もつかなくて・・・。

涼子が徹の背中に手を置きながら、じっと徹を見つめていた。

父（徹）：あれから大分月日も経って・・・本当に今更なんだが、やっと・・・普通に生活できる様になって・・・お母さんを失ってから、喪失感でいっぱいで、何をやっても埋まらなくて・・・。

父（徹）は、涙を流しながら話していた。

蓮花：・・・・・。

父（徹）：子育てまで・・・放棄する事になってしまった私を・・・この弱い私を、許してくれとは言わないが、どうしてもお前にだけは謝りたくて・・・・・やっとここに来れて・・・。

蓮花は泣きながら話す父とそれを黙って見つめている涼子を見て、胸が苦しかった。よく一緒に公園で遊んだ父とは違って、とても弱々しく見えた。

涼子：・・・・蓮花ちゃん・・徹さんね、いつも蓮花ちゃんの事は思ってたのよ・・ただね・・・。

蓮花：・・・解ってる・・・。

涼子の話を遮る様に蓮花が話した。祖父（健三）も祖母（咲）もただ黙ってそこに居た。

蓮花：・・・解ってる・・・・・解ってる・・・・・・・あたしは大丈夫だよ。

蓮花は父に何を伝えるべきか一生懸命考えた。

父（徹）：・・・・。

蓮花が父の目を真っ直ぐ見ると、父（徹）も蓮花を真っ直ぐ見た。

蓮花：・・・あたし・・・じぃちゃんとばぁちゃんに大切に育てて貰ったよ・・・あたしは幸せだよ。だから大丈夫だよ。

蓮花は父を責める事はしなかった。

父（徹）：・・・・ありがとう・・・。

涼子：蓮花ちゃん・・・。

蓮花：・・・・気が向いたら、また家来てよ・・・・涼子さんも。

すると、父（徹）と涼子は2人で泣き始めた。祖父（健三）と祖母（咲）も目に涙が溜まっていた。

祖母（咲）：そんなに泣かないで・・・徹！ほらっ涼子さんも！

祖父（健三）：徹・・・さっき会った瀬野くん、なかなか良い青年だぞっ。

父（徹）：・・・・蓮花の彼氏だったよな・・・。

蓮花：・・・うん・・・今度ちゃんと会ってくれる？

父（徹）：・・・あぁ、勿論。

涼子：・・・夕ご飯時にすみません、今日はひとまず帰ります・・・。

祖父（健三）：・・・そうじゃな・・・また改めて来る時は、一緒に飯食おうな！

父（徹）：・・・・。

蓮花：嫌なの？

蓮花は冗談まじりに、少し怒った様な風に言った。

父（徹）：まさか・・・いいのか・・・？

蓮花：いいよっ・・・・。

父（徹）：アハハ・・・ありがとう・・・。

父（徹）はまた目に涙を浮かべながら笑顔で言った。

蓮花：涼子さんも一緒に来てね・・・。

涼子：・・・ありがとう！

祖母（咲）：今日は寒いから、風邪引かないように帰りなさいね。

父（徹）：あぁ、ありがとう。

父（徹）と涼子が玄関へ向かうと・・・

蓮花：涼子さんっ。

涼子：？

蓮花：・・・今まで父を支えてくれてありがとう・・・これからも宜しくお願いしますっ。あたしは、十分幸せだからっ、今度は涼子さんが父と幸せになってっ。

蓮花は頭を下げながら言うと、涼子はまた泣きながら・・・

涼子：蓮花ちゃん・・・頭を上げて・・・ありがとう・・・。

父（徹）：・・・父さん・・・母さん・・・ありがとう。

祖父（健三）：何の何のっ、体に気をつけろよっ。

祖母（咲）：また今度ね！！（＾＾）！

そう言うと、２人は帰って行った。玄関のドアが閉まった後・・・

蓮花：・・・わぁぁぁっっ！！！。

その場に座り込み、泣き崩れる蓮花の背中を祖父（健三）は何も言わず擦っていた。

祖母（咲）：蓮花・・・ありがとね・・・あなたは自慢の孫よ。

第３９話：スケボー（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第３９話：スケボー

次の日ー

ＰＭ１２：００

祖母（咲）：あら、蓮花おはよ。随分遅かったわね、起きるの。

蓮花：おはよ・・・。

祖父（健三）：昨日は良く眠れたか・・・？

蓮花：あんまり眠れなくて・・・寝付いたのが夜中3時くらい・・・。

祖母（咲）：あらあら、ご飯食べるでしょ？

蓮花：うん、ありがとう・・・。

『♪♪♪～』

祖母（咲）：蓮花、携帯なってる！

蓮花：・・・本当だ・・・。

蓮花は誰からかも確認しないまま、ぼんやりしながら電話に出た。

蓮花：はいはい蓮花・・・。

瀬野：俺だよ。

蓮花：瀬野・・・あ、おはよう・・・。

祖父（健三）と祖母（咲）は、瀬野からの電話だと解ると何だかホッとした。

蓮花：うん・・・・・・わかった。

数分瀬野と話をした蓮花は電話を切ると・・・

蓮花：ちょっと出かけて来るね。

祖母（咲）：その格好で行くの？デートって感じじゃないわよ。

蓮花は、膝上くらいまである大きめのグレーのパーカに、下はブルーデニムのスキニーを着ていた。

蓮花：こんなラフな格好で来いって言うから・・・。

祖母（咲）：あらそう・・ならいいけど、気を付けて行ってらっしゃいね。

祖父（健三）：遅くなりそうな時は電話しろな。

蓮花：うん、行って来ます。

蓮花は、瀬野に言われた通りスニーカーを履いて出かけた。

北公園前ー

瀬野：よっす！時間より少し早ぇぇな！

蓮花：・・・・スケボー・・・できるの？瀬野・・・。

瀬野はスケートボードを2台手に持っていた。

瀬野：趣味。蓮花した事ある？

蓮花：ない！・・・けど、興味すごいある！

瀬野：そりゃ～良かった！俺結構上級者！（＾＾♪

蓮花：本当～？すごい！教えてくれんの？

瀬野：勿論！ここの公園、スケボー用のコーナーあるから結構よく来るんだよ。

蓮花：へぇ～！滑ってみて！！

瀬野：よし！！

そう言うと、瀬野は持って来たスケボーで軽快に滑り出し、しばらくして蓮花の前にかえってきた。

蓮花：・・・かっこぃー・・・。

瀬野：！！！そ・・・そうか！？

瀬野は顔を少し赤くしながら言った。

蓮花：あたしできるかなぁ？

瀬野：できるよっ、蓮花運動神経いいだろ？・・・けど、最初から今の技は早いからー・・・乗り方と降り方からな。その後、プッシュ！

蓮花：はい！！（＾＾ゞ

瀬野：まず～、足をテールに乗っけて・・・

２人は時間を忘れて、夕方まで遊んだ。

ＰＭ１７：００ー

瀬野：おーもう５時！

蓮花：えーっせっかく滑れる様になったのにぃぃっ！

瀬野：アハハッ、いつでも教えるよ。また一緒来よ。

蓮花：・・・はぁい（＊´Д`）あ、ちょっと、待ってて！

瀬野はベンチに座っていると、蓮花がジュースを買って走ってきた。

瀬野：お～気が利くー！喉カラカラー！

蓮花：はい！

瀬野：サンキュ！

蓮花は瀬野の左横に座った。

蓮花：瀬野、今日ありがとね。

瀬野：いやー、丁度会いたかったし。

蓮花は瀬野の左手を取って、手を繋いだ。

瀬野：・・・・。

瀬野は、またその手を自分の方へ引っ張って、握りなおした。

蓮花：昨日さ、久しぶりに父親見たらさ、弱々しくってさ・・・色々言ってやるって最初思ってたんだけど、言えなかった。てゆうか、言ったらダメだと思ってさ・・・。

瀬野は黙って聞いていた。

蓮花：何て伝えたらいいか解らなくて、自分は今幸せだってだけ伝えたよ・・・。

瀬野：・・・いんじゃねぇの、それが一番最善だろ。

蓮花：そうかな・・・。

瀬野：あぁ。

そう言いながら瀬野は頭をコツンと蓮花の頭にぶつけた。

蓮花：多分、こんだけ気持ちに余裕ができてんの瀬野のお陰・・・。

瀬野：俺？

蓮花：うん。あたし、瀬野に助けられっぱだしっ。ごめんなさいっ。

瀬野：いや、彼氏の特権だし！他に頼られたら嫌だしっ！

蓮花は瀬野を見ながら嬉しそうに笑った。
瀬野もそんな蓮花を見てすごく嬉しかった。

蓮花家Ⅰ

祖母（咲）：ねぇ、出会うべき時に出会うものね・・・。

祖父（健三）：あぁ・・・蓮花ら見てると、徹達を見てるみたいだな。

祖母（咲）：そうねぇ、付き合い当初から、違和感無かったわね、多分恵さんお嫁さんに来るわって直感的に思ったわぁ。

祖父（健三）：ハハハッ！

第４０話：角が取れる（前書き）

男子嫌いで鈍感な女子高生、蓮花はいつも遠くからさり気なく助けてくれる中学の同級生田中とは安心して会話ができるようになった。高校に進学し、田中とは真逆のタイプの瀬野と出会い・・・続きは本編でどうぞ・・・。

第４０話：角が取れる

翌日ー

蓮花：美里おはよー。

美里：あ、おっはよ～！デート楽しかった？

蓮花：うん！

美里：幸せそ～・・・いいなぁ′、あたしにも春来ないかなぁ。

蓮花：美里、今週佐藤くんと映画じゃなかった？

美里：言ってたねー′∀、・・・ハハハッっと。

蓮花：バイトは休んだの？

美里：休んでない′、・・・後で聞くかなぁ・・・。

蓮花：あ！噂をすればだよっ、佐藤くんっ。

佐藤：？おはよー蓮花ちゃん、蓮花ちゃんから声掛けてくれんの珍しー′∀、～美里ちゃん、土曜日バイト休んだよねー？

美里：・・・、′・・。

佐藤：まさか休んでないの～′、悲しいなぁ・・・。

美里：ていうか、本気だったんだ・・・・。

佐藤：本気だよー！休んでよー！

美里：・・・・解ったよ・・・休むよ・・。

佐藤：本当に！？ラッキー！約束だからね～！

佐藤は手を振りながら、嬉しそうに４組に入っていった。

美里：はぃはぁ～ぃ´、、。あいつ、あたしのどこがいんだろ・・・あたしタメに好かれんの初だし・・・。

蓮花：美里上級生多いもんね。

美里：んーあいつの魅力もわからんっ・・・けど、いいや・・・行ってみるか´、、っ。

蓮花：楽しんできて！

美里：うん・・・。

蓮花：あのさ、美里・・・話変わるけど、あたし土曜日父親に会ったよ。

美里：徹さんに・・・？

蓮花：うん・・・結局何にも言えなくて・・・涼子さん見てたら・・・すごい支えてたんだって伝わってきて・・・言いたかった事より大変さの方が見えてきちゃって・・・。

美里：・・・瀬野は？

蓮花：知ってる・・・土曜日送ってもらった時、少し遭遇して・・・。

美里：そか・・・なら、徹さんも安心したんじゃない？蓮花幸せそうで・・・。

蓮花：そかな・・・。

美里：そうよ、瀬野といる時、幸せそうだよ～。今幸せって伝えれた？

蓮花：うん。

美里は優しく微笑んだ。

美里：親孝行だね・・・瀬野いて良かった・・・いなかったらあたし出番だったけどねっ！、、

蓮花：本当だ・・・。

美里：あ～あたしも彼氏欲しい☆

すると割って入る様に高橋が入ってきた。

高橋：美里ー！俺あいてるぞー！

美里：聞いてたのかよっ、、つーか、聞いてないよっそんな情報っ。

高橋：だって瀬野も最近ご機嫌だしよ～つまんねぇなぁ、あいついじるの面白かったのにー。

瀬野：おい！、、お前、朝から何なんだっ！

瀬野が高橋の後ろから首に腕を絡めて言った。

高橋：！来てたのかよっ。く・・・苦し・・・。

瀬野：今来たんだよっ！

蓮花：おはよっ。

瀬野：おすっ。

美里：ふぅ～っ幸せそっ～。

瀬野：うるさい！

高橋：木内も角取れたみたいになってさ～。

蓮花：角取れた？

高橋：・・・木内が！！！・・・木内がこっち見て話してるよーっ！

蓮花：え？

瀬野：朝からうるせーなお前は・・・。

美里：アハハッあたしも嬉しい♪

蓮花：？

瀬野：俺は少し不安になるよ・・・。

蓮花：？

美里：何でよっ、瀬野効果大きいでしょー名誉名誉！

父親との少しの和解と、祖父母以外に自分を理解してくれる瀬野の存在が確実に蓮花を変え始めていた。
そんな蓮花を嬉しく思う美里とは裏腹に瀬野は少し焦りも覚えたが、嬉しかった。

第４１話：意外な佐藤（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第４１話：意外な佐藤

１１月の土曜日に４組の佐藤と美里は約束通り待ち合わせをしていた。

美里は、約束の１０時より少し早く待ち合わせ場所に来ていた。
１１月も半ばになり、外はすっかり冬モードに入りつつあった。
美里がぼんやり待っていると、佐藤が小走りでやってきた。

佐藤：美里ちゃん早い！

美里：うん、佐藤も以外に早い。超ルーズかと思ってた（笑）

佐藤：いきなり辛口～（笑）、俺結構テキパキしてるのに～。

美里：多分、話し方だねー語尾伸ばす感じがっ。

佐藤：あ～、これかー…治るかなぁ…。

美里：治さなくていいよっ。

佐藤：美里ちゃんが治さなくていいってーなら治さな～い♪

美里：・・・あっそ。

佐藤：つれないなぁ～ていうか、今日貰った映画のチケさ、ホラーなんだよね～（、∀、）

美里：っえー！この前、蓮花が観て超怖かったっつってたアレー！？あたしホラー苦手ー！、、。

佐藤：なぁんだ苦手か～ならー…水族館とか行くー？（´∀`）

美里：映画のチケ無駄んなっちゃうよ？

佐藤：別にいいよ、美里ちゃんと水族館行けるなら（´∀`）♪決まりね♪

美里：・・・いや！、、！

佐藤：？

美里：ホラー観る！

佐藤：え、、？無理は・・・

美里：無理じゃないっ、行く！の変わり・・・途中で叫んだらごめんなさい・・・。

佐藤：何それ～（´∀`）叫んでも全然いいよ、俺は～。義理堅いな～美里ちゃんは～、じゃ、ホラー行くけど、途中で無理な時は言ってね♪

美里：はい・・・。

美里は約束をした以上はそれを守る・・・という義理堅い性格なの

で、映画だったが、そんな些細な約束さえも美里にとっては約束は約束だった。

２人は映画館に入り、後ろの座席に座った。

美里：緊張する～。

佐藤：あはは、美里ちゃん、出たい時はすぐ言うんだよ～。映画の約束したけど、そこにはこだわってないから～（´∀｀）

美里：うん！

映画が始まってすぐ、辺りは静かになり、美里はガチガチになり座っていた。
その様子を佐藤は横から眺め、クスクス笑っていた。

映画が始まってから４０分程経過した時・・・映画のスクリーンに急におどろおどろしい映像が映りこんだと思ったら・・・

美里：っギャー！！！

美里の悲鳴は映画館に結構な具合で響き、佐藤は映画より美里の悲鳴に驚いた。

佐藤：くっ・・（笑）美里ちゃん・・・くくくっ、出ようか・・・。

美里は映画館が暗かったために解らなかったが、顔を真っ赤にして、これ以上は観れないと思った。佐藤と美里は映画館の外に出ると・・・

美里：！！ごめん！！（T―T）

佐藤：アハハハハ！！！（大爆笑）全然っいいけど！！！まじか～！？

美里：・・・だって！！

佐藤：あ～、お腹痛ぁい！あーごめんごめん、美里ちゃんしっかりしてるイメージしかないからさぁ、意外中の意外だったよ。大丈夫？

美里：大丈夫です・・・ていうか！そんなに笑わないで！！

佐藤：ごめん！時間中途半端だけど何か食べる？

美里：食べる・・・。

2人は喫茶店に入り、昼食をとる事にした。

美里：あ～、やっぱ無理だったわ。

佐藤：だから言ったのにぃ～、けど美里ちゃん約束守ってくれたんだよね～気持ちはちゃんと伝わってるからいいよ～。

美里：約束は約束だけど、途中で放棄しちゃったけどね・・・また別の映画今度観に来よう。

佐藤：え？いいの～！？ラッキ～！

美里：・・・何であたしとそんな映画みたいの？

佐藤：え～、美里ちゃん好きだし～。

美里：あっそ。

佐藤：またまたつれないなぁ・・・美里ちゃんさぁ、何にも考えてないフリしてさぁ、いっつも周りの事考えてんじゃん？で、タイミングもいいし、空気も読むでしょ～？過干渉じゃないし、頭いいよねぇ。俺そういう人に初めて出会ったんだよねぇ～。

美里：・・・・そう。

佐藤：俺さぁ、優しさの押し売りとか、正義感の押し売りとか苦手で～、あ、けど正義感もや優しさも持ってないよりは持ってる方が好きなんだけどねぇ～。美里ちゃんは本当にストライクなんだよねぇ。蓮花ちゃんとも田中とも瀬野とも、いい感じだもんねぇ～。

美里：そう・・・・・・・意外ね・・・。

佐藤：？何が～？

美里：・・・・あたしもそういうの苦手・・・。

美里は価値観が自分と似ているのに少し驚いていた。チャラチャラした奴だな・・・という印象しか持っていなかったが、佐藤に対する印象が少し変わった。

第４２話：美里と蓮花（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第４２話：美里と蓮花

佐藤：あのさ～美里ちゃんはさ、なんで蓮花ちゃんと仲良くなったの？ちょっと興味あってさぁ～。

美里：・・・蓮花と？ええっとねぇ～・・・

中学回想ー

中学時代の美里は男女問わず仲良くなれるタイプだったが、女子とつるむのを苦手としていた。

一方、蓮花は入学当初は容姿端麗で男子中心に騒がれたが、本人の男子嫌いが災いして、次第にその噂は広まっていき、隠れファンという感じにおさまってきていた。

美里も蓮花もタイプこそ違ったが、校内ではどちらも目立つ存在だったのでお互いに認識はしていた。

そして、美里は1人で行動する事が多かったが、蓮花も大概1人で行動していた。というのも蓮花は、男子に騒がれるがゆえに、女子から反感をかう事も多く、そういった事がさらに災いして男子嫌いに輪もかかっていった。

中学3年で同じクラスになった後も1学期はほとんど会話する事なく過ぎた。その頃蓮花は、男子絡みの逆恨みもごく1部だったので、一緒につるむまではいかなかったが、次第に女子とは仲良くできる様になっていた。

そんな夏休み前のある日、１つの事件が起きた。

女子集団：美里ちゃん、絵里がさぁ河野くんの事好きって知ってるよね・・・？

美里：うん、知ってるけど・・・。

女子集団：美里ちゃん最近河野くんと話す事多くない？絵里がかわいそうだよ。

美里：あー・・・そうなんだ・・・だけど、話してるだけで別に好意がある訳じゃないよ？

この頃美里は女子の独特な連帯感が苦手で、女子とつるむのを苦手としていた。

女子集団：そうだけど、こういう時はさっ協力するもんじゃん！

その様子を席が近かった蓮花は、見てはいなかったが、聞こえてきていた。

蓮花：・・・・・。

美里：協力って・・・あたし言ってる事よく解んないんだけど。

女子集団：解んないってっ！美里ちゃん冷たいっ。

美里：え？冷たいって・・・協力って・・・そういう・・・。

女子集団：ねぇ！蓮花ちゃんもそう思うでしょっ！？

女子がいきなり前を向いて座っていた蓮花に問いかけた。

蓮花：は？

蓮花は少し冷めた顔で振り返り、女子集団を見渡して言った。

蓮花：全然冷たくないと思う。

女子集団：えっ！？蓮花ちゃん美里ちゃんの味方なのっ！？

蓮花：あたしはどっちの味方でもないよ。ただ、加藤さんは冷たくないと思うよ。

蓮花は感情的にならず、淡々と答えた。

美里：・・・・・。

女子：だって絵里がかわいそうじゃんっ！？

蓮花：思わないよ？河野くんと話さない事が優しさなの？な訳ないでしょ？河野くんは物じゃないし、そこは自由だよ。
もっと他に協力の仕方あると思うし、屈折してるよ。

女子：あたし達はただっ・・・絵里の為にって・・・。

蓮花：それは解るよ。それが屈折してる。私は、誰かの為ってそういう事じゃないと思う。

蓮花は女子集団の方をまっすぐ見て、堂々と自分の意見を伝えた。

女子：・・・・。

いつも言葉少ない蓮花がはっきりと意見を言ったので、女子もビックリしたと同時に、何も言う事ができなかった。

美里：・・・いや、もういいよ・・・。

蓮花：良くないよ。

美里：え？

蓮花：加藤さんちゃんと協力してるでしょ。絵里と河野くん話でき

る様にアシストしてるでしょ、だから、加藤さんに謝って！

女子集団：・・・・・・・・そうだったんだ・・・・美里ちゃん、ごめんなさい・・・・・・。

美里：いや、別にいいよ。

女子達は、気まずそうに、そそくさとその場を去っていった。

美里：・・・なんか・・ありがと・・・。

蓮花：別に。自分があぁいうの苦手なだけだし、だから自分の為だよ。お陰様でスッキリした。こちらこそ余計な事してごめんなさい。

美里：え？

その瞬間、美里は大笑いした。

美里：アハハハハハッ！何それ～っ。自分の為ってっ。

蓮花：だって加藤さんは別にどっちでも良かったでしょ？

美里：・・・確かに、どっちでも良かったけど・・誤解されようが、されなかろうが・・・けど、単純に嬉しかったから、ありがとう。

蓮花：・・・そ。

この件以来、美里と蓮花はよく話をする様になり2人で行動する事も増え、いつの間にか親友になっていった。

喫茶店ー

佐藤：へぇ～（´∀`）そんな事がね～。

美里：あたしが唯一本音で色々話できる友達かなー蓮花は。多分、あん時、加藤さんの為にっとか言われてたら、余計なお世話とかくらい言ってたかもしんない・・・。

佐藤：なんか蓮花ちゃんに妬いちゃうな～。

美里：は？

佐藤：美里ちゃんと蓮花ちゃんの馴れ初めも聞けたし～、次は水族館行こうか～（´∀`）♪

美里：うん、いーけど。

第４３話：ジンベエザメ（前書き）

男子が苦手だった蓮花はクラスメイトの瀬野と付き合うことになり、父親とも和解しつつあった。そんな中、田中の友人、佐藤が美里の事を好きになり・・・続きは本編でどうぞ・・・

第４３話：ジンベエザメ

佐藤と美里は喫茶店を出ると、近くの水族館へ向かった。

佐藤：美里ちゃん何が見たい～？

美里：ジンベエザメ。

佐藤：・・・ぶはははっ、ジンベエザメか～！

美里：何！可愛らしく、イルカかなぁ～♪とでも言うと思った？

美里は、両手を前で組みながら、瞬きを数回して上目遣いで言った。

佐藤：思わなかったけど、ジンベエザメとは思わなかったなぁ～。

美里：あははっ。ごめんごめん！

佐藤：何で謝るの～？俺こんな風に、イルカかな～♪とか言う女子苦手だし～（笑）

佐藤もさっきの美里の真似をして両手を前で組みながら、瞬きをパチパチッと数回しながら答えた。

美里：あははははっ！やめてよ～っ、あんた変わってるねぇ。大体男子ってそういう子好きじゃん。

佐藤：だねー可愛いとは思うよ～けど、それだけー。それから、拓だよ拓～。名前～。

美里：拓？じゃ～呼び捨てＯＫ？

佐藤：ＯＫ～。だけど何で美里ちゃんジンベエザメなの～？

美里：ん～・・・ジンベエザメってさぁ、群れないじゃん。優雅に堂々と泳いでてさぁ、あんなに存在感あってでっかいのに、性格優しそうだもんねぇ・・・そんな感じの所が見てて癒されるー。

真顔で答える美里を佐藤はじっと見ていた。

佐藤：・・・なんか美里ちゃんみたいだねぇ～。

美里：っえ～！！いや！そんな格好良くないし！！ジンベエ様までには～っ！

普通の女子ならサメという時点で嫌がりそうな所を美里はなんだかうれしそうに冗談めいて、右手を左右に振りながら謙遜していた。

その様子を見た佐藤は、クスクスと笑っていた。

佐藤：美里ちゃんやっぱいいよねぇ～。

美里：は？

佐藤：思った通りの人だ～。じゃぁ俺海みたいな人になろ～。

美里：海？

佐藤：だってジンベエザメが自由に泳げるでしょ～？

美里：・・・海みたいな人・・・考えた事もないけど・・・。

佐藤：あー美里ちゃん冗談だと思ってるでしょ～′、。

美里：冗談意外ないでしょうがっほらっ水族館、着いたしっ！

2人は水族館に入ると、小さな熱帯魚からクラゲ、さらには名前も不明な形の珍しい魚達を見ながら歩いていると、ジンベエザメのコーナーにたどり着いた。

佐藤：美里ちゃん、ジンベエザメ～！

美里：・・・・本当だぁ～・・・。

2人の上をジンベエザメが優雅に泳ぎながら通り過ぎた。

美里：やっぱいいなぁ～。

2人はしばらく上を見たままたたずんでいると、ジンベエザメが角を曲がり見えなくなった。

佐藤：同じ水槽だから歩いてたらまたきっと会えるよ。行こう。

美里：うん。

それから数回ジンベエザメにも無事会う事ができ、満喫した2人は水族館を後にした。

佐藤：良かったねぇ♪

美里：うん良かったぁ♪ここ来るの2度目。行ける距離だとなかなか来ないからさ。

佐藤：良かったぁ美里ちゃんが楽しんでくれて～（＾＾♪そいえばさぁ、美里ちゃんて何のバイトしてんの～？

美里：喫茶店だよ。接客。

佐藤：そっかぁ。今度行くよ～。

美里：え？部活あるから無理じゃん？そういえば今日部活は？

佐藤：今から部活～。喫茶店は1人で行くよ～部活帰りにぃ～。

美里：っえ～！！今から部活！！？？行ってくれれば、またの機会

でも良かったのに！！

美里は驚いて、足を止めて佐藤の方を振り向いて言った。

佐藤：だってうちのサッカー部毎日練習あるから、こんなでもしないと美里ちゃん誘えないもん。

美里：・・・・そうなんだ・・・。

佐藤も美里に合わせて一瞬足を止めて言ったが、また2人ともゆっくり歩き始めた。

佐藤：美里ちゃん、俺の事本気で考えてね～。

美里：・・・・本気なの！？

美里はまた足を止めて、佐藤の方を振り向き言った。

佐藤：やっぱり冗談と思われてる～。

歩きながら答えた佐藤は、美里を振り返りながら言った。

美里：や・・・あたし、年上としか付き合った事ないし・・・。

佐藤：けど、年齢と中身って必ずしも比例しないでしょう？

中学生の頃は勿論上級生と、そして高校では、夏頃まで美里には大学生の彼氏がいたが、束縛もわがままもすごくなり、わずか2ヶ月程度で破局していた。年上だと期待して付き合うと、意外に子供じみていたりして、美里もよく解らなくはなっていた。

美里：・・・そうだね・・・。

佐藤：俺さぁ、恋愛とか全く興味なかったんだよねぇ～。サッカーさえあれば別に何でもいいやって思ってたんだけどさぁ、美里ちゃん見てたら、サッカーもっと頑張れそうだなって思って・・・後は・・・側に居て欲しいから・・・居たいから？かな？。

美里：・・・そう・・・。

佐藤：今すぐじゃなくていいからゆっくり考えて～。俺、気は長いからゆっくり待ってる～。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7611w/

人を好きになる理由

2011年11月10日07時16分発行